

# 永井柳太郎年譜・著作目録

松田 義男 編

改訂 2024 年 3 月 9 日

2002 年 4 月 4 日

## 目次

### I 年譜

### II 著作目録

1. 著書
2. 共著
3. 序文類
4. 評論など（新聞・雑誌掲載）
5. 帝国議会演説
6. 評論集・演説集初出

## I 年譜

本年譜作成にあたっては、『永井柳太郎』（『永井柳太郎』編纂会、1959年）のほか、『早稲田学報』『憲政』『憲政公論』『民政』『読売新聞』『毎日新聞』『東京朝日新聞』等を参照しました。

### 1881(明治14)年

4月16日、永井つる、登(みのる)の長男として石川県金沢市に生まれる。祖父柳左衛門は加賀藩の剣道指南役、母つるは永井家の相続人、父登は婿養子で愛知師範学校出身の教師、金沢での奉職はわずかに過ぎず、岐阜・高知などで奉職。

### 1887(明治20)年

4月1日、金沢市新堅町尋常小学校入学。

### 1891(明治24)年

3月、新堅町尋常小学校卒業。

4月1日、長町高等小学校入学。

### 1893(明治26)年

3月、長町高等小学校卒業。

4月1日、石川県尋常中学校(金沢第一中学校の前身)入学。

### 1895(明治28)年

2月25日、吹雪の中で友人と喧嘩、右足を骨折し入院。

3月、尋常中学校二学年終了後、退学。

父登の京都府北桑田郡周山村高等小学校長転任に伴い、永井家全員が金沢から京都に転居。

### 1897(明治30)年

4月1日、京都同志社中学部第三学年に入る。

### 1898(明治31)年

父登が京都府北桑田郡山国村協一尋常高等小学校長に転任(1898年9月～1917年3月)、一家も山国村に転居。

キリスト教主義をめぐる「綱領削除問題」で外国の宣教師と意見を異にし、同志社社長横井時雄・中学部教頭安部磯雄が辞任することに抗議する学生ストライキに参加、退学処分となることを安部磯雄の配慮により自発的退学となる。

### 1899(明治32)年

関西学院普通学部(中学部の前身)第三学年に入る。関西学院主催の演説会で「病的日本の内科的治療」と題して初めて演説(於神戸美以教会)。

### 1901(明治34)年

キリスト教の洗礼を受ける。

9月、東京専門学校政治経済科(現早稲田大学)に入る。

### 1902(明治35)年

12月3日、早稲田大学雄弁会(総裁大隈重信、顧問高田早苗、会長安部磯雄)創立、学生発起人の一人として同会創立に貢献。

### 1903(明治 36)年

10月26日、青年修養会主催の第6回尾銅山鉱業停止意見発表演説会に「嗚呼鉱毒乎公毒乎」と題して演説(於駒込真浄寺)。27日、青年修養会主催の第7回尾銅山鉱業停止意見発表演説会に「国家経済と鉱毒問題」と題して演説(於神田区鍛冶町今金)。

### 1904(明治 37)年

1月30日、早稲田雄弁会公開演説会で「保護政策とは何の謂そや」と題して演説(於神田錦輝館)、早稲田大学総長大隈重信に注目される。

### 1905(明治 38)年

足の疾患、再発し築地の林病院に入院。

9月、追試験を受けて早稲田大学(学部政治科)を卒業。

12月、清国から派遣された大臣戴鴻慈の財政研究の助手をつとめる。

### 1906(明治 39)年

5月、ユニテリアン団体の推薦でオックスフォード大学の奨学資金を得て、マンチェスターカレッジ留学に決まる。

8月、神戸を出帆。

9月9日(～11月20日)、「永井星洲」のペンネームで『東京毎日新聞』に渡航記が掲載。

10月9日、ロンドン着。

### 1907(明治 40)年

7月、ベルリン着。恩師安部磯雄に「無抵抗主義の学説と絶縁」の手紙を書く。

9月30日、オランダからドーヴァー海峡を渡ってイギリスにかえる。

10月4日、オックスフォード着。

### 1908(明治 41)年

夏季休暇中、左足の疾患で手術するも回復せず、医師から死の宣告を受ける。

### 1909(明治 42)年

11月8日、神戸着、関西学院時代の学友に迎えられる。30日、早稲田大学の帰朝留学生歓迎会に出席。夜、外交時報月次晩餐会に出席、早稲田大学教授塩澤昌貞が社友一同に紹介(於富士見軒)。

早稲田大学教授就任、社会政策及び植民政策をを担当する。

12月22日(～1910年4月3日)、イギリス留学時の見聞記「英人氣質 思ひ出の記」をペンネーム「いろは生」で『時事新報』に連載。

### 1910(明治 43)年

6月19日、惟一館日曜演説で「靈性の解放」と題して演説。

### 1911(明治 44)年

4月3日、『新日本』創刊、編輯主任兼主筆就任。

5月7日、早稲田経済学会に出席。10日、早稲田大学高等予科特別講話で「決闘」と題して講演。28日、前橋市で「殖民と教育」と題して早稲田大学巡回講演。

9月27日、早稲田大学関係者による高杉・内ヶ崎教授帰朝歓迎会に出席(於有楽町日本倶楽部)。

12月15日、早稲田大学雄弁会で「海軍拡張案」の討論に参加。19日、社会政策学会第4回大会第2日、「出産率上の一大危険」と題して講演(於早稲田大学講堂)。

この頃、内ヶ崎作三郎が牧師をつとめる統一基督教会(東京ユニテリアン教会の改称)に入会。

## 1912(明治 45・大正元)年

- 2月、戊申婦人倶楽部例会で「真正の美人」と題して講演。
- 3月、戊申婦人倶楽部例会で「徳利と瓢箪」と題して講演。20日、立憲青年党第2回大演説会に島田三郎等とともに登壇(於神田美土代町青年会館)。
- 4月1日、群馬県館林町で「田舎繁盛論」と題して早稲田大学巡回講演(於富貴座)。13日、早稲田大学政治学会で「労働争議調停策」について研究発表。21日、統一基督教会の理想選挙講演会で「実印の濫用」と題して演説。
- 7月21～30日、早稲田大学講習会で「現代国民生活の最低限度」と題して講義(於東京市)。
- 9月21日、新来学生歓迎会で「自殺論」と題して講演。
- 10月2日、シアトル観光団の招待会に出席(於大隈邸)。21日、自宅で基督教同志会例会を開催(内崎作三郎「明治日本の精神界」に関し講演)。
- 12月8日、早稲田大学雄弁会懸賞演説大会午後の部に臨み批評及び当選者報告。14日、早稲田大学第9回政治学会に出席(於恩賜館)。
- 早稲田教会で「神秘の威厳」と題して講演。

## 1913(大正 2)年

- 1月25日、早稲田大学第10回政治学会で、ノーマン・エンゼル『現代戦争論』の研究をテーマとして提出し安部磯雄等と討議。早稲田大学基督教青年会の講演会で「活人論」と題して講演。
- 2月10日、日本基督教青年会同盟関東総会で「耶蘇の社会観」と題して演説(於早稲田大学青年会本部友愛学舎)。22日、日本メソヂスト牛込教会修養会で講演。
- 4月5日、全国基督教青年会大会(4月1～5日)閉会後の早稲田大学青年会招待会で挨拶(於大隈邸庭園)。19日、都下の各大学出身者によって組織された青年団義会が主催する排日問題演説会に、山路愛山、蔵原惟郭とともに出席、座長に推され、「米国大統領に反省を促す可し」と題して演説(於神田青年会館)。この月、早稲田大学基督教青年会の会長に推される。
- 5月11日、早稲田大学校友演説大会に臨み、「卒業生諸君に贖す」と題して演説。17日、日米同志会有志の発起にかかる対米問題大演説会に、林毅陸、島田三郎とともに登壇、「加州問題の世界的背景」と題して演説(於東京本郷座)。
- 10月21日、早稲田大学校外教育大講演会で「戦争の意味」と題して講演(於本郷中央会堂)。
- 11月27日、大日本平和協会神戸支部主催の平和講演会で「世界の日本、世界の平和」と題して講演(於神戸市青年会館)。

## 1914(大正 3)年

- 1月7日、早稲田大学巡回講演講師として、埼玉県北埼玉郡羽生町青年団嫩会の招聘に応じて「国内の日本人と国外の日本人」と題して講演(於羽生町劇場)。
- 3月8日、早稲田大学巡回講演講師として、茨城県古河町教育会の招聘に応じて「最近の外交及び国旗の由来」と題して講演[『雄弁』5・4、1914年4月1日によると、3月8日、日本社会学院(建部遜吾・米田庄太郎等が1913年創設)の講演会で「殖民地の混血児」と題して講演(於帝国大学)]。
- 4月24日、三浦次代と結婚式挙行。
- 5月3日、早稲田組合教会の春季講演会で「傍若無人論」と題して講演。23日、基督教土曜講演で「社会問題の基督教化」と題して講演(於中央会堂)。
- 7月13日(～18日)、統一基督教会の第3回夏期講習会で「文明史上に於ける基督教徒の一大貢献」と題して講演。18日、立憲青年党演説会に登壇予定(於神田青年会館)。21日～30日、校外教育部中央夏期講習会で「最近外交に於ける裏面の勢力」と題して講演(於早稲田大学大講堂)。
- 11月22日、茨城県猿島郡教育会の招聘に応じ「大戦の由来に就いて」と題して講演(於古河町小学校)。
- 石川県大隈後援会(9月10日創立)の演説会で立憲政治を説く。

## 1915(大正 4)年

- 1月30日、雄弁会主催時局問題演説会で「増師問題と外交問題」と題して講演。
- 3月14日、第27期早稲田擬国会で、植民大臣を務める。
- 4月15日、丁未倶楽部主催政談演説会に、安部磯雄、浮田和民等とともに登壇予定(於神田青年会館)。

- 5月24日、長男明雄生まれる。
- 8月1～8日、朝鮮京城における早稲田大学校外教育部講習会で「殖民地に於ける原住民政策」と題して講演(於京城高等女学校)。その後、満州を視察。18日、撫順着、早稲田校友会に出席(於撫順炭坑倶楽部楼上)、同日、奉天に向かう。
- 9月10日、早稲田青島校友会主催の歓迎会に臨み(於舞鶴浜グランドホテル)、その後「日本人の世界的活動」と題して講演(於静岡町)、12日、青島出帆、帰国の途に就く。
- 10月2日、早稲田大学校外講義で「我觀支那」と題して講演。24日、早稲田大学校外教育で「ローランドヒルを思ふ」と題して講演(於茨木県土浦町)。
- 11月13日、早稲田大学校外教育で「旧東北より新東北へ」と題して講演(於宮城県遠田郡郷村)。21日、雄弁会秋季大会で「会長に代りて」と題して演説。

### 1916(大正 5)年

- 2月12日、戊申婦人倶楽部例会で「敵か味方か」と題して講演(於神田一ツ橋女子職業学校)。
- 3月19日、早稲田大学天野学長に随行して東京発、20日、福井着、「世界的競争の時代」と題して講演(於福井中学校)、講演後、同地の校友会に出席(於五岳楼)。21日、金沢着、石川毎日新聞主催講演会で「世界の現勢」と題して講演(於金沢市公会堂)。22日、官民連合開催の天野学長歓迎会に列席、23日、金沢発、24日朝、直江津を経由して上野着。
- 4月20日、故松枝徳磨君追悼演説会に登壇(於早稲田大学大講堂)。
- 5月27日、天野学長に随行して東京発、28日、新潟県長岡市着、「武装的産業論」と題して講演(於長岡座)、女子教育会の依頼により「自然美と人性美」と題して講演(於長岡女子師範学校)、講演後、新潟県校友大会に出席、一行を代表して謝辞、29日、新潟着、新潟市校友会主催の小宴会に出席、30日、新潟発、夜、上野着。
- 7月23日、大阪出帆、27日、大連着。
- 8月、奉天で、大隈重信の紹介により矢田総領事に面会、6日、矢田の紹介により奉天將軍張作霖と会見、7日、『大阪毎日新聞』に張作霖との会見が報じられる。南満州鉄道沿線の視察を終え、暫時吉林に滞在、9日夜、ハルビンに到着。14日、大隈重信に張作霖との会見の要点を報告する等の書簡を執筆。ハルビンを出発し、船で松花江及び黒竜江を下航しハバロフスクに赴き、鉄道でウラジオストックに出て元山・京城・釜山を経て帰途に就く。
- 9月7日、帰国。16日、早稲田大学大民団主催大民主義宣揚大演説会で「青年活動と天地」と題して演説(於早稲田大学大講堂)。
- 10月13日、長女愛子生まれる。

### 1917(大正 6)年

- 1月20日、早稲田大学雄弁会で「青年をして其天職を遂げしめよ」と題して演説。
- 3月20日、第13回総選挙に立候補した小山東助のために、安部磯雄・吉野作造・島田三郎・内ヶ崎作三郎等とともに仙台に向かう。
- 4月1日、第13回総選挙の立候補演説(於金沢市)。20日、落選。22日、感謝演説(於金沢市兼六公園)。
- 5月12日、自由基督教会春季講演会で、内ヶ崎作三郎、島田三郎とともに登壇し、「天人一体」と題して講演。26日、帝国連合青年会で「改造の天職」と題して演説予定(於明治大学記念館)。
- 6月、早稲田工手学校生徒大会で「苦学生を祝す」と題して演説。
- 7月20～29日、早稲田大学校外教育部中央暑期講習会で「社会問題解釈法」を講義。
- 9月4日、早稲田騒動により早稲田大学理事会から教授解職の通知、および『新日本』主筆解職。
- 10月中旬～、中国中部・南部及び南洋方面(マレー半島ジョホール州)を視察旅行。

### 1918(大正 7)年

- 3月8日、海外植民教育会主催の植民講演会で「植民と社会問題」と題して演説(於大阪市天王寺公会堂)。15日、青年会館で「晩鐘曉鐘」と題して講演。
- 4月10日、海外植民学校設立記念講演会で「世界をして全人類の世界たらしめよ」と題して演説(於東京青年会館)。
- 5月24日、植民講演会で「戦後の亜細亜」と題して講演。

- 6月5日、欧米巡遊の途につく。20日、シアトル着。24日、早大校友会主催の歓迎会に出席、その後、校友会主催の講演会で演説(於日本館)。
- 7月1日、シアトルで開催された沿岸連絡日本人会協議会(～3日)を傍聴。2日、北米日本人会主催による沿岸各地日本人会代議員招待会に列席。3日、日本郵船会社が碇泊中の加茂丸に沿岸各地日本人会代議員を招待した晩餐会に列席。6日、連絡日本入会主催の懇話会に出席し演説(於実業倶楽部)。12日、ホーム講演会で家庭及び教育に関する講演(於日本館)。14日、バンクーバー視察予定。24日、シアトル同胞30余名を招待して晩餐会を開く(於日本茶寮)。26日、シアトル発、27日、ポートランドのマルトノマ滝などを観光、28日、ポートランド日会主催青年会の講演会で「新日本の建設より新世界の建設へ」と題して講演、夜、オレゴン州日本人会主催の歓迎会に出席。29日、オレゴン州日本人会主催青年会の講演会で「新日本の建設より新世界の建設へ」と題して講演(於仏教青年会)。
- 8月1日、サンフランシスコ着。3日、サンフランシスコ日本人会による公開講演会で「余は日本人として生れしを光榮となす」と題して講演(於リフォームド教会)。4日、カリフォルニア大学を参観。9日、オークランドの在留日本人洗濯事業所・堂元花園、アラメダの造船工場を視察し。オークランドの有志晩餐会に臨み(於日本倶楽部)、晩餐会後、「暮鐘暁鐘」と題して講演(於シャボット会館)。11日、湾東平信徒同盟主催による講演会で「日本及び日本人の再生」と題して講演(於王府独立教会)。16日、仏教青年会館で「自然美と人間美」と題して講演。17日頃、カリフォルニア州労働同盟会書記長シャーレンバーグと会見。20日、フレズノで日本人墓地およびクローヴィスの農園を巡視、日会主催の晩餐会に出席し、仏教会堂で講演。21日、フレズノからロサンジェルス着。22日、ロサンジェルス日会主催の演説会に登壇(於テンペランス・ホール)、23、ロサンジェルス付近を観光、26日、サンペドロ港を見物の予定。27日、学生会修養団・本願寺仏教青年会による晩餐会に招待(於東京楼)、晩餐会後、「思想上に於ける新生面」と題して講演(於エルクスホール)。29日、石川県有志による午餐会に招かれる。夜、オレンジ郡サンタアナ、スメルズ、オレンジ、アナハイム日本人会合同主催講演会で「新日本の建設より新世界の建設」と題して講演(於ガーデングローブ白人ホール)。31日、ロサンジェルスからサンフランシスコに向かう。
- 9月3日、カリフォルニア州サクラメント市州立物産展覧会のジャパン・デイで「日本参戦の理由とその効果」と題して英語演説。24日、サンフランシスコ発ソルトレイク市に向かう。ソルトレイク市で2回の講演の後、シカゴに向かう。
- 10月7日、ニューヨーク着。
- 11月4日、紐育新報社社主が主催する晩餐会に出席。17日、修道会の招聘に応じ講演(於日会々館)。18日頃、ボストン地方に旅行、22日、ニューヨークに戻る。23日、日本人会主催の後援会で「欧州戦乱と世界の改造」と題して講演(於日会々館)。
- 12月、ホリヨーク、ボストン、ニューヘブレン地方を歴遊して、7日頃、ニューヨークに戻る。？日、コロンビア大学で演説、地元新聞で演説を知った片山潜から連絡があり、再会。16日、日本人学生青年会で「奈翁踐戦後の欧州と世界大戦後の世界」と題して講演。17日、ワシントンに赴く。

### 1919(大正8)年

- 2月7日、南部諸州の視察を終えてニューヨークに戻る。
- 3月1日、ニューヨークを発ち、欧州に向かう。
- 5月17日、ロンドン出帆。
- 7月2日、神戸着、大阪市中ノ島公会堂で「欧州より米国へ、米国より何処へ」と題して公開演説。10日、憲政会茶話会で「巴里講和会議の真相」と題して講演(於憲政会本部)。12日、金沢で「欧州政情報告演説会」を開く。帝国連合青年会主催新帰朝者歓迎講演会で中野正剛、長島隆二等と共に登壇、「那翁戦後の政治革命と世界大戦後の経済革命」と題して講演。
- 8月17日、下谷新聞主催講和問題演説会で中野正剛とともに登壇予定(於上野広小路鈴木本亭)。18日、改造同盟発起人総会に臨み宣言書を発表、高木正年、植原悦次郎、古島一雄、関和知、杉村広太郎、長島隆二、中野正剛、馬場恒吾、小松緑、満川亀太郎、松森孝次郎等とともに実行委員に推される(於日比谷松本楼)。22日、改造同盟主催の講和大使問責大演説会で、長島隆二、中野正剛とともに登壇し、「他力政治より自力政治」と題して講演(於神戸基督教青年会)。26日、小山東助仮葬式に島田三郎、吉野作造、内ヶ崎作三郎等と共に参列(於鎌倉)。28日、外交問責大会で「我が講和使節は一世遅刻せり」と演説(於築地精養軒)。
- 10月14日、改造同盟主催の普通選挙演説会に、長島隆二、植原悦二郎等とともに登壇予定(於神田青年会館)。

### 1920(大正9)年

- 2月3日、全国労働団体の連合大会で中野正剛等とともに演説(於上野公園)。
- 5月10日、第14回総選挙に当選。
- 6月18日、新婦人協会主催演説会で「凡ての本位を改むるの時代」と題して講演。25日、憲政会に入党。

- 7月8日、第43回帝国議会議院で「西にレーニン、東に原敬」で知られる原内閣批判の演説(この演説で5日間の登院停止処分を受ける)。18日、新婦人協会主催婦人団体連合講習会で「全ての本位を改める時代」と題して講演(於神田明治会館)。22日、「メツテルニヒ今何処ぞ」と題して民権自由の擁護演説(於東京神田青年会館)。
- 8月3日、改造同盟主催演説会に馬場恒吾、鈴木文治、中野正剛等と登壇予定(於神田青年会館)であったが足痛で欠席。
- 9月2日東京発、4日、金沢市で遊説、5日、第43議会報告演説会開催(於兼六公園)。その後、福井(9日、福井立憲青年の発会式に臨み演説)、石川、富山、長野を遊説。26日、国民婦人会第1回講演会で「予の婦人観」と題して講演。
- 10月2日、長野県上田町に赴き、信濃黎明会発会式及び講演会に臨み、馬場恒吾、中野正剛とともに登壇、「暮鐘曉鐘」と題して講演(於上田劇場)。同上田町で憲政会の遊説。9日、愛媛県松山市で遊説。11日、四国より神戸着。12~14日、兵庫県(神戸市、明石町、姫路市)、19日、大分市青年会、20日、下関市で地元代議士の応援演説「暮鐘曉鐘」(於弁天座)、21日、熊本市の九州大会(於熊本公会堂)並に演説会(於大和座)、23日、福岡県若松市、24日、八幡市で遊説、25日、広島市で中国四国憲政大会に臨み、大会後の演説会に登壇(於寿座)。27日、憲政会近畿大会に臨み、大会後の演説会で「第二維新の大同團結を図れ」と題して演説(於京都市公会堂)。29~31日、富山県(福光町、山田町、高岡町、新湊町、富山市、滑川町、魚津町)を遊説。
- 11月27日、長野市を遊説。
- 12月1日、対米問題連合大会に出席(於日本倶楽部)。11日、加州排日問題連合会主催排日問題大会に出席し、大隈重信、鈴木文治とともに演説(於築地精養軒)。12日、学生主催の対米大会で中野正剛等とともに演説(於上野公園)。21日、市政問題について中野正剛、鈴木文治とともに青年会館で演説。

### 1921(大正10)年

- 3月27日、岐阜県大垣市に遊説。
- 4月4~6日、長野県下(松代町、上山田、牟礼、吉田、須坂)を遊説。10日、栃木県鹿沼町に遊説。
- 5月23日、静岡県(賀賀町、浜松市)に、25日、近畿大会並に演説会(大阪市中央会堂)に、27~30日、長崎県下(長崎市、諫早町、島原町、佐世保市)を遊説。
- 6月1日、福岡県下(尚方町、飯塚町、折屋町、戸畑町)を遊説。27日、北海道旭川区補欠選挙応援、28日~7月1日、北海道内(札幌、小樽、室蘭、函館ほか6ヶ所)を遊説。
- 8月26日、仁井田益太郎、松波仁一郎、建部遯吾、寺尾亨、添田寿一、中村進午、戸水寛人の七博士の主唱に係る太平洋會議の対策研究を目的とする第一回会合に出席(於麹町富士見軒)。
- 9月18日、憲政会第2回北陸大会に臨み、大会後の演説会に登壇(於新潟市大鶴座)。19~23日、新潟県下(沼垂町、中蒲原郡、新潟市、新発田町、長岡市、柏崎市)を遊説。29日、東京朝日新聞社主催学生連合時局講演会で中川竹三、吉野作造、鈴木文治とともに講演(於青年会館)。
- 10月1、2、4日、栃木県下(足利町、佐野町、田沼町、大田原町)を遊説。5日、栃木県矢板町、福島県白河町を遊説。
- 11月6日、福島県補欠選挙応援。

### 1922(大正11)年

- 2月5日、国民新聞社主催学生時局研究会で普選問題講演会に登壇(於日本大学大講堂)。11日、仙台市の普選大会に臨む。19日、第3回普選大会に臨み演説(於赤坂山王台)。23日、第45回帝国議会議院で普選案賛成演説。
- 3月1日、中央法律新報社主催の過激運動取締法案反対演説会に、末広敏太郎・安部磯雄・福田徳三等とともに登壇(於神田青年会館)。
- 4月10日、憲政会主催内閣弾劾演説会で普選断行を訴える(於神田青年会館)。
- 6月27日、「大正維新を断行せよ」と題して演説(於神田青年会館)。
- 8月1日、宮城県塩釜町小学校で講演、2日、古川町古川座で講演。3日、角田町高等女学校で講演。5日、若柳町若柳座で講演。4日、早稲田大学宮城県校友会大会に出席。
- 9月17日、山形県米沢市で憲政会東方二十六州会に臨み演説。22日、自由討究社主催朝鮮問題講演会で「共存共栄の大帝国」と題して講演。
- 10月7日、憲政会金沢支部発会式に臨む。8日、福井市で青年党連合発会式に臨み演説、9~12日、福井県下(大野町ほか7ヶ所)を遊説。13~21日、石川県下を遊説、22~25日、富山県下を遊説。26~30日、新潟県下(柏崎町ほか7ヶ所)を遊説。
- 11月2日、福島県喜多方町で演説。3、4日、栃木県下(鳥山町、馬頭町)を遊説。16~18日、島根県下(益田町ほか4ヶ所)を遊説。19日、鳥取市で遊説。20日、立憲興民会主催の演説会で「生きんとする者よ立て」と題して演説(於神戸市下山手青年会館)。21~23日、兵庫県下(神戸市、明石町、武庫村)を遊説。

## 1923(大正 12)年

- 1月30日、第46回帝国議会衆議院で社会政策に関する質問演説。
- 2月16日、大阪各新聞通信社主催第2回普選即行関西新聞記者大会後の演説会に尾崎行雄等とともに登壇(於中之島公会堂)。
- 3月15日、第46回帝国議会衆議院で対支外交について質問演説。30日、読売新聞社の巡回大学で講演(於高崎市高盛座)。
- 4月14日、読売巡回大学で「新国民主義」と題して講演(於茨城県稲敷郡朝日村荒川沖)。25～27日、長野県下(上諏訪町、岡谷町、長野町、松本市)を遊説。26日、最近宗教思想界批判講演で「神を求むる心」と題して講演(於金沢市松山寺読書会)。29、30日、新潟県下(新津市、新飯田町)を遊説。
- 5月6日、憲政会石川県支部総会に出席。14日、愛媛県松山市の憲政会中国四国大会に臨む。28日、福島県小名浜町、植田町を遊説。29、30日、宮城県下(仙台市、石巻町)を遊説。
- 6月15日、東京発、17日、神戸を出帆、中国視察(青島、北京、天津、満州)に向かう。
- 8月8日、奉天で稲門関係者による歓迎会に臨み「支那視察団」。12日、帰国(門司着)。
- 11月10日、国際聯盟協会主催休戦五周年平和記念大会の講演会で「廢墟の中より生れ出たる新文化」と題して講演(於芝公園協調会館講堂)。28日、大震災記念講演で「廢墟の中より生れ出づる新文化」と題して演説(於金沢市公会堂)。
- 12月15日、第47回臨時議会衆議院で、震災直後の不祥事件、震災による罹災民救護について質問演説。

## 1924(大正 13)年

- 1月11日、都下有志新聞記者の発起にかかる衆議院各派有志代議士の連合協議会に臨み演説(於丸の内中央亭)。22日、第二憲政擁護会主催による四頭首並に憲政擁護派に属する代議士の招待会で、高橋是清、加高明、犬養毅、尾崎行雄等とともに演説(於上野精養軒)。30日、憲政擁護関西大会に臨み、大会後の演説会に登壇(於中央公会堂)。
- 3月2～4日、新潟県下(新潟市、新津町、長岡市、川上町)、18日、埼玉県松山町、21日、富山県(氷見町、小杉町)、22日、京都市、23日、大阪市、24日、三重県上野町、25日、岐阜県(関町、八幡町)、28日、栃木県(今市町、日光町)、29日、福島県平町を遊説。30日、憲政会から宮城県四区で立候補した内ヶ崎作三郎の応援演説(於古川町古川座)。31日、岩手県盛岡市の原敬の旧選挙区から衆議院議員選挙に立候補した高橋是清のため、「国難に直面して」と題して応援演説。
- 5月10日、第15回総選挙に当選。24日、尼港惨虐記念碑序幕式に後藤新平とともに出席。
- 6月27日、護憲三派の有志並に新聞記者有志の発起に係る貴族院制度改革の有志大会に臨む(於政友会本部)。
- 7月1日、第49回帝国議会報告演説で「民衆立国」を説く(金沢市尾山座)。
- 8月3日、秋田魁新報社主催夏季講演会で「大正維新は東北より」と題して講演。12日、第1次加藤高明内閣(護憲三派内閣)下に、政務次官・参与官を新設する各省官制通則改正公布、外務参与官就任。
- 10月11日、雑誌『改造』の座談会「対支国策討議」に、長谷川如是閑、堀江帰一、吉野作造、米田実、福田徳三、小村俊三郎、山本実彦とともに出席。16日、関西学院創立記念大講演会で「近代外交の理想」と題して講演(於関西学院中央大講堂)。30日、第5回三越講演会で「現代思想の基調と共存共栄の世界」と題して講演。

## 1925(大正 14)年

- 1月11日、時局大講演会に登壇予定(於東京駅前工業倶楽部)。
- 4月26～28日、島根県(木次町、県下2か所、津和野)を遊説。
- 5月22日、憲政会北陸大会に臨み、大会後の政談演説会に登壇(於富山市帝国館)。
- 6月13日、「労働即礼拝」と題して宗教講演(於金沢市仏教会館)。
- 7月22日、横浜同志会発会式後の大演説会に登壇(於横浜市松ヶ枝町角力常設館)。
- 8月2日、第二次加藤内閣(憲政会単独内閣)成立、外務参与官留任。5日、江東憲政会主催政党内閣成立記念祭演説会に登壇(於本所区押上演芸場)。20日、早稲田大学関係者による新任政務官招待会に出席(於芝公園紅葉館)。
- 10月13日、東京帝国大学弁論部で「現代政治の理想」と題して演説。19日、東北各地遊説の途次、岩手県から青森着、八戸町で演説、同夜、青森市着、20日午前中、市中見学、正午、青森県立憲青森党結党式に臨み「困難に直面して」と題して演説(於歌舞伎座)、引き続き、青森高等女学校講堂で婦人のために講演、その後、官民合同の歓迎会に出席、さらに校友会青森支部主催の歓迎会に出席(於精洋軒)、同夜、二箇所の政治演説会に登壇し、弘前に赴く。
- 11月1日、青森から島根に至る日本海沿岸11府県の日本海青年党聯盟発会式で「新興勢力の抬頭を祝し



て」演説(於金沢市)。

### 1926(大正 15・昭和元)年

- 1月30日、第1次若槻内閣成立、外務参与官留任。
- 4月17日、憲政会関西大会および大阪支部大会に臨み、大会後の演説会に登壇(於大阪新世界国技館)。
- 9月4日、日本海青年党連盟第2回大会で「新興勢力の一大使命」と題して演説。8日、東北、北海道青年連盟第2回大会来賓として出席、大会後の演説会に登壇(札幌松竹座)。
- 10月11日、遊説の途次、若松着、同地校友会に臨む。13日、佐賀市着、大隈侯生誕地公園、江藤新平記念碑を見学し、大隈侯墓前(龍泰寺)を詣で、校友会主催の歓迎会に臨み(於精養軒)、その後、「大衆立国」と題して演説(於佐賀市公会堂)、14日、唐津町で演説、15日、佐賀市から長崎市に向かう。

### 1927(昭和 2)年

- 4月17日、若槻内閣総辞職により外務参与官辞任。
- 5月6日、第53回臨時議会衆議院で、政府の一般施政の方針に関して緊急質問。
- 6月1日、立憲民政党創立、記念演説会で「私は民政党をして何を為さしめんと欲するか」と題して演説(於東京青山会館)。10日、民政党第1回政務調査総会で対支問題特別調査委員会委員に指名される。11日、大阪市有恒俱樂部で「ウイルソンからムツソリーニまで」と題して講演。
- 7月3日、民政党石川県支部発会式に臨み、式後の政談演説会に登壇(於金沢市帝国座)。
- 10月9日、大日本雄弁会講談社主催雄弁大演説会で「傍若無人論」と題して演説(於東京青山会館)。27日、山形県東置賜郡で置賜立憲青年党発会式に出席し、式後に演説。
- 11月22日、民政党関西大会に臨み、大会後の演説会に登壇(於大阪中之島中央公会堂)。

### 1928(昭和 3)年

- 2月20日、第16回総選挙(第1回普通選挙)に当選。
- 3月18日、民政党福岡県支部主催内閣倒壊全九州大会で「時代錯誤の田中内閣を倒壊せよ」と演説。20日、山口県下関市の民政党倒閣演説会で「現下の政局」と題して演説(於弁天座)、演説後舞台裏の奈落に転落し負傷、地元ホテルで療養。  
この月、北陸毎日新聞社長に就任(～1929年2月)。
- 4月8日、負傷が癒え、下関から帰京の途につく。
- 5月4日、第55回帝国議会衆議院で、山東事件の報告について質問演説。
- 6月12日、早稲田大学科外講義で「支那外交大観」と題して講演(於大隈講堂)。13日、婦人矯風会主催パトラー夫人誕生百年記念講演会で「人間性の解放」と題して講演。30日、大倉高等商業学校で「支那新旧勢力の衝突」と題して講演。
- 9月15日、富山県婦人会大会で「太陽主義」と題して講演。
- 10月14日、民政党東海大会で演説(於名古屋市御園町御園劇場)。26日、石川県大野町における永井柳太郎後援会発会式に出席。
- 11月1日、立憲民政党石川県支部大会に臨み支部長に選任(於金沢市香林坊帝国座)。

### 1929(昭和 4)年

- 1月22日、第56回帝国議会衆議院で、対支外交について質問演説。
- 2月、北陸毎日新聞社長を辞任。
- 3月5日、倒閣聯盟主催の田中内閣打倒国民大会で、尾崎行雄、鶴見祐輔、山道襄一、内田良平、川崎克氏らとともに登壇(於上野公園)。24日、都下各大学々生主催政局批判演説会で「第二維新の指導精神」と題して演説(於東京青山会館)。
- 4月22日、報知新聞社主催第五十六議会批判講演会で「打倒掠奪政治」と題して講演。
- 5月8日、立憲民政党本部から埼玉県粕壁町に、11、12日、大阪市・岸和田市ほか数カ所に、14日、京都市の倒閣演説会に、26日、長野市に特派。
- 6月5日、立憲民政党本部から茨城県結城町に、18日、神奈川県川崎市に特派。29日、国際連盟協会第5回評議員会に出席(於丸ノ内国際聯盟協会)。
- 7月2日、浜口内閣が成立し、4日、外務政務次官に就任(～1931年4月13日)。
- 9月19日、駐日支那公使汪榮宝氏主催の南京使節張継氏を中心とする茶話会に若槻礼次郎、幣原外相、頭山満等と共に列席。22日、議会報告演説会で「民政党は挙党殉国の意気」と題して演説(於金沢市公会堂)。

堂)。28日、関西学院創立40周年記念式に出席、祝辞演説で「敬天愛国」を説く(於関西学院大講堂)。  
11月10日、救世軍中将エバンゼリン・ブース女史歓迎講演会で徳富蘇峰等とともに登壇(於日比谷公会堂)。  
20日、大日本雄弁会談話社の社員会で「私は労働者たるを誇る」と題して講演。

### 1930(昭和5)年

2月20日、第17回総選挙に当選。  
6月2日、外務省政務次官として来日中の殷汝耕と会見(於東京会館)。  
7月、日本女子大学桜楓会夏期講演で「世界思潮の三大激流」と題して講演(於軽井沢)。  
7月19日、蘭領印度協会創立協議会に出席(於永田町外務次官々邸)。20日、民政党大演説会で「新世界建設を目標として」と題して演説(於日比谷公会堂)。  
8月20日、民政党主催大演説会で「幣原外交の根本方針と倫敦条約」と題して演説(於日比谷公会堂)。  
10月8日、中国視察のため東京を発つ。10日、上海着。17日、南京で、国民政府外交部長王正廷と会見、さらに胡漢民、宋子文等と会見したのち、王正廷主催の歓迎会に臨む。18日、王家楨、王寵惠等を訪れ、国民政府主席蒋介石と会見。20日、行政院長譚延闓の国葬に参列、22日、南京を出発。23日、上海着、上海婦人会の茶話会に臨む。25日、上海から青島着。27日、済南着、総領事の晩餐会に出席。30日、大連着、市内各所を視察。31日、旅順に赴く。  
11月2日、大連から天津に向かう。7日、天津で汪兆銘と会う。北京から奉天、京城、釜山を経て、15日、帰国(下関着)。  
12月7日、民政党石川県支部大会に臨み、閉会後の政談演説会に登壇(於金沢公会堂)。

### 1931(昭和6)年

1月15日、後援会組織である東京柳会発会式で、中国視察の報告講演。20日、民政党第5回大会に臨み、大会後の総裁招待会で五分間演説(於上野精養軒)。  
3月27日、婦人同志会主催第59議会批判演説会で「婦人と児童の将来」と題して講演。  
4月13日、浜口内閣総辞職に伴い、外務政務次官を辞任。16日、民政党若槻総裁の指名で総務に就任。  
6月2日、金沢民政倶楽部総会に臨み顧問就任、祝辞演説、総会後の歓迎園遊会に出席(於尾山神社境内常設運動場)。6日、普通選挙7周年祝賀会に出席(於金沢市公会堂)。24日、駒澤大学弁論部主催現代思潮講演会で「宗教なき労働と労働なき宗教」と題して講演(於日比谷公会堂)。  
8月29日、浜口雄幸葬儀に列席(於日比谷公園旧音楽堂)。  
9月7日、民政党東海十一州大会並に三重支部総会に臨み、大会後の政談大演説会に登壇(於津市寒松院)。  
12月13日、民政党臨時総務会に出席。14日、民政党幹事長に就任(～1932年5月26日)。22日、民政党議員総会で幹事長として開会の辞(於本部)。  
若槻首相に重大進言(陸海軍を国防軍とし国防大臣を文官とすること、社会省または労働省を設けること等を中心とする)。

### 1932(昭和7)年

1月19日、議員総会で幹事長として開会の辞(於本部)。21日、民政党若槻総裁より公認候補者を決定する選挙委員会(委員11名、理事4名)の委員に指名される。  
2月20日、第18回総選挙に当選。  
3月1日、民政党議員総会で「国民生活再建に向て進軍せよ」と演説(於本部)。10日、荒木陸相を始め陸軍当局を丸の内常磐に招待し対支時局を中心に意見交換。  
4月16日、「国家主義大衆党の檄」と題する声明を発表。20日、日本国民社主催日本国民大演説会で「日本再建の指導精神」について演説(於両国国技館)。28日、故総長大隈侯爵十年祭記念式で追悼演説、式後の記念講演会で「老侯は正宗の名剣」と題して講演(於早稲田大学大隈講堂)。  
5月26日、斎藤内閣成立、拓務大臣として入閣。  
6月16日、拓務省創立三周年記念祝賀会を開催(於拓務省大臣官邸)。17日、婦人同志会主催講演会で「ある世界からあるべき世界へ」と題して講演(於白木屋ホール)、台湾文化普及会主催第37回台湾始政記念の夕に出席(於朝日講堂)。28日、早稲田大学・早稲田大学校友会連合による拓相政務官法制局長官就任祝賀会に出席(於上野精養軒)。  
7月5日、民政党幹部会に出席し青年部設置を了承。救世軍主催山室軍平還暦祝賀会で「彼若し救世軍に加はらざりしならば」と題して講演(於日比谷公会堂)。12日、満州国大博覧会開会式に出席し祝辞(於両国国技館)。25日、地方長官会議最終日に訓示(於内務省)。27日、東洋協会主催東洋現勢研究会第47回例会に招かれ時局講演(於大阪ビル集會室)。

- 9月16日、東洋協会・中央満蒙協会・東亜経済調査局主催の満州国承認祝賀会に臨む(於丸の内東京会館)。19日、在京の関西学院出身者による入閣祝賀同窓会に出席し挨拶(於丸の内日本工業倶楽部)。26日、永井拓相歓迎会に出席(於金沢市尾山神社境内)。
- 11月7日、日満経済統制第1回懇談会を開会し挨拶(於拓相官邸)。
- 12月18日、青年教団主催教化大講演会で「民族独自の生存権」と題して講演(於日比谷公会堂)。

### 1933(昭和8)年

- 1月19日、民政党院外団大会に来賓として出席し演説(於丸の内中央亭)。20日、民政党第7回大会に出席、党役員人事で顧問に指名(於上野精養軒)。21日、第64回帝国議会貴族院で、外地に対する教育方針について答弁、23日、衆議院で軍縮案に関して答弁、25日、道会、在満朝鮮人保護等について答弁。27日、社会主義者堺利彦の社会葬による一般告別式に参列(於青山斎場)。
- 2月2日、第64回帝国議会貴族院本会議で、子爵三室戸敬光が堺利彦告別式への参列を非難、辞任を迫る。
- 4月24日、地方長官会議最終日で拓相として訓示(於内務省内会議室)。
- 5月10日、海外の日本社主催ブラジル移民二十五周年記念講演会で講演(於赤坂三會堂大講堂)。
- 6月6日、名古屋から大阪着、大阪商工会議所・大阪工業会主催の歓迎晩餐会に臨み「対満蒙経済政策に就て」講演(於大阪倶楽部)。8日、同志社校友会で「同志社の使命」と題して講演(於同志社ファウラー礼拝堂)。17日、台湾文化普及会主催第37回台湾始政記念の夕で講演(於朝日講堂)。22日、日本学生東亜連盟主催講演会で「青年日本の建設」と題して講演(於日本青年館)。
- 7月31日、平岩愷告別式に参列(於青山学院大講堂)。
- 8月10日、日本白十字会主催結核予防講演で「汝生きんと欲せば人と俱に生くべし」と題して講演。23日、報知新聞社主催「樺太の夕」で「樺太の認識を新にせよ」と題して講演(於報知新聞社本社講堂)。
- 9月8日、「その時々の世界の縮図」と題してラジオ講演。10日、中央公論社主催シェクスピア全集出版記念講演で「プレーン・トラストとしての沙翁」と題して講演。19日、閣議の席上、会期の延長、政府権限の強化等の議会政治改革を提言。
- 11月18日、日満実業協会創立祝賀会に来賓として挨拶(於帝国ホテル)。
- 12月15日、教文館及び米国聖書教会開館式で「日本文化に与へた基督教の貢献」と題して祝辞演説。

### 1934(昭和9)年

- 3月25日、第65回帝国議会で衆議院議員を代表して中橋徳五郎追悼演説。
- 5月8日、大日本連合母の会主催母の慰安会で「母は家庭の太陽」と題して講演(於日比谷公会堂)。
- 7月3日、斎藤内閣総辞職に伴い拓相辞任。
- 10月5日、蘇峰会主催国民史刊行記念講演会で「大衆史家蘇峰先生を語る」と題して講演(於東京市青山会館)。13日、明星学園母の会主催講演会で「現代の思潮傾向に就て」講演(於明星学園講堂)。
- 12月25日、「日本を繞ぐる国際情勢とその思想背景」と題して講演。

### 1935(昭和10)年

- 1月20日、民政党政務調査会長就任(～1936年4月28日)。
- 4月10日、入院加療中であつた築地林病院から退院。
- 6月13日、婦人矯風会風俗部・婦人新報社主催「魔娼の闘士故三宅馨先生を偲ぶ座談会」に、安部磯雄、内ヶ崎作三郎等とともに出席(於丸ノ内会館)。20日、民政党石川県支部幹部会に出席。
- 8月5日、民政党政策普及講習会で「我党の政策に就て」と題し講演予定(於丸ノ内会館)。30日、駒沢大学主催宗教講演で「大宇宙と与に生くる心」と題して講演(於名古屋市公会堂)。
- 9月7日、民政党宮城県支部総会に臨み、総会後の時局批判演説会に登壇(於仙台座)。15日、民政党近畿大会に臨み、大会後の演説会に登壇(於大阪中央公会堂)。16日、民政党東海大会に臨み、大会後の演説会で政界革新論を演説(於名古屋市公会堂)。
- 10月3日、九段軍人会館で「大衆の一人として」と題して講演。14日、横浜貿易新報主催講演会で「国民生活再建期に於ける新聞の使命と重圧裡日本の新国策」と題して講演(於横浜開港記念会館)。
- 11月4日、台湾視察のため神戸を出帆。7日、台湾着。8日、官民合同歓迎会に出席(於鉄道ホテル)。14日、花蓮港着。16日、基隆を出帆、帰国の途につく。28日、『婦人之友』主催座談会「良国民となるために 大国民となるために」で、杉森孝次郎、清沢冽、長谷川如是閑、三木清、三宅雪嶺、宮沢俊義、吉岡弥生、蠟山政道、羽仁吉一、羽仁もと子とともに出席(於自由学園)。

## 1936(昭和 11)年

- 2月3日、立憲民政党関東大会で「正しき政党の進路」について演説(於日比谷公会堂)。20日、第19回総選挙に当選。
- 4月22日、民政党政務調査会で総務会長の任期満了に伴う挨拶(於本部)、28日、民政党大会開催、政務調査会長を辞任し幹事長に就任(～1937年5月7日)。
- 6月2日、民政党幹部会に出席。9日、民政党幹部会に出席。18日、明治大学法学部主催講演会で「日本再建の指導精神」と題して講演(於明治大学記念館)。
- 8月18日、川崎民政同志会発会式に出席。
- 9月16日、民政党電力国営問題第1回政務調査会総会に出席(於本部)。
- 10月8日、民政党京都支部大演説会に登壇(於京都市立堀川高等女学校大講堂)。20日、民政党東海大会(於名古屋市公会堂)、22日、民政党北陸大会に出席。この月、明治大学で「外に国際正義、内に社会正義」と題して講演。大阪毎日新聞社主催「議会今昔座談会」に浜田国松、鳩山一郎、富田幸次郎、加藤政之助、前田利定、麻生久等とともに出席。
- 11月3日、「日本なくんば亜細亜なし」と題して講演(於大阪市中之島公会堂)。7日、蘇峰先生文章報国五十年祝賀会で「先覚 徳富蘇峰先生」と題して講演(於東京青山会館)。14日、民政党東北・北海道大会に出席(於宮城県仙台市仙台座)。22日、民政党北陸大会に臨み演説(於福井市公会堂)。26日、立憲民政党中国四国大会に臨み、大会後の演説会に登壇(於徳島市公園千秋閣)。
- 12月3日、立憲民政党外交調査委員会合に臨む(於丸の内常磐)。8日、立憲民政党幹部会に臨む。23日、立憲民政党議員総会に臨み開会の挨拶(於本部)、引き続き、議員懇親会に臨み激励演説(於丸の内中央亭)。26日、雑誌『祖国』主催「帝国議會を語る会」に、西川貞一、安藤正純、北吟吉等とともに出席(於東京会館)。

## 1937(昭和 12)年

- 1月20日、立憲民政党所属議員・評議員の連合会および大会で、幹事長として挨拶、国政改革と党機構刷新を説く。29日、林銑十郎から組閣に際し入閣を求められるが辞退。
- 2月11日、立憲民政党主催の演説会で「日本再建の指導精神」と題して演説(於日比谷公会堂)。
- 4月16日、立憲民政党関東大会開催、大会後の演説会で「昭和新日本建設の方途」と題して演説(於日比谷公会堂)。20日、民政党東海大会に臨み、大会後の演説会に登壇(於名古屋公会堂)。30日、第20回総選挙に当選。
- 5月7日、立憲民政党新代議士会で幹事長として挨拶、役員改選で総裁指名により総務に就任。8日、立憲民政党総務会に臨む。11日、立憲民政党幹部会に臨む。
- 6月4日、第一次近衛内閣成立、通信大臣として入閣。
- 10月4日、朝日新聞社主催座談会に招かれ、戦時体制化における交通について、航空、電力、海運方面の専門家と意見交換(於帝国ホテル)。14日、東京府・市連合国民精神練成講演会で「亜細亜再建の義戦」と題して講演(於日比谷公会堂)。
- 11月25日、「独逸国民に告ぐ」と題して、日独防共協定一周年記念対独ラジオ放送。
- 12月2日、東京銀行倶楽部晩餐会で演説。

## 1938(昭和 13)年

- 1月7日、立憲民政党総務会に臨み戦局の推移について説明。20日、第73回帝国議会衆議院に通信大臣所管の電力管理関連4法案を提出、立憲民政党大会に臨む(於上野精養軒)。25日、帝国議会衆議院で電力管理関連4法案の提案趣旨説明および質問へ答弁。
- 3月8日、貴族院で、電力管理関連4法案の提案趣旨説明および質問へ答弁、25日、電力管理関連4法案の提案理由の説明について答弁。26日、電力管理法案両院を通過。
- 7月6日、支那事変一周年記念講演会で「戦はざるものに勝利なし」と題して講演(於日比谷公会堂)。
- 9月6日、日本放送電株株式会社設立委員長に就任。
- 10月25日、大隈老侯生誕百年記念祭で祝辞(於早稲田大学大隈講堂)。
- 11月15日、政友会・民政党連合の東亜再建国民連盟結成式に臨み、式後の東亜再建国民連盟主催第1回講演会に登壇(於日比谷公会堂)。

## 1939(昭和 14)年

- 1月4日、近衛内閣総辞職により通信大臣辞任。17日、立憲民政党幹部会で総裁指名により常任顧問就任。31日、日本国際協会主催第143回談話会に出席。

- 2月23日、読売新聞社主催講演会で「国民皆兵総突撃」と題して講演(於日比谷公会堂)。
- 3月12日、湘風会主催皇道文化顕揚講演会で「日本なくんば亜細亜なし」と題して講演(於横浜開港記念会館)。24日、東京女子医学専門学校卒業式に来賓として出席し訓示。
- 4月27日、民政党総務に就任。
- 6月10日、対米ラジオ放送で「海外移住の同胞諸君に訴ふ」。
- 7月4日、報知新聞社主催排英演説会に登壇(於日比谷公会堂)。6日、民政党主催新興日本国民運動演説会に登壇(於日比谷公会堂)。14日(～18日)、日本国際協会第3回学生支部夏期大学で「世界は何処へ？」と題して講演(於長野県軽井沢町沓掛星野館)。
- \*報知新聞社主催排英演説会は、演説を収録した永井の著作『興亜論集』では7月7日と記載されているが誤記である。
- 8月2日、「日本民族の世界使命」についてラジオ放送。30日、阿部内閣に通信大臣兼鉄道大臣として入閣。
- 9月5日、立憲民政党幹部会に臨み通相兼鉄相就任の挨拶。
- 11月28日、帝国鉄道協会主催第4回交通知識普及大講演会で「新東亜建設を目標とする交通政策」と題して講演。29日、鉄道大臣兼務を解かれる。

### 1940(昭和15)年

- 1月14日、阿部内閣総辞職により通信大臣辞任。
- 4月8日、『実業之世界』主催「議会の打ち明け話座談会」に、石渡莊太郎、堀切善兵衛、松野鶴平、野依秀市等とともに出席(於星ヶ岡茶寮)。24日、紀元二千六百年奉祝海外同胞東京大会に議長として臨む(於帝国ホテル)。
- 5月14日、立憲民政党幹部会で外交問題調査委員会を設置、委員長に就任決定。27日、「聖戦音楽の夕」で「西に独逸、東に日本」と題して演説(於日本青年館)。
- 6月4日、立憲民政党幹部会に臨む。7日、新党運動について近衛文麿と華族会館で会談。21日、立憲民政党定例議員懇談会に臨む(於丸の内会館)。
- 7月6日、軍人援護会東京府支部並に読売新聞社主催「皇軍感謝の夕」で「世界黎明期を指導する日本」と題して演説(於小石川後楽園)。10日、支那事変三周年を記念する聖戦目的完遂に関する特別講演として「陽は東洋より西洋を照す」と題してラジオ放送。18日、立憲民政党有志代議士会に臨み、新体制の理念・組織・基調・具現方策の過程などを説明。25日、立憲民政党有志代議士会に臨み脱党声明を発表(於丸の内東京会館)。28日、新体制促進倶楽部を設立(於日比谷松本楼)。
- 8月3日、雑誌『公論』主催座談会「新政治体制への協力」に、有馬頼寧、阿部賢一、大河内一男、上村哲弥、上村勝弥とともに出席。8日、新体制促進同志会懇親会に出席、新体制促進同志会世話人に就任(於東京会館)。
- 9月14日、新体制講演会で「新体制の指導精神」と題して講演(於東京日比谷公会堂)。
- 10月1日、『政界往来』主催「新体制準備委員座談会」に、小川郷太郎、岡田忠彦、金光庸夫、前田米蔵、秋田清、木倉幾三郎とともに出席。12日、大政翼賛会成立、常任総務に推される。13日、新島襄先生逝去五十年記念講演で「聖雄新島襄先生」と題して講演(於東京日比谷公会堂)。
- 11月18日、大阪市町会大会の終了後、「新体制の指導精神」と題して講演。28日、石川県出身の真宗大谷派の石川舜台の追悼演説(於金沢市公会堂)。
- 12月20日、政党解消後の議会の円滑な運営のため衆議院議員倶楽部が設立され、顧問に就任。

### 1941(昭和16)年

- 1月3日、「興亜の挺身隊」と題してラジオ放送。12日、「海外在住の同胞諸君に訴ふ—ルーズヴェルト大統領の教書を駁す—」と題して海外向けラジオ放送。
- 3月25日、日本橋倶楽部で「新体制の統合性とその大衆性」と題して特別講演。
- 4月4日、大政翼賛会東亜局(のち興亜局)局長に就任。
- 5月2日、日本外交協会471回例会で「戦時下に於ける新政治体制とその指導精神」と題して講演。8日、興亜局長として興亜諸団体及び関係各官庁当局を招き第1回懇談会(於帝国ホテル)。12日、第一回東亜協同組合協議会年次大会で「大東亜の建設と協同組合の使命」と題して講演。18日、ハワイ向けラジオ放送で時局講演。24日、稲門会で「欧羅巴対亜細亜の運命」と題して講演。
- 6月19日、近衛首相主催による国民政府主席・行政院長汪精衛氏を迎える官民歓迎晩餐会に出席(於首相官邸)。
- 7月6日、大日本興亜同盟結成大会で東亜局長として経過報告、理事長就任(於日比谷公会堂)。14日、「共に戦ふ心」と題してラジオ放送。
- 8月1日、横浜貿易協会主催第13回貿易夏期大学で「太平洋争覇時代と歴史的意義」と題して講演。

- 9月2日、衆議院院内会派翼賛議員同盟が成立、総務委員に就任。10日、翼賛会本部主催の興亜道民大会で「世界再建の基本理念」と題して講演(於札幌公会堂)。15日、満州国承認第九年記念式典で講演(於日比谷公会堂)。
- 10月4日、軍事保護院・情報局・東京府・東京市・大政翼賛会共催の銃後奉公強化大講演会で講演(於日比谷公会堂)、30日、官私大学々生聯盟主催「興亜学徒の夕」講演(於日比谷公会堂)。
- 12月9日朝、「国民の誓」と題してラジオ放送。

#### 1942(昭和17)年

- 2月7日、全国民学校生徒へのAK朝礼放送。12日、第79回帝国議会衆議院で、興亜育英金庫と大日本育英会の創設を促す大東亜教育体制確立に関する建議案の趣旨説明。
- 4月30日、第21回総選挙(翼賛選挙)に当選。
- 5月20日、翼賛政治会(阿部信行総裁)創立、常任総務に就任(於大東亜会館)。
- 6月25日、早稲田大学科外講義で「大東亜戦争と政治力の結集」と題して講演。
- 7月23日、読売新聞社・同盟通信社・東京日日新聞社・朝日新聞社共同主催の周仏海氏歓迎講演会で「亜細亜の黎明に立つ日華両国」と題して講演(於東京神田共立講堂)。7月27日、大政翼賛会・翼賛政治会共催の大東亜戦争完遂国民総力結集大講演会で「決戦体制の徹底強化」と題して講演(於日比谷公会堂)。
- 9月20日、南京の汪兆銘政府への答礼使として東京を出発。福岡から飛行機で上海着。22日、南京着。25日、首都歓迎民衆大会で「中華民国国民諸君に懇ふ」と題して演説(於南京国民大会堂)。27日、帰国。
- 10月15日、全国々民学校教員大会で「国民誰か軍神たるべき血液を有せざるものぞ」と題して講演(於東京教育会館)。
- 11月14日、海軍有終会主催講演会で「支那観察談」と題して講演(於東京水交社)。

#### 1943(昭和18)年

- 2月27日、印度獨立支援国民大会で「天はガンヂーと共に闘ふ」と題して講演(於東京歌舞伎座)。
- 3月14日、「彼等の戦争と吾等の戦争」と題してラジオ放送。30日、帝国教育会総会で帝国教育会会長就任(於教育会館)。
- 6月18日、衆議院本会議で「米英撃摧一億敢闘決議案」の趣旨弁明。28日、興亜宗教協力会議開催に際し主催者側を代表して開会の辞(於日本青年館)。
- 7月7日、石川県の小松製作所工科青年学校で講演。
- 9月21日、新潟県三条市に赴き、明治天皇の北越御巡幸記念式に参列し祝辞(於東別院御駐輦記念碑前)、記念講演会で「明治天皇の御偉業を偲び奉る」と題して講演(於東別院本堂)。
- 10月6日、早稲田大学の学徒出陣記念講演で「学徒よ天と俱に起ち天と俱に戦へ」と講演。18日、財団法人大日本育英会設立、会長に就任。
- 11月6日、「世界の黎明に先駆する大東亜」と題してラジオ放送。
- 12月13日、興亜懇談会で「興亜教育の基本理念」について講演。

#### 1944(昭和19)年

- 4月16日、大日本育英会法(2月17日公布)により大日本育英会創立、会長に就任。
- 5月29日、愛知第二師範学校女子部開設記念講演会で「興亜教育の三大指標」と題して講演。
- 9月10日、築地大東亜病院(聖路加国際病院)に入院、胃癌と診断。
- 12月4日、逝去。5日、特旨をもって従二位に叙せられ勲一等旭日大綬章を賜る。6日、大日本育英会・教育会による合同葬儀(於青山葬儀場)。

## II 著作目録

### 凡例

- \* 「1. 著書」、「2. 共著」、「3. 序文類」、「4. 評論など」、「5. 帝国議会演説」とに大別し、それぞれ年次に順に配列した。最後に、「6. 評論集・演説集初出」を付した。
- \* 原本(復刻含む)未見の著作については\*を付した。
- \* 新聞・雑誌の連載は、初回掲載に一括した。
- \* 雑誌目次中の表題と本文表題とが異なる場合、原則として後者を採用した。
- \* 新聞・雑誌の特集名・掲載欄を適宜[ ]で示したほか、無題の場合は[ ]に示して仮題とした。その他、編者の注記は適宜[ ]で示した。
- \* 掲載雑誌の巻号数は、第1巻第1号→1-1と表記し、日刊新聞の号数は省略した。
- \* 新聞の朝刊・夕刊については、夕刊についてのみ、[夕刊]と注記した。
- \* 永井柳太郎のペンネーム(「柳郎」、「永井星洲」)については、『永井柳太郎』(『永井柳太郎』編纂会編・刊、1959年)42、65～66頁に引用されている著作のみ採録した。ペンネームは《》に示した。

本著作目録作成にあたっては、池田徳浩編「永井柳太郎著作目録」(『文献探索 2000』2001年3月)を参照したほか、青山学院大学付属図書館、秋田県立図書館、アジア経済研究所、NHK放送博物館、大阪市立大学学術情報総合センター、大阪府立中央図書館、同中之島図書館、岡山県立図書館、岡山市立中央図書館、岡山大学付属図書館、お茶の水図書館、大宅壮一文庫、神奈川近代文学館、関西大学総合図書館、慶應義塾大学三田メディアセンター、神戸市立中央図書館、神戸大学付属図書館、県立長野図書館、駒沢大学図書館、高野山大学図書館、国立国会図書館、財団法人東洋文庫、三康文化研究所附属三康図書館、種智院大学図書館、昭和館、信州大学中央図書館、拓殖大学八王子図書館、東京大学総合図書館・社会科学研究所・社会情報研究所・法学部附属近代日本法政史料センター明治新聞雑誌文庫・教育学研究科・教育学部図書室、高千穂大学図書館、東京都立中央図書館、同志社大学人文科学研究所、東北学院大学中央図書館、東洋大学付属図書館、成田山仏教図書館、日本近代文学館、日本新聞博物館新聞ライブラリー、日本大学総合学術センター、花園大学付属図書館、法政大学大原社会問題研究所、北海道大学付属図書館、明治大学中央図書館、早稲田大学中央図書館より資料閲覧の便宜を得ました。付記して謝意を表します。

### 付記

太田雅夫編「大正デモクラシーに関する論文目録」(『資料 大正デモクラシー論争史 下巻』新泉社、1971年)533頁に記載されている「政治的民本主義より社会的民本主義へ」(『雄弁』大正7年6月)、『大東亜戦争書誌』に記載されている「共に戦ふ」(『日本女性』1941年10月)、池田徳浩編「永井柳太郎著作目録」に記載されている「欧州大戦以来の世界経済の大勢」(『財政経済時報』6-1、1919年1月)は掲載を確認できない。

## 1. 著書（訳・編含む）

- 『英国殖民発展史』1909年2月15日[原著：Hugh Edward Egerton, *The origin and growth of the English colonies and of their system of government*, 1903]
- 『英人氣質 思ひ出の記』実業之日本社、1910年8月28日
- 『社会問題と植民問題』新興社、1912年12月15日
- 『残飯—青年諸君に頒つ—』南北社、1914年6月[20日]
- 『対支外交論』〈公民同盟叢書第五〉公民同盟出版部、1915年7月15日
- \* 『星か甫の月』〈講演速記(於大連基督教青年会館)〉大連青年会、1915年8月
- 『野声 政治時論』莫哀社、1916年2月24日
- 『独逸富強論』公民同盟、1916年7月10日[原著：Karl Theodor Helfferich, *Deutschlands Volkswohlstand 1888-1913*]
- 『植民原論』巖松堂書店、1916年10月10日
- 『支那大観と細観』[久米邦武との共著]新日本社、1917年6月5日 [永井柳太郎「支那大観」、久米邦武「支那大観」の細観]収録]
- 『植民政策』〈早稲田大学政治経済科講義録〉早稲田大学出版部、19??年
- 『改造の理想』精禾堂、1920年5月25日
- 『識者の見たる普通選挙』[編]富山房、1921年3月25日
- 『植民原論』巖松堂、1921年7月10日
- 『グラッドストーン』[英傑伝叢書第10篇]実業之日本、1922年2月20日
- 『永井柳太郎氏大演説集[第一集]』大日本雄弁会講談社、1924年2月28日
- 『世界政策十講』白揚社、1925年6月30日
- \* 『幣原外交果して過てる乎』民政社、1928年9月
- 『永井柳太郎氏大演説集（第二集）』大日本雄弁会講談社、1930年1月15日
- 『戯曲 大隈重信』大日本雄弁会講談社、1932年11月10日
- 『時局の動向を語る』談論社、1936年7月28日
- 『アジア再建の義戦・支那事変と英国の言動』兵庫県国防協会播州国防研究会本部、1937年10月10日
- 『アジア再建の義戦 支那事変と国際関係』[1937年10月14日於東京府連合主催国民精神総動員講演会。永井柳太郎「アジア再建の義戦」と米田実「支那事変と国際関係」を収録]東京府国民精神総動員実行部、[1937年11月]
- 『アジア再建の義戦』国民精神総動員中央連盟、1937年11月4日
- \* 『愛せよ資源活かせよ廃品』[講演]1937年
- 『電力国家管理案の重大使命』日満経済社、1938年2月5日
- 『私の信念と体験』岡倉書房、1938年9月15日



- 『日本なくんば亜細亜なし』湘風会、1939年4月25日[1939年3月12日講演、湘風会主催皇道文化顕揚講演会(於横浜開港記念会館)]
- 『銭屋五兵衛 戯曲』新潮社、1939年10月20日[付録として「『銭家五兵衛』の上演に就いて」「銭五の蔭の人大野弁吉」を収録][『石川近代文学全集 15(近代戯曲)』(石川近代文学館、1990年)収録]
- \* 『我等如何に戦うべきか』[講演]金沢市、1939年
- 『新政治体制と大政翼賛会の機能』1941年5月、日本外交協会[1941年5月講演要旨於日本外交協会471回例会席上][『興亜論集 世界に先駆する日本』に収録されている「戦時下に於ける新政治体制とその指導精神」の要録である]
- 『興亜の大業を目指して』大政翼賛会宣伝部、1941年6月19日
- 『太平洋争覇時代と歴史的意義』横浜貿易協会、1941年9月3日[8月1日口述、第13回貿易夏期大学講義録]
- 『世界再建の基本理念』<翼賛叢書第1輯>大政翼賛会北海道支部、1941年11月5日[9月10日時難突破興亜道民大会記念講演(於札幌公会堂)]
- 『興亜論集 世界に先駆する日本』照文閣、1942年6月19日[論文、講演、ラジオ放送から集録。改訂増補版：1943年1月19日]
- 『大東亜に懇ふ』大政翼賛会編・刊、1943年6月15日[3篇の講演筆記「亜細亜の黎明に先駆する日華両国」、「ガンジー死すとも正義は死せず」(2月27日印度独立支援国民大会於東京歌舞伎座)、「彼等の戦争と吾等の戦争」(3月14日ラジオ放送)を収録]
- \* 『告中華民國国民諸君』翼賛図書刊行会、1943年
- \* 『永井柳太郎先生講演』[1943年7月7日講演(於工科青年学校講堂)]KK小松製作所発行、1943年。
- 『永井柳太郎氏興亜雄弁集』大日本皇道奉賛会編、竜吟社創立事務所、1944年6月20日

## 2. 共著

- 出生率上の一危険[1911年12月19日社会政策学会第4回大会第2日の講演於早稲田大学講堂]『市営事業』<社会政策学会論叢 第8冊>社会政策学会編、同文館、1911年12月25日[「産めよ、殖えよ、地に満てよー出生率上の一危険ー」と改題、『世界政策十講』収録]
- 東西文明の調和と弘法大師『大師不忘録』大本淡沖・高須臨燧編、泰山寺、1914年6月18日
- 講和会議の真相『時事大観』鈴木久次郎編・刊、1919年9月20日
- 予の婦人観[1920年9月26日於国民婦人会第一回講演会]『婦人問題講演集 第1輯』石川六郎編・民友社、1920年11月15日[『婦人問題講演集』第1巻(日本図書センター、2003年)収録]
- 寺内内閣成る『阿修羅帖』第3巻、伊東忠太・杉村広太郎著、国粹出版社、1921年2月15日
- レニンは労働階級原首相は資本家階級である『議会大演説集』信田孝善編、偉文社、1921年12月15日
- 普選案賛成論(二月廿三日)『第四十五議会衆議院十大演説集』東方時論社、1922年5月5日
- 総理大臣を自任してみた『黒岩涙香』涙香会編、扶桑社、1922年10月6日[復刻：長谷川泉監修『近代作家研究叢書 111 黒岩涙香』日本図書センター、1992年]
- 世界の植民政策と朝鮮問題[9月22日(於神田青年会館)自由討究社主催朝鮮問題講演会]『東経正義 朝鮮

- 問題講演集』〈鮮満叢書 第5巻〉自由討究社、1922年11月1日
- 死ぬるか生きるか『式辞と演説 五分間卓上応用自在』いろは書房、1922年11月29日
- 首相に対する質問演説[1月30日衆議院]『第四十六回帝国議会議貴衆両院大演説集』渡辺鬼子松編、帝国連合青年会、1923年4月18日
- [『鼎浦の記者生活』『鼎浦全集』[内容見本]鼎浦全集刊行会、[1923年]
- 雄弁総論『雄弁学講話』雄弁学会刊、1924年11月27日[『雄弁学講座』(雄弁学会編・刊、1925年5月5日)、『雄弁学講座 上巻』(日本雄弁学会編・潮文閣刊、1928年10月1日)、『雄弁学講座 上巻[改訂増補]』(成光出版部、1929年2月1日)、『雄辯學講座 全』〈改訂増補〉(潮文閣、1929年8月10日)収録。同6版(1931年)の復刻新装版：成光出版企画、1983年]
- レニンと原敬—大正九年七月八日衆議院—『帝国議会議雄弁史』弘田勝太郎編、事業之日本社、1925年4月28日
- 立候補発表と感謝演説[1917年4月1日の立候補政見発表演説(於金沢市)と同月22日の感謝演説(於金沢兼六公園)、「模範雄弁例』『雄弁学講座』雄弁学会編・刊、1925年5月5日[『雄弁学講座 下巻』(日本雄弁学会編・潮文閣、1928年10月5日)、『雄弁学講座 下巻』[改訂増補] (成光出版部、1929年2月1日)、『雄辯學講座 全』〈改訂増補〉(潮文閣、1929年8月10日)収録。6版(1931年)の復刻新装版：成光出版企画、1983年]
- 予の婦人観[1920年9月26日(於国民婦人会)、「模範雄弁例』『雄弁学講座』雄弁学会編・刊、1925年5月5日
- 現代思想の基調と共存共栄の世界[1924年10月30日講演(於第五回三越講演会)]『三越講演集 第一輯』三越石垣会編・刊、1926年3月25日
- 議会議代表の大獅子吼[第42議会議質問演説]『五分間模範演説集』東京雄弁協会編、國華堂本店、1926年9月20日[復刊：東京雄弁協会編『正しき演説』(大阪堂、1931年)]
- 世界政策二講【1 欧羅巴文明の特徴と日本民族の海外発展、2 世界的解放主義の倫理と我が国民の発展に及ぶ】『移民之友』新垣金造編、移民之友社、1926年10月10日
- 植民篇『新日本史』第2巻、三宅雄二郎監修・万朝報社刊、1926年11月25日
- 人形乎、人間乎『現代名士大講演集』井沢水葉編、恒星堂、1927年5月20日[『永井柳太郎氏大演説集』から転載]
- ウィルソンからムツソリーニまで[1927年6月11日講演]『有恒俱樂部講演集 第四回』有恒俱樂部、1927年9月15日
- 国民的文化事業『世界大思想全集付録』9、春秋社、1927年11月
- 現代政治の理想と社会政策『社会政策講義録』協調会編・刊、[1927年頃]
- ウィルソンからムツソリーニまで『現代名演説集』〈『雄弁』19-1別冊附録〉大日本雄弁会講談社、1928年1月1日
- 雄弁三則『現代名演説集』〈『雄弁』19-1別冊附録〉大日本雄弁会講談社、1928年1月1日
- 現代外交の理想『綜合文化大系』玉文社編纂部編、玉文社、1928年2月3日
- 『ウィルソン』より『ムツソリーニ』まで[講演於東京帝国大学経済学部保険演習学友会講習会]『保険パンフレット』1-6、保険評論社出版部、1928年3月15日
- 西にレーニン東に原敬[衆議院に於ける演説](『明治・大正・昭和政界名士大雄弁集』箕輪要編・中野正剛監修、雄弁研究会、1928年4月23日
- 立候補政見発表演説[「立候補演説」](『明治・大正・昭和政界名士大雄辯集』箕輪要編・中野正剛監修、

雄弁研究会、1928年4月23日

選挙民への感謝演説[「立候補演説」](『明治・大正・昭和政界名士大雄辯集』箕輪要編・中野正剛監修、雄弁研究会、1928年4月23日)

私は民政党をして何を為さしめんと欲するか『巨人新人普選代議士名演説集』<『雄弁』19-5付録>大久保周八編、大日本雄弁会講談社、1928年5月1日

支那新旧勢力の衝突『現代支那事情の研究』東亜事情研究会編・大阪屋号書店、1928年9月27日

青年をして其天職を遂げしめよー大正六年一月早稲田大学雄弁会に於ける演説／西にレーニン、東に原敬ー大正九年七月八日衆議院に於ける処女演説ー『現代名士大講演集大演説集』青年雄弁会編、春江堂、1928年12月15日[青年雄弁会編『現代名士獅子吼大演説集』(春江堂、1929年)、青年雄弁会編『現代名士大雄弁大獅子吼集』(春江堂、1930年)収録]

復讐は灰の中より生れん グラッドストーンとヂスレーリの大論戦『世界大雄弁物語集』<『雄弁』20-1別冊附録>大日本雄弁会講談社、1929年1月1日[「グラッドストーンとヂスレーリの大論戦」と改題『私の信念と体験』収録]

矛は何故に代議士たらんと欲するか『挨拶と式辞 チャームする演説』文翫堂書店、1929年3月5日

神は労働者を愛す『挨拶と式辞 チャームする演説』文翫堂書店、1929年3月5日

対支政策の破産者『大衆政治の言論戦』帝国政治雄弁協会編、文華堂、1929年3月10日[『大衆政治の言論戦』(宗孝社、1932年2月1日)再録]

対支外交に関する質問演説『第五十六回帝国議大会演説集』日本図書協会、1929年4月28日

記憶に残れる二十五人の演説『議政壇上を直視して 附・第五十六回帝国議会の演説集』渡辺貴知郎編、普選徹底会出版部、1929年5月15日[国立国会図書館所蔵版では18日刊に訂正]

国務大臣の演説に対する質疑『議政壇上を直視して 附・第五十六回帝国議会の演説集』渡辺貴知郎編、普選徹底会出版部、1929年5月15日[国立国会図書館所蔵版では18日刊に訂正]

追加予算に対する質疑演説『議政壇上を直視して 附・第五十六回帝国議会の演説集』渡辺貴知郎編、普選徹底会出版部、1929年5月15日[国立国会図書館所蔵版では18日刊に訂正]

日支関税協定に関する緊急質問演説『議政壇上を直視して 附・第五十六回帝国議会の演説集』渡辺貴知郎編、普選徹底会出版部、1929年5月15日[国立国会図書館所蔵版では18日刊に訂正]

予は労働者たるを光栄とす『昭和名演説集』<『雄弁』21-1別冊附録>大日本雄弁会講談社、1930年1月1日

ロイドジョージの機智『これからの新しい演説』東京雄弁協会編、大阪堂、1930年1月20日[改題『新しい式辞と演説』東京雄弁協会編、大阪堂、1930年1月20日]

共存の新社会を目指して[1930年2月1日演説(於大阪市中之島公会堂)]『各政党代表者大演説集』大阪毎日新聞社・東京日日新聞社、1930年2月7日

熱血を吐露する[「名士の演説苦心談」]『演説の仕方と聴き方 附 政界名士演説集』青年雄弁会編、春江堂、1930年3月5日[改題『五分間演説の仕方』青年雄弁会編、春江堂、1935年3月5日]

若狭丸船中のことなど[追悼録]『小瀬次郎』布目孜・神谷尚志 編刊、1930年9月6日

ロンドン会議の成果[1930年5月31日第一線同盟研究会(於東京赤坂三会堂)]『ロンドン会議・統帥権問題』第一線同盟出版部、1930年9月20日

新婦朝者五明氏を迎ふ『式辞挨拶十分間演説集』大日本雄弁会講談社、1930年10月26日

新世界建設を目標として『甦生期の日本に呼びかける』竹本治三郎編・民衆通信社刊、1930年11月10日

教育の三大欠陥は何か『現代名士の教育革新論』齊藤和堂編、モナス、1931年7月10日

熱血吐露が秘訣『明るく正しい演説の仕方』東京雄弁協会編、大阪堂、1931年7月22日

我党内閣の外交大観『民政党政政策講演集 第三輯』立憲民政党本部、1931年8月19日

我党内閣の外交大観『民政党政政策講演集』立憲民政党本部、1931年8月22日

魂を蘇らすべき霊泉『吉田絃二郎全集』全18巻(第2期)[内容見本]、新潮社[1931年3月から刊行]

雄弁は信念の結晶である[於中等学校雄弁大会]『新時代五分間演説集』<『雄弁』23・1第1付録>大日本雄弁会講談社、1932年1月1日[帝国政治雄弁協会編『大衆政治の言論戦』(宗孝社、1932年2月)収録]

親切な兄貴だった大先輩早速君[「追懐録」]『早速整爾伝』早速千代野、1932年7月10日

大隈重信侯と新日本『富山房』富山房編・刊、1932年10月8日

青年をして其天職を遂げしめよ『明るく正しい演説と其のこつ』東京雄弁協会編、日本図書出版、1932年12月1日

民政党の誇り、日本の誇り[「高木翁に関する諸名家の感想」]『高木正年自叙伝』横山健堂編、代々木書院、1932年12月8日[復刻版:『盲人たちの自叙伝1 高木正年自叙伝』大空社、1997年]

東洋平和の鍵を握る台湾『台湾大観』日本合同通信社、1932年12月25日

新人と旧人『井上先生追慕録』井上善吉編・刊、1933年6月25日

[寄稿(生前稿)]『大隈熊子夫人言行録』堀部久太郎編・婦伝刊行会、1933年9月10日[復刻:『大隈熊子夫人言行録 伝記・大隈熊子』<伝記叢書 199>大空社、1995年]

彼若し救世軍に加はらざりしならば[1932年7月5日講演救世軍主催山室軍平還暦祝賀会於日比谷公会堂、校閲済]『善きサマリヤ人』山室軍平編、救世軍出版及供給部、1933年10月15日

海外に輝く日本人『仏国画壇に光る平賀亀祐画伯』塩見清編著、平賀亀祐画会、1933年11月3日

[「メッセージ」]『故二等飛行機操縦士朴敬元嬢追悼録』相羽有編、日本飛行学校出版部、1933年11月10日

郷党に正しき輿論をつくれ[談]『第二回満洲産業研究団報告書』大日本連合青年団、1934年1月15日

青年日本の建設『日本精神作興』日本精神作興会編、帝国講学会出版部、1934年3月5日

樺太の拓殖は国家的に重要 速に完成して永遠の国礎を確立すべし『樺太拓殖計画の全貌』中央情報社、1934年6月25日

祝辞『二十五周年祝賀会誌』大日本製糖、1934年7月31日

我等の使命『人類愛(第五輯)』(非売品)坂本清作編、人類愛社、1934年8月30日

東郷元帥の御一生『至誠通神』尾崎久弥編、観音瞻仰会、1934年9月10日

祝辞と祝電『大連市催満洲大博覧会誌』大連市、1934年3月30日

[12月11日付高島米峰宛書簡]『手紙講座 第1巻』平凡社、1935年1月23日

朝鮮同胞の覚悟『朝鮮民族の自覚を促す』<朝鮮義勇パンフレット 第2号>朝鮮義勇団、1935年4月25日

祝辞[1933年3月17日万国婦人子供博覧会開会式]『万国婦人子供博覧会報告』万国婦人子供博覧会事務局、1935年5月20日

我が国民性『国体読本』教養会、1935年6月27日

我が国民性『国体明徴日本精神講話』教養会、1935年6月30日

最近の世界思潮及運動概観[文責在記者]『立憲民政党政策講演集』民政社、1935年9月15日

母は家庭の太陽『大雄弁家名演説集 面白くて為になる美談逸話格言俚諺警句百出』<『雄弁』27-1 附録>大日本雄弁会講談社、1936年1月1日

青年をして其天職を遂げしめよ／來たり、見たり、敗れたり／日本民族の平民的熱血『演説と式辞 附・挨拶の仕方』坂井末雄著、一心社、1936年9月30日

現代の要求する人物『晩近十分間模範演説と挨拶の仕方』岡村書店、1936年9月25日

政界稀に見る快漢[追想篇]『無逸清家吉次郎伝』無逸会、1936年10月15日

新日本建設の指導精神『新日本建設の指導精神 現下の農村問題』<講演速記録>日本講演協会、1936年12月13日

中等学校雄弁大会に於て『新時代卓上演説集』<『雄弁』28-1 附録>大日本雄弁会講談社、1937年1月1日[「雄弁大会に臨んで」と改題、塩見恵峯編『新しい式辞演説集』(瑞徳出版、1950年)収録]

時局と電力『転換期電気事業の展望』電気新報社、1937年11月19日

祝辞『非常時青年熱弁集：北日本詩吟大会愛吟集 北日本非常時青年大会』北潮会、1938年1月5日

生徒大会に臨みて演説抄[於早稲田工手学校生徒大会]『祝賀席上挨拶 応用自在』滝正一著、服部文貴堂、1938年5月5日[「苦学生を祝す」『永井柳太郎氏大演説集』増補版から収録]

戦はざるものに勝利なし『支那事変一周年記念講演集』国民精神総動員中央連盟、1938年8月5日

[講演、演題なし]『東亜再建国民運動講演集』東亜再建国民連盟、1938年11月15日講演[東亜再建国民連盟主催(於日比谷公会堂)、『雄弁』30-1、1939年1月1日では、「世界再建の推進力たるべき日本の使命」と題して掲載]

新東亜の建設と通信事業『國務大臣は斯く国民に懇ふ』日本国策連盟会、1938年12月22日

\*日本放送電株株式会社設立事務所従業員に対する訓示『日本放送電株株式会社の使命』日本放送電株株式会社設立事務所、1939年1月

アジア再建の義戦『皇国之輝』国旗顕彰会、1939年3月15日

興亜の父『巨人頭山満翁は語る』吉田頼明編、感山荘、1939年6月5日

蔣の背後を衝く『英国を追放すー対英外交大演説集ー』報知新聞社、1939年7月17日

国民皆兵の総突撃ー租界の背後勢力を駆逐せよー『神道時局講演集』神祇社編、会通社、1939年10月10日

心平かなるもの命永し『瀬木博尚追憶記』内外通信社博報堂、1940年1月22日

[記事「九 新体制促進倶楽部結成」(7月28日)中の所信表明(於日比谷松本楼)]／[記事「一〇 大同団結の成立と倶楽部の解散」(8月8日)中の演説(於東京会館)]『新体制促進倶楽部記念帖』田中万逸編・刊、1940年10月5日

祝電『第三十八回医王祭及南湖院創立四十周年記念録』高田畔安編、南湖院、1940年10月11日

新体制の指導精神[9月14日新体制問題講演会於日比谷公会堂]『新体制問題大雄弁録』新興之日本社、1940年11月8日

陽は東洋より『興国の道標』<国防生活叢書 第3輯>島崎英世編、国防協会出版部刊、1940年11月8日

[「人々の心に映じた正造翁の面影」]『義人田中正造翁物語 俠骨不朽』田中正造翁偉績顕彰会、1940年

12月25日

新体制の指導精神[1940年9月14日新体制講演会講演筆記於日比谷公会堂]『新体制論』帝都日日新聞社、1941年1月22日[他に、三宅雄二郎「新体制の要求する人物」、八田嘉明「経済と新体制」、中野正剛「外交新体制」、野依秀市「新体制の根本理念」を収録]

青年よ起て『新体制国民読本 新体制早わかり決定版』大政翼賛宣揚会編・刊、1941年1月23日

天地と共に働け『新体制処世雑話 護る銃後の戦陣訓』啓徳社出版部、1941年3月25日

聖雄新島襄先生『新島襄先生五十周年記念講演集』〈同志社講演集 第6輯〉奥村龍三編・同志社刊、1941年7月25日

英・米・ソの東亜進攻『英米ソの東亜進攻』〈教育パンフレット第420輯〉社会教育協会、1941年9月10日

世界の動きと大東亜建設『興亜講演集 第一輯』大政翼賛会編・大政翼賛会宣伝部、1941年11月3日

大東亜の建設と協同組合の使命[5月12日講演於第一回東亜協同組合協議会年次大会]『興亜運動と協同組合の使命』東亜協同組合協議会編・十九紫会刊、1941年11月25日

亜細亜を解放し且結合する使命『日満華三国締盟の意義と其使命』〈興亜叢書 1〉大日本興亜同盟編・刊、1941年11月25日

国民の誓[1941年12月9日朝放送]『大東亜の聖戦 米英撃滅世界新秩序建設へ』国民新聞社、1941年12月23日

太平洋争覇時代と歴史的意義『昭和十六年度 貿易夏季大学講義集』横浜貿易協会、1942年8月15日

映画の国策性[談]『名士、映画を語る』井戸川涉著、前田書房、1942年9月20日

日満華一大家族主義の提唱『大東亜復興宣言 日満華三国締盟の意義と其使命』大日本興亜同盟編・刊、1942年10月12日

弔辞[「付録 其の一 中尉を偲ぶ弔ひ記」]『先生中尉 熱血浅田機関銃隊長』白淵工著、五車書房、1943年7月15日

中国国民諸君に与ふ[1942年9月24日於南京]『同生共死「日華新関係の根本理念」集約版』〈時局参考資料 第25輯〉支那派遣軍総司令部報道部編、1943年7月

卓抜な見識新聞[「帝日」十周年祝辞]『帝都日日新聞十年史』帝都日日新聞社、1943年8月10日

米国に世界侵略の特権ありや『鬼畜米国の正体 被抑留邦人にきく』大政翼賛会宣伝部、1943年8月30日

興亜教育の基本理念『興亜教育の要諦』大政翼賛会興亜総本部宣伝部、1944年3月15日

[大隈重信宛書簡2通(大正5年7月28日、8月14日)]『大隈重信関係文書』第8巻、みすず書房、2012年3月1日

普通選挙論[大正12年5月収録]／第二維新の理想[大正末収録]／正シキ政党ノ進路[昭和8～10年収録]／独善内閣勝つか国民大衆勝つか[昭和12年収録]／強く正しく明るき日本の建設[昭和7年収録]／通信従業員諸君に告ぐ[昭和14～15年収録]『大正・昭和戦前期政治・実業・文化演説・講演集 SP 盤レコード文字化資料』日外アソシエーツ、2015年4月25日

### 3.序文類

- 序『古典研究経済学叢論』小笠原幸彦訳著・東山堂書房刊、1914年10月5日
- 序『原内閣の功罪』須田吉衛著、大正出版社、1920年8月28日
- 序『南洋年鑑 第四回』伊藤友治郎編、日南公司南洋調査部、1920年11月29日
- 序『軍費大整理論』高野清八郎著、春秋社、1923年3月15日
- 序言『ブラジル 邦人の発展地』大島喜一著、東文堂、1924年6月10日
- 序『南洋の文化と富源の実際 南洋讚美』勝間順蔵著、白鳳社、1924年11月10日
- 本書に序す『演説研究 雄辯を練れ』竹内尉著・昇龍堂刊、1924年11月16日[改訂版1926年9月]
- 序『帝国議会雄弁史』弘田勝太郎編、事業之日本社、1925年4月28日
- 序『驚くべし此の横暴此の国辱米国排日の実相』松枝保二著、大日本雄弁会、1925年5月18日
- 序『義人全集 第一編』中外新論社、1925年6月5日
- 序『普選より新しき政治へ』池田超爾著、稲洲堂出版部、1925年6月30日
- 序『埼玉県入間大観』鹿島磨耶夫編、入間大観社、1925年7月15日
- 序『模範的式辞挨拶五分間演説集』大日本雄弁会、1925年8月30日
- 序『靈肉の闘ひ』小杉イ子著、積文館、1926年10月15日
- 序『上海年鑑 一九二六年版』積文館、1926年11月3日
- 序『田中正蔵翁自伝』栗原彦三郎編、中外新論社、1926年12月28日
- 序『現代の朝鮮 東亜之大富源』梶川半三郎著、六合館、1927年7月25日
- \*序『末路の政争 普選前の政党の狂態』高田末吉著、教明社、1928年2月<金沢市立図書館所蔵>
- 序文 雄弁の本質に就て『青年と雄弁』勝田穂策香月著、東京閣、1928年12月5日
- 序『米大陸横断自動車冒険旅行 桑港より紐育まで』坂本正雄著、石川飛行士事務所、1929年10月10日
- 序『大衆政治の新理想』板垣守正著、新時代社、1929年10月20日
- 序『人とは何ぞや』秋田義明著、東京人生研究所、1929年12月5日
- 序『帝国主義アメリカ』<太平洋問題叢書 第2輯>松枝保二著、外交雑誌社、1931年9月15日
- \*序文『映画国策の提唱』浅岡信夫著、非売品、1931年9月<弘前大学附属図書館所蔵>
- \*序『青年民政党小史』川端道一 編著、青年民政党本部教育出版部、1931年
- 序『世相録 全』山崎傳之助著、世相録社(酒と人世社)、1932年5月25日
- [序文]『満洲植民の検討』田代名兵衛著、中央満蒙協会、1932年7月30日
- 序『満洲移民の将来と大観』移殖民事務研究会、1932年11月30日
- 序『移植民と教育問題』大塚好著、刀江書院、1933年2月22日
- 序『満洲に於ける適業は何か?』中沖寿著、日滿中央協会、1933年4月24日
- 序文『ブラジル移民の今昔 ブラジル移民廿五週年記念』<移植民事務研究会叢書>影山知二著、移植民

事情研究会、1933年5月15日

序『渡満と衛生』豊田秀造著、三省堂、1933年6月20日

序『農村の生くる道』中山義助著、東京書房、1933年11月30日

序『南洋大観』山田毅一著、平凡社、1934年5月27日

序『禁苑の黎明』レヂナルド・エフ・ジョンストン著・荒木武行訳、大樹社書房、1934年7月15日

序文『松村久子偲ひ草』池田修蔵編、松村謙三、1935年4月1日

序文『まびき』谷村一太郎著、浜中春峯、1935年10月30日

[1934年4月8日付内ヶ崎浩一郎追悼書簡]『ラスキン研究その他』[非売品]内ヶ崎浩一郎著・内ヶ崎作三郎刊、1936年5月20日

[内ヶ崎浩一郎追悼漢詩]『ラスキン研究その他』[非売品]内ヶ崎浩一郎著・内ヶ崎作三郎刊、1936年5月20日

序『開運読本』松井桂陰著、大日本読物社、1936年8月3日

序『先生ごころ』加藤二郎著、東光書房、1936年9月27日

序『邦人海外発展史 上巻』入江寅次著、海外邦人史料会、1936年10月2日

祝辞『富山房五十周年記念祝賀会来賓各位祝辞』富山房、1937年1月15日

国際的知識を深めよ『風雲世界の展望』軍事出版社、1937年2月27日

[推薦文]『生きて行く道』畑米吉著、勸学園刊、1937年4月5日[婦女界社刊、1938年11月12日。興亜書局刊、1942年6月20日]

序『日本剣道と西洋剣技』中山善道著、審美書院、1937年8月30日[復刻：体育とスポーツ出版社、1981年]

序文『社会政策の相貌』山崎孝一著、北潮会、1937年10月20日

祝辞『非常時青年熱弁集 北日本詩吟大会愛吟集 北日本非常時青年大会』北潮会、1938年1月5日

序『軍国日本人物大鑑』宮越信一郎編・議会政治社刊、1938年6月1日

住宅読本を推奨す『最新住宅読本』平尾善保著・日本電建株式会社刊、1938年7月15日

序『輝く銀杯 殉職滝本撰治訓導』滝本訓導顕彰会、1939年6月20日

序『歴代総理大臣施政方針』興亜文化協会、1939年7月10日

序『香炉峰』橋本芳蔵著、黎明発行所(非売品)、1939年9月25日

\*序文『海南島踏破記』岡田春夫著・政経倶楽部刊、1940年6月<小樽商科大学附属図書館所蔵>

序文『集団勤労読本』米本正著、大化書院、1940年7月22日

序『ウェンライト博士伝』村上謙介著、教文館、1940年7月25日[再版：教文館、1963年]

[祝電]『第三十八回医王祭及南湖院創立四十周年記念録』高田畔安編、南湖院、1940年10月11日

序『僕の挨拶』辻寛一著、名古屋百貨ガイド、1940年11月5日

序『女誠訓 吉田松陰の女訓を語る』清川秀敏著、成井書房、1941年4月30日[日本青年文化協会、1942年11月15日]

序『青年への手紙』石丸梧平著、偕成社、1941年11月10日[『近代日本青年期教育叢書 第1期 青年



期教育論 第7巻』（日本図書センター、1990年）収録]

序『アジア映画の創造及建設』市川彩著、国際映画通信社出版部、1941年11月18日[復刻：＜日本映画論言説大系10＞（ゆまに書房 2003年）]

序『草鞋村長鎌田三之助翁 翼賛の偉人・昭和の尊徳』本間楽寛著、時代社、1942年2月9日

序『和文英訳あゝ山本軍曹・英文和訳老兵戦話』中村賢二郎著、ヤングメン通信社出版部、1942年4月5日

序『南進基地を往く』杉山元治郎著、協同公社、1942年6月15日

序『依岡省輔伝』岡成志著、日沙商会、1942年9月25日

序文『隣組魂』山本初太郎著、高志書房、1943年7月15日

序『聖将山本元帥伝』秦賢助著、鶴書房、1943年10月10日

序『山本元帥を生んだ藩風』秦賢助著、立誠社、1944年3月20日

## 4. 評論など(新聞・雑誌掲載)<1441 篇>

### 1902(明治 35)年

\*依基督之血『新星』2-?, 1月23日[『永井柳太郎』228ページに引用]

### 1903(明治 36)年

\*[原題未詳]『新星』3-?, 8月11日<柳郎>[『永井柳太郎』42ページに引用]

### 1905(明治 38)年

[「一、恋愛に対する見解 二、自由恋愛を是認すべき乎 三、之を是認するとせばその自由の範囲如何」]『火鞭』1-4、12月10日

### 1906(明治 39)年

兵役税起すべきを論ず『早稲田学報』133、5月1日

西航小観『東京毎日新聞』9月9日<永井星洲>

西航小観『東京毎日新聞』9月13、14日<永井星洲>

西航小観『東京毎日新聞』9月21日<永井星洲>

西航小観『東京毎日新聞』10月2日<永井星洲>

西航小観『東京毎日新聞』10月30、31日、11月1日<永井星洲>

西航小観『東京毎日新聞』11月19、20日<永井星洲>

### 1907(明治 40)年

米国学者の亜細亜移民排斥論を評す『早稲田学報』147、148、5月1日、6月1日

社会的自由を論ず[J. S. Mill, *Social Freedom* の翻訳]『早稲田学報』152、154、10月1日、12月1日

### 1909(明治 42)年

英国より[「青山白雲」中の通信]『新人』10-5、5月1日

虞翁の遺跡を訪ひて[「英国通信」]『東京毎日新聞』6月1日

滞英所感[談「名家談叢」]『基督教世界』1370、1371、12月9、16日

英人氣質 思ひ出の記『時事新報』12月22、24、26、27、29、31日、**1910年**1月4~8、10、11、15、17、21~31日、2月2、4~28日、3月1、2、4~9、11~19、22~31日、4月1~3日<いろは生>[『英人氣質 思ひ出の記』収録]

## 1910(明治43)年

- オクスフォード雑談[11月30日帰朝留学生歓迎会席上談]『早稲田学報』179、1月1日
- 英領印度の外国貿易[「国際経済」]『外交時報』146、1月10日[「英領印度の産業政策」と改題『社会問題と植民問題』収録]
- 海上の帝国[「講演」]『早稲田学報』180、2月1日
- 英国資本の海外流出『外交時報』148、3月10日
- 英国将来の貿易政策[「演説」]『東洋経済新報』522～526、5月5、15、25日、6月5、15日
- 英国最古の模範大学[「論壇」]『東洋時論』1-2、6月1日[『残飯』収録]
- 欧米政界人物覚書[「雑録」]『東洋時論』1-2～4、6、6月1日、7月1日、8月1日、10月1日[「大人小話」(『残飯』)収録]
- 英領印度の新任太守『外交時報』152、7月10日
- 伊太利人の植民事業『外交時報』152、7月10日[『社会問題と植民問題』収録]
- 海上の英国『早稲田講演』3、7月20日
- 満韓集中論『太陽』16-13、10月1日[『社会問題と植民問題』収録]
- 『人は金剛石よりも貴し』『実業之日本』13-22、10月15日
- 英国青年は如何に運命を開拓しつつある乎[談]『成功』19-5、11月1日
- 外国で迎へた天長節—米と国民性—『青年』8-3、11月1日
- 牛津大学の校外教育『東洋時論』1-7、11月1日
- 不文の聖書[文責在記者]『六合雑誌』359、11月1日[『残飯』収録]
- 南進主義の植民政策『外交時報』156、11月10日[「非南進論」と改題『社会問題と植民問題』収録]

## 1911(明治44)年

- 世界の煩悶『新日本』1-1、1月1日[『社会問題と植民問題』収録]
- 地方農民の都市集中『日本経済新誌』8-8、1月18日[『社会問題と植民問題』収録]
- 日米協商論『新日本』1-2、2月1日
- 出産率と各文明国『実業世界』40、2月3日
- 明日の満州『新日本』1-3、3月1日
- 英国民と修養『精神修養』2-3、3月1日
- 五反百姓論『新日本』1-4、4月1日[「田舎繁昌論」と改題『社会問題と植民問題』収録]
- 如是我観【時評3篇「貴族院及び三爵議員」「日英同盟の協約改訂」「米国宣教師に告ぐ」】『新日本』1-5、5月1日
- 大英主義と全米主義『外交時報』162、5月10日[『社会問題と植民問題』収録]
- 天下の愚論『新日本』1-5、6、5月1日、6月1日[(一)のみ、「ノルマンエンゼル氏著「現代戦争論」を読む」(一)『社会問題と植民問題』収録]

此特色あればこそ日本民族存在す[「英国帰朝者の見たる現代の吾青年」]『青年』9-6、6月1日

決闘『早稲田講演』1-1、6月1日[『残飯』収録]

社会問題『早稲田学報』196、6月1日[二～五、六の第2段落までを『社会問題と植民問題』の「第1編 社会問題第1章総論第1節社会の分裂」に収録]

仲裁々判論『新日本』1-7、7月1日[『社会問題と植民問題』収録]

如是我観【時評2篇「西園寺侯の不得要領」「昔の政党と今の政党」】『新日本』1-7、7月1日

本大学講師校友永井柳太郎氏[インタビュー記事]『早稲田学報』197、7月1日

婦人の価値『大和なでしこ』11-10、8月15日

独逸の商人『新日本』1-9、9月1日[「独逸の膨張と独逸の商人」と改題『社会問題と植民問題』収録]

倫敦学童の紛擾[談]『読売新聞』9月14日

Is arbitration effective in ending war?『太陽』17-16、12月1日

## 1912(明治45・大正元年)

仏国軌近の植民政策『外交時報』172、1月1日[『社会問題と植民問題』収録]

非天下泰平論『新日本』2-1、1月1日[『社会問題と植民問題』収録]

植民と教育[上野教育会総会講演筆記]『上野教育』291、1月15日

上杉博士の予算先議論を読む『新日本』2-2、2月1日[『社会問題と植民問題』収録]

後藤男訳官僚政治『新日本』2-2、2月1日

積極論[「海軍拡張案(討論題)」]1911年12月15日於早稲田大学雄弁会『雄弁』3-2、2月1日

基督の教会及び社会観[大意筆記]『基督教世界』1485、2月29日

白禍論『新日本』2-3、3月1日[『社会問題と植民問題』収録]

真正の美人[戊申婦人倶楽部2月例会講演要領]『婦女新聞』615、616、3月1、8日

社会主義の勢力米国に振はざる所以を論じて日本政府の移民政策に及ぶ『新日本』2-4、4月1日[「何故米  
国に社会主義の振はざるかを論じて日本政府の社会政策に及ぶ」と改題『社会問題と植民問題』収録]

東拓会社の改悪『新日本』2-4、4月1日[加筆し「東拓会社を戒む」と題して『社会問題と植民問題』収録]

後藤男爵の答弁を読む『新日本』2-4、4月1日

徳利と瓢箪[戊申婦人倶楽部3月例会講演要領]『婦女新聞』620～622、4月5、12、19日

労働組合論『新日本』2-5、5月1日[『社会問題と植民問題』収録]

武士道何くにかある『新日本』2-5、5月1日

嗚呼政友会の前途[「現内閣の運命」]『世界之日本』3-5、5月1日

調停の三方法[「労働争議調停策」]4月13日研究発表大要(於早稲田大学政治学会)『早稲田講演』2-1、5月  
1日

此物働騰貴を如何せむ[談]『新愛知』5月11日

神秘の威厳[講演大意(於早稲田教会)]『護教』1085、5月17日[『残飯』収録]  
文明と並行する事業[「雑纂」]『経済時報』113、5月20日  
拓殖局廃すべからず『新日本』2-6、6月1日[「拓殖局の存廃を論ず」と改題『社会問題と植民問題』収録]  
星野行則著『見学余録』[「新著批評」]『新日本』2-6、6月1日  
重税と其の責任者[「米価騰貴と生活問題」]『実業世界』63、6月3日  
此物価騰貴を奈何せん『経済評論』12-7、6月15日  
国民党に与ふ『新日本』2-7、7月1日  
ステッド氏を弔ふ『新日本』2-7、7月1日[『野声』収録]  
英国学生の暑中休暇[談]『雄弁』3-7、7月1日  
訴ふる能はざる者に代りて訴ふ『新日本』2-8、8月1日[『社会問題と植民問題』収録]  
明治大業史序論[特集号「明治大業史」]『新日本』2-9、9月1日  
富の分配問題『世界之日本』3-8、9月1日  
満鮮は我国にとりて最も重要な殖民地なり[「談叢」]『朝鮮及満洲』58、9月1日  
神秘の崇巖[於早稲田教会]『雄弁』3-9、9月1日  
生活難は人口過剰より来る[談「如何にして労働者下級勤人の生活費を低廉ならしむべきか」]『早稲田講演』  
2-5、9月1日  
自殺論[9月21日演説於新来学生歓迎会]『開拓者』7-10、10月1日[『残飯』収録]  
政友会に与ふ『新日本』2-10、10月1日  
兵役税起すべし『新日本』2-10、10月1日[『社会問題と植民問題』収録]  
新聞革命論『世界之日本』3-9、10月1日  
偽善なる文明『雄弁』3-10、10月1日  
日本現代国民生活の最低限度『早稲田講演』2-6、10月1日  
東欧の風雲・列強の警戒『新日本』2-11、11月1日  
序論[「自殺は認すべきか否認すべきか—内外諸家自殺観—」]『新日本』2-11、11月1日  
統計学上より見たる自殺『六合雑誌』382、11月1日[大幅に改訂し「自殺論(其二)」と題して『残飯』収  
録]  
欧州の大乱を思ふ『新日本』2-12、12月1日  
学習院無用論『新日本』2-12、12月1日[『野声』収録]  
早稲田の魔窟退治に鑑みて全国青年の一斉に奮起せんことを望む『世界之日本』3-11、12月1日  
茅原君の『日本の国民性』を読む『早稲田講演』2-8、12月1日[『残飯』収録]

## 1913(大正2)年

如是我観【時評3篇「大正維新論」「東欧の風雲」「ノルマン、エンゼル氏に与ふ」】『新日本』3-1、1月1日

台湾拓殖会社無用論『世界之日本』4-1、1月1日

支那人に代りて日本人を嘲る文『中央公論』28-1、1月3日

支那人に代りて日本人を嘲る文『中央公論』28-2、1月3日[『中央公論』77-11(1962年10月1日)再録]

冷語熱語【時評3篇「土耳其が欧州より駆逐せらるゝは、日本の外交上有利なるや、將た不利なるや」「須らく蒙古を世界の競売に付すべし」「先づ政友会と国民党を破壊すべし】『新日本』3-2、2月1日[「土耳其が欧州より駆逐せらるゝは、日本の外交上有利なるや、將た不利なるや」は、『野声』収録]

命懸の奮闘を要す『世界之日本』4-2、2月1日

社会主義は富豪の発見なり[「研究及評論】『早稲田講演』3-2、2月1日

今日の英国と明日の英国『外交時報』200付録「六人六国観」、3月1日[『野声』収録]

選挙権拡張論『新日本』3-3、3月1日[『野声』収録]

冷語熱語【時評2篇「須らく監督を継続すべし」「何ぞ言論を以て戦はざる】『新日本』3-3、3月1日

唯青年の奮起に俟つ『世界之日本』4-3、3月1日

大正維新の実を挙げよ『中央公論』28-4、3月1日

大日本膨張論『新公論』28-4、4月1日

拓殖局総裁に与ふ『新日本』3-4、4月1日

冷語熱語【時評2篇「立憲同志会に与ふ」「日本の政治家を憐れむ】『新日本』3-4、4月1日[「日本の政治家を憐れむ」は、『野声』収録]

西班牙殖民政策失敗の原因『朝鮮公論』1-1、4月1日[『野声』収録]

恋愛と孝心とを両立せしむべし[談]『婦女新聞』674~676、4月18、25日、5月2日

須らく海外に発展す可し[「国民の覚醒】『実業之世界』10-9、5月1日[『野声』収録]

大統領リンコルンに代て大統領ウエルスンに与ふ『新日本』3-5、5月1日[『野声』収録]

米国大統領の反省を促す『世界之日本』4-5、5月1日

ビスマルク公を憶ふ『新日本』3-6、6月1日[『残飯』収録]

冷語熱語【時評2篇「帰化権を獲得すべし」「先月の新著】『新日本』3-6、6月1日

卑怯極まる西園寺侯[談]『世界之日本』4-6、6月1日

天下三分論『新日本』3-7、7月1日[『野声』収録]

北信濃の隠れたる偉人『新日本』3-7、7月1日

子供の不幸は母の不徳[「現代三十余名家回答『故郷の追懐】』『成功』25-4、7月1日

宗教に対する吾人の観念『世界之日本』4-7~9、7月1日、8月1日、9月1日【蘇生の活力、耶蘇の社会観、男性的宗教】[「耶蘇の社会観」を『残飯』収録]

何人か詩人にあらざる[講演大意(於本郷中央会堂)]『護教』1145、7月11日[『残飯』収録]

新しき女を論ず『中央公論』28-9、7月15日[「新しき女」と改題、『残飯』収録]

意気に乏しき日本婦人『婦女新聞』688、7月25日

東洋拓殖会社撲滅論『新日本』3-8~10、12、13、8月1日、9月1日、10月1日、11月1日、12月1日

生きんと欲すれば膨張せざる可からず『実業之世界』10-16、8月15日

日本人の晩熟早衰[談]『真人』28、10月1日

議會をして国民の議會たらしめよ[「選挙権拡張問題」]『世界之日本』4-10、10月1日

桂公を弔ふ『新日本』3-12、11月1日[『野声』収録]

軍備拡張裏面暴露－クラブ事件の真相－『東京日日新聞』11月5～8日[「軍備拡張の裏面暴露－クラブ事件の真相－」と改題、『残飯』収録]

宗教座談『世界之日本』4-11、5-2、11月1日、1914年2月1日【耶蘇の雄辯、諸君の胸中に君臨するは何者ぞ】[「耶蘇の雄弁」を『残飯』収録]

精神的二大王国建設の兆あり『実業之世界』10-23、12月1日[「我精神界の二大王国」と改題、『残飯』収録]

### 1914(大正3)年

対支外交の根本方針『新日本』4-1、2、1月1日、2月1日[『野声』収録]

「インデペンデント」主筆ホルト氏の大隈伯評『新日本』4-1、1月1日

婦人は男子の政治に盲従すべきか『婦女新聞』711、712、1月2、9日[『残飯』収録]

蘇峰先生の『時務一家言』を読む『新日本』4-2、3、5、2月1日、3月1日、4月3日[『野声』収録]

人道の敵国民の仇[「国民的裁判－海軍収賄問題」]『実業之世界』11-4、2月15日

山本伯爵の親族政治『新日本』4-3、3月1日

立憲青年党の時代来る『世界之日本』5-3、3月1日

社会問題と貧富の懸隔『愛媛新報』3月17、18日[『新聞集成大正編年史 大正三年度版 上』(明治大正昭和新聞研究会、1978年)収録]

政治道徳の問題 他力政治と自力政治『中外日報』3月28日

他力政治と自力政治『読売新聞』3月31日[『新聞集成大正編年史 大正三年度版 上』(明治大正昭和新聞研究会、1978年)収録]

自力政治と他力政治『第三帝国』8、4月1日

院内の議會と院外の議會[「民衆の勢力によつて時局を解決せんとする風潮を論ず」]『中央公論』29-4、4月1日[『残飯』、『大正思想集 I』<近代日本思想大系 33>(筑摩書房、1978年)収録]

人生の最大疑問－茅原君の『第三帝国論』を読む－『雄弁』5-4、4月1日[「茅原君の『第三帝国論』を読む」と改題『残飯』収録]

「現代諸名士の青年に与ふる金科玉条」『雄弁』5-4、4月1日

「父兄として小学校に対する希望」『日本之小学校教師』184、4月15日

英雄時代より民本時代へ『第三帝国』9、4月16日

自力政治と他力政治『日布時事』4月19日

「我国の基督教青年会に對する感想と批評と要求と」『開拓者』9-5、5月1日

政界時事 冷語熱語【時評 5篇「新日本の新内閣を歓迎す」「官僚内閣とは何ぞ」「誰か禍内に在りとなす者

ぞ」「虞翁何ぞうらやむに足らん。茫増何ぞ乏しとせん。」「須らく三派合同、以て一大政党を組織すべし!」  
『新日本』4-6、5月1日

憲政擁護乎閥族擁護乎 不見識なる新聞記者を戒む『世界之日本』5-5、5月1日

傍若無人論[「講壇」講演大意(於早稲田教会)]『護教』1188、5月8日

傍若無人論『中外日報』5月8~11日

社会問題の基督教化[23日講演抄(於中央会堂)「講壇余響」]『福音新報』987、5月28日

政界時事 冷語熱語【時評5篇「犬養毅君に与ふ」「内閣の寿命」「政友会遂に一人の総裁なきか」「地方長官を戒む」「大隈内閣に感謝す!」】『新日本』4-7、6月1日

非モンロー主義論『新日本』4-7、6月1日[『野声』収録]

犬養毅君に与ふ『世界之日本』5-6、6月1日

生きるも死ぬも『第三帝国』12、6月1日

何の故に野依君の出獄を歓迎するか『実業之世界』11-12、6月15日

社会問題の基督教化『貿易』15-6、6月15日

政界時事 冷語熱語【時評3篇「第二次大隈内閣と第二次虞翁内閣と」「天下と共に天下を議す」「非モンロー主義の駁論に答ふ!」】『新日本』4-8、7月1日[「非モンロー主義の駁論に答ふ」は、『野声』収録]

大丈夫論『稲友会雑誌』6、7月7日

宗教的文明史観『中外日報』7月18、19日

政界時事 冷語熱語【時評4篇「政友会国民を欺く」「政友会真の多数党にあらず」「沈黙も演説も共に内容の空虚なるを証明す!」「変説当然論!」】『新日本』4-9、8月1日[「変説当然論」は、『野声』収録]

チエムパレンの死を聞きてセシルローズを憶ふ『世界之日本』5-8、8月1日

[「名士と銷夏法!」]『朝鮮公論』2-8、8月1日

文明史上に於ける基督教徒の一大貢献『六合雑誌』403、8月1日

馬鹿々々しき日本人の二重生活の数々『実業之世界』11-17、9月1日

政界時事 冷語熱語【時評4篇「噫、人種戦争」「戦後の極東を思ふ」「フランツ・ヨゼフ老帝を憐む」「汝自身を知れ!」】『新日本』4-10、9月1日[「フランツ・ヨゼフ老帝を憐む」は、『野声』収録]

三国同盟・露仏同盟・日英同盟・四国協商の小歴史『新日本』4-10、9月1日

悲劇の主人公フランツ、ヨゼフ皇帝『世界之日本』5-9、9月1日

北進か南進か『冒険世界』7-9、9月1日

民族戦争の端緒既にかかる『六合雑誌』404、9月1日

最近の外交に於ける裏面の勢力—今次欧州戦乱の根本的原因—『早稲田講演』4-9、10、9月1日、10月1日

文明史上に於ける基督教の貢献[同志会講演]『基督教世界』1615、9月3日

野獣の如き独逸国民[談]『新小説』19-10、10月1日

誤れる国民の態度『新世紀』4-4、10月1日



政界時事 冷語熱語【時評 4 篇「世界の欠伸」「維廉二世と奈破翁三世」「唇破れて齒寒し」「米国の突進】『新日本』 4-12、10 月 1 日[「世界の欠伸」「米国の突進」は、『野声』収録]

ビスマルクに代つてカイゼルを嘲る文[「故人となりし十二偉人に代つて時局を論ずるの書】『中央公論』 29-11、10 月 1 日

[「現代名士処世訓】『雄弁』 5-10、10 月 1 日

戦前外交と戦後外交『新日本』 4-13、14、5-1、11 月 1 日、12 月 1 日、1915 年 1 月 1 日

『偽りの予告者』を慎め『世界之日本』5-11、11 月 1 日[「救世軍は理想に近し」と題して『ときのこゑ』454、1914 年 11 月 15 日に抄録]

[「仏蘭西、白耳義旅行の印象】『六合雑誌』 406、11 月 1 日

## 1915(大正 4)年

憐れむべき現代の老人を解剖す『実業之世界』 12-1、1 月 1 日

沢柳、加藤両博士の国定教科書論を読む『新日本』 5-1、1 月 1 日[『野声』収録]

民族的発展の時代『世界之日本』 6-1、1 月 1 日

[「社長の進退に対して諸名士は如何に之を見たるか】『実業之日本』 18-1、1 月 1 日

変説当然論[於大日本雄弁会主催時局問題大演説会]『雄弁』 6-1、1 月 1 日

経済的海外膨張論[「世界経済】『外交』 1-2、1 月 15 日

「新日本」の檄『新日本』 5-2、2 月 1 日

階級政治か国民政治か『新日本』 5-3、3 月 1 日

青年諸君に与へて既成政党の撲滅を論ず『世界之日本』 6-3、3 月 1 日

自由政治と階級政治『朝鮮公論』 3-3、3 月 1 日

外交問題と増師問題『早稲田講演』 5-3、3 月 1 日

[「現今学生に対する金言及び座右の銘】『開拓者』 10-4、4 月 1 日

政治時評 鞭声【時評 5 篇「『来たり、見たり、勝ちたり。』」「歓楽極つて哀情多し」「愚か、狡か、選挙干渉論！」「無道徳対有道徳の戦争」「青年政治家出でよ！】『新日本』 5-5、5 月 1 日

新理想主義の時代『世界之日本』 6-5、5 月 1 日

宗教と生活[演説要旨]『六大新報』 607、5 月 16 日

対支外交の失敗何処にありや[「当面の支那問題】『新日本』 5-6、6 月 1 日

訴ふる能はざる者に代りて訴ふ『新日本』 5-6、7、6 月 1 日、7 月 1 日[『社会問題と植民問題』収録]

近代日本の先駆者『世界之日本』五周年に題す『世界之日本』 6-6、6 月 1 日

英国の学生生活[「現代の学生】『中学世界』 18-8、6 月 5 日

支那人に誨ふ『雄弁』 6-7、7 月 1 日

農民発展の新天地開かる[「大正時代と社会問題の解決】『中央公論』 30-8、7 月 15 日

『訴ふる能はざる者に代りて訴ふ』の論文中止に就て『新日本』 5-8、8 月 1 日

満鮮移民政策の根本的解決 北進主義の高調と新二師団兵員問題『朝鮮公論』3-8、8月1日

日本の殖民政策代表者は果して誰なりや 朝鮮を視察せる余の観察『朝鮮公論』3-9、9月1日

\*永井教授之欧州戦局談『順天時報』9月3日[北京刊、中国文]

朝鮮は中々趣味がある 在住日本人の情味に感じた[「予は如何に朝鮮を觀しか」]『朝鮮及満洲』99、10月1日

支那に渡りて感慨更に新なり『第三帝国』54、10月11日

受動的日本より発動的日本へ—大正文明史の序論に代ふ—[「大正文明史」]『新日本』5-11、11月1日[『野声』収録]

支那大観『早稲田講演』5-11、11月1日

青年をして破壊の天職を遂げしめよ[「全国青年団に対する政府の処置」]『早稲田文学』120、11月1日

[「大浦、乃木問題に対する代表輿論(二)乃木伯爵復興問題」]『実業之世界』12-23、11月15日

[「知友同情録」]『第三帝国』11月29日

所謂六十三号論—台湾特別立法制度改良私案—『新日本』5-12、12月1日[『野声』収録]

野依秀一君に答ふ『実業之世界』12-24、12月1日

## 1916(大正5)年

支那大観『新日本』6-1~5、1月1日、2月1日、3月1日、4月1日、5月1日[『支那大観と細観』収録]

人種問題の解決[「現代名士回答 大正時代に日本の成すべき事業」]『成功』13-1、1月1日

内閣諸公及び貴衆両院議員に与へて拓殖務省再興の急務を論ず『中央公論』31-1、1月1日

[「生理上並びに現代日本の社会状態より觀たる女子の結婚適齡」]『婦人公論』1-1、1月1日

松島の曙『雄弁』7-1、1月1日

太陽の如く生きよ『六合雑誌』420、1月1日

恐るべき避妊[「よみうり婦人付録」]『読売新聞』1月11日[『新聞集成大正編年史 大正五年度版 中』(明治大正昭和新聞研究会、1982年)収録]

社会問題に於ける基督教の使命[梗概筆記]『基督教世界』1688、1689、2月10、17日

婦人自身の問題[「よみうり婦人付録」]『読売新聞』2月13日

労働者の惨状を訴ふ『一大帝国』1-1、3月1日

[「農村と青年 名士の農村観」]『東京日日新聞』3月27日[『新聞集成大正編年史 大正五年度版 中』(明治大正昭和新聞研究会、1982年)収録]

神聖なる一日『開拓者』11-4、4月1日

世界的競争時代『一大帝国』1-3、5月1日

独逸は何故に強きか『一大帝国』1-4、6月1日

日支共同武装的産業論『新日本』6-7、8、7月1日、8月1日[『支那大観と細観』収録]

「[タゴールの印象と感想] 『六合雑誌』 426、7月1日  
最大なる生活[講演] 『六合雑誌』 427、8月1日  
朔北の荒原より 『新日本』 6-9、10、9月1日、10月1日  
青年をして破壊の天職を遂げしめよ 『青年及青年団』 7-10、10月1日  
永井[「解散? 否? 三十八議會」] 『青年』 4-10、10月1日  
小日本より大日本へ 『朝鮮公論』 4-10、10月5日  
我輩の平生 『朝鮮公論』 4-10、10月5日  
永井教授の満鮮視察談[談] 『早稲田学報』 260、10月10日  
武装的産業と日支の関係 『一大帝国』 1-10、11月1日  
最大の生活 『新日本』 6-11、11月1日  
時勢は青年の活躍を望む 『一大帝国』 1-11、12月1日  
殖民地の活動写真 『活動之世界』 1-12、12月1日  
時事評論 直言【時評 4 篇「帝国主義とは何ぞ」「大哲出でよ! 英雄出でよ!」「日本には日本の憲法政治あり」「露西亜文学と日本文学」】 『新日本』 6-12、12月1日  
満蒙銀行無用論 『東方時論』 1-4、12月1日  
露支両国民頗る相似たり 『日本乃関門』 11、12月1日

## 1917(大正 6)年

立憲青年党の出陣に餞す 『一大帝国』 2-1、1月1日  
満鮮の地に卿等の影を印すべし[談] 『学生』 8-1、1月1日  
大正の青年を罵る者を罵る 『実業之世界』 14-1、1月1日  
偉大なる青年出でよ 『柔道』 3-1、1月1日  
肉食人種と菜食人種の異同を論じて東西両文明の調和を説く 『中央公論』 32-1、1月1日[「肉食人種と菜食人種との間に於ける文化的特質の差異を論ず」と改題、『改造の理想』収録]  
挙国一致の非常準備[談] 『新潟新報』 1月3日  
[「早慶戦復活の可否」] 『野球界』 7-1、1月5日  
超然内閣と超然政党 『一大帝国』 2-2、2月1日  
時事評論 直言【時評 3 篇「ロイド・ジョージ氏に告ぐ」「国民的維新より世界的維新へ」「学生諸君に檄す」】 『新日本』 7-2、2月1日  
日支提携の要此に在り 『大陸』 43、2月1日  
帝国に此の使命あり 『雄弁』 8-2、2月1日[1917年4月5日付『北国新聞』掲載「永井氏回答」で、勅使河原某が断りなく執筆し発表したものであり、責任を負わないと声明している]  
米国海軍拡張に就て我造船業者の覚醒を促す 『鉄工造船時報』 2-2、2月5日  
自覚ある個人主義 粗製濫造の原因に対して 『蓄音器世界』 4-2、2月10日

首相及び内相に与へて植民教育機関の設立急務を論ず『新日本』7-3、3月1日

内地人に告げて大日本建設の責任を論ず『台湾日日新報』3月13、14日

上杉博士の解散論を読む『一大帝国』2-4、4月1日

民本的帝国主義『黒潮』2-4、4月1日

長州人の日本か日本人の日本か—吾等は世界の白人閥を打破する前に先づ日本の長州人閥を打破せざるべからず—『新日本』7-4、4月1日[『復録版・大正大雑誌』(流動出版、1978年)収録]

告文[記事「永井氏動静」中]『北国新聞』4月1日

立候補宣言書『北国新聞』4月2日[同日附『北陸新聞』、『石川毎日新聞』にも掲載]

[記事「永井氏回答」中の金沢実業倶楽部の公開状に対する回答文]『北国新聞』4月5日

敵敵中橋徳五郎氏に与ふる公開状『第三帝国』83、4月10日

金沢市の青年に告ぐ『北国新聞』4月10日

立憲政治と選挙権拡張『一大帝国』2-5、5月1日

敗戦所感[「最近思潮」]『第三帝国』84、5月10日

新しき『吾れ』と新しき政治『新日本』7-6、6月1日[『改造の理想』収録]

拓殖務省再興と関東都督府の廃止[「第三十九議会に係る政界諸問題の研究」]『大学評論』1-6、6月1日

[記事「免職になつた永井柳太郎教授ら語る」中の談]『東京日日新聞』6月5日[『大正ニュース事典 III』(毎日コミュニケーションズ、1987年)収録]

昨日と明日[「講壇」]『護教』1297、6月9日

我觀支那『日本社会学院年報』4-3・4・5、6月11日

自己発見論『一大帝国』2-7、7月1日

同盟罷工予防案『実生活』10、7月1日

時事評論 直言【時評3篇「吾等の誠忠を信ぜよ」「二種の挙国一致」「日支貨幣同盟の議」】『新日本』7-7、7月1日

[「娘の読むべき書物」]『婦人公論』2-7、7月1日

天人一体[5月12日講演(於自由基督教会春季講演会)]『六合雑誌』438、7月1日

[「休み日と働く時間」]『労働及産業』71、7月1日

先づ婦人の自覚を要す『婦女新聞』894、7月6日

殖民政策の確立と殖民省問題『日本乃関門』18、7月11日

民族発展『神戸新聞』7月27～29日

日本のラサルル[「中央諸名士の觀たる佐渡諸名士 日本思想界の惑星 北照輝次郎君」]『佐渡新聞』7月28日[『北一輝著作集 第3巻』(みすず書房、1972年)収録]

欧州戦争より見たる工手学校『稲友会雑誌』12、7月

帝国主義の進化を論ず『新日本』7-8、8月1日[「帝国主義の進化」と改題『改造の理想』収録]

民族的発展の趨勢『海之世界』11-9、9月1日

海外移住は有益無害か無益有害か無益無害か將た又有益有害か『新日本』7-9、9月1日

食料品の暴騰と救済策『地方行政』25-9、9月1日

殖民政策の根本方針を論じて満鮮統一に及ぶ『中央公論』32-10、9月1日

[記事「早大の紛糾甚しく教授五名減らる」中の談「理由が薩張り判らぬ」]『東京日日新聞』9月5日[「免職になつた永井柳太郎教授ら語る」と題して『大正ニュース事典 III』(毎日コミュニケーションズ、1987年)収録、ただし6月5日と誤記]

労働争議の解決方法—如何にして同盟罷業を予防し、又之を鎮定し得べきか『新日本』7-11、10月1日

[「新時代に対する要求」]『雄弁』8-12、10月10日

政治を談ずる英国少女『家庭及学校』1-7、12月1日

大陸啓蒙の第一鐘『経済時報』179、12月1日

## 1918(大正7)年

今後殖民政策は如何にす可き乎『権太日日新聞』1月1日

第二維新と世界的維新『第三帝国』91、1月10日

南洋觀察所感[述]『台湾日日新報』1月25、26日

\*日本の文化的使命『大学評論』2-2、2月1日[『東洋哲学』25-4、4月1日抄録]

戦争目的と首相及外相の言動[「第四拾議会に於ける国务大臣の言動を批判す」]『大学評論』2-3、3月1日

\*根底なき平和を排す『青年雄弁』3-3、3月1日

大人格即大日本[「講壇」講演於青山学院講堂]『護教』1386、3月8日

晩鐘曉鐘[3月15日講演於青年会館]『婦人週報』4-12、3月22日

[「現代名家の見たる結婚に関する三つの問題」]『主婦之友』2-4、4月1日

若し講和が成立すれば何時?如何に?『新家庭』3-4、4月1日

\*暮鐘曉鐘『青年雄弁』3-4、4月1日

我世界的大使命を果たす前提としての日支提携『中央公論』33-4、4月1日

富の分配状態と国運の消長『日本評論』83、4月1日

外交立正安国論『新時代』2-5、5月1日[「立正安国」と題して『改造の理想』第3章第3節(其二)に収録]

西洋近時の發展『新修養』9-5、5月1日

『皇室社会新政』とは何ぞ!—鈴木梅四郎氏の新著『皇室社会新政』を読む—『新日本』8-5、5月1日

西伯利論『露西亞評論』1-3、5月1日

那翁戦後の神聖同盟に比すべき世界戦後の共和同盟『雄弁』9-6、5月1日

世界の大大勢に鑑み外相抜擢の新例を愉ぶ[「新たに外相の印綬を帯びたる後藤新平男」]『実業之世界』15-10、5月15日

戦後の世界と極東の危機[「列国と対亜細亞問題」]『朝鮮公論』6-6、6月1日

\*植民政策の根本問題『山東公論』6月

南進政策大観『実業之世界』15-13、7月1日

戦後の亜細亞『青年雄弁』3-7、7月1日

戦後の新世界と東洋の問題 植民政治に失敗せる英国の将来『朝鮮及満洲』133、7月1日

戦後の亜細亞[5月24日(於植民講演会)]『雄弁』9-8、7月1日

新日本の建設より新世界の建設へ[7月29日、オレゴン州日本人会主催講演会演説筆記]『中央日報』7月30、31日、8月1~3日

日本は挙国一致内閣の必要一行詰つたる日本の古い政治家連中 世界文明の中心は愈米国に移りたる者也 [談]『新世界』8月4日

壮大なる米国の将来 将来の世界文明中心地は欧州を離れて米国に移る 永井柳太郎氏の縦横談[談]『日米 [The Japanese American News]』8月4日

生存競争には三の種類あり 白哲人種の人種的観念を打破すべしー日支提携は我日本の為重要な問題なりー[8月3日講演(於リフォームド教会)「余は日本人として生れしを光榮となす」概要]『新世界』8月5日

[記事「滔々懸河の弁 澤柳、永井両氏講演会」中の8月3日講演(於リフォームド教会)「余は日本人として生れしを光榮となす」概要]『日米[The Japanese American News]』8月5日

デモクラシーの為め戦ふ日本の立場を米人に告げよ 吾人の解決すべき労働婦人人種の三大問題[8月9日演説「暮鐘曉鐘」概要(於オークランド)]『新世界』8月11日

西比利亞の獨塊勢力 内地の秩序は全部彼等に破壊さる 周到なる独逸の侵略的遠謀[談]『日米[The Japanese American News]』8月12日

新たなる日本を産むの苦み 日本及日本人に新生を齎すべき道 宇宙の大精神に触れよと永井柳太郎氏獅子吼す[8月11日講演「日本及び日本人の再生」概要(於王府独立教会)]『新世界』8月13日

排日論者と会見 労働党首領と興味ある封話[談]『日米[The Japanese American News]』8月18日

自然美と人間美[8月16日演説筆記(於仏教青年会館)]『羅府新報』8月21、22日

余は日本人たるを光榮とす[8月22日演説大要(於於テンペランス・ホール)]『羅府新報』8月24日

永井君の手紙[22日掲載文の誤記訂正依頼文]『羅府新報』8月24日

故国暴動根本的解釈 此れ断じて単独的突破事件に非ず[談]『日米[The Japanese American News]』9月3日

新日本の先駆者の墓 布市羅府の同胞[談]『日米[The Japanese American News]』9月2日

原加藤犬養聯合内閣成立か、原加藤犬養聯合内閣成立か 寺内々閣瓦解後の後継者問題[談]『新世界』9月9日

八十一歳の高齡にて大命を降されたる大隈侯多分辞退して園侯を推さん[談]『新世界』9月23日

貴族、軍人の専制打破 世界の改造は日本民族の使命[23日講演「欧州戦乱と世界の改造」概要於ニューヨーク]『紐育新報』467、11月27日

北米通信[私信]『六合雑誌』455、12月1日

## 1919(大正 8)年

自然と家庭の団欒[「趣味を透して観たる紐育の人々」]『紐育新報』477、1月1日

社会改造の三大問題を解決すべく在米青年諸氏の奮起を促す『紐育新報』477、1月1日

民主々義の徹底及世界の改造と其将来『日布時事』1月1日

講和会議に暴露したる我外交の時代錯誤『大阪毎日新聞[夕刊]』6月15~18、20、21、23~27日【未曾有の講和会議、我全権の無為無能、五大国会議除外(上)(下)、支那委員日本全権を凌ぐ(上)(下)、人権問題失敗の責任(1~3)、実際問題以外における日本全権の失態(上下)】[「講和会議に暴露したる日本外交の時代錯誤」と改題、『改造の理想』収録]

時代錯誤の外交『東京日日新聞』6月15、17~23、26~28、30日【1 経世家の会合、2 我国の代表者、3 スフィンクス、4 三頭首窮す/日本全権狼狽、5 失態百出す、6 不用意の日本、7 時代錯誤の外交 日支委員比較(上)、8 時代錯誤の外交 日支委員比較(下)、9、10 人種案葬らる、11 重大なる過失、12 無思想没理想】

講和会議を目撃して[談]『大阪毎日新聞[夕刊]』7月3日

永井氏歴遊談『東京日日新聞』7月3日

英国の三大変化[談]『東京日日新聞』7月8日

講和会議の真相『中国民報』7月16~21日

\*過激派主義是非[談]『大阪新報』7月22日<神戸大学付属図書館「新聞記事文庫」所蔵>

日本は一層の努力を要す 英国官憲は日本人を危険視す 労働団体は今後世界の大勢力 永井柳太郎氏巴里より帰朝して語る[談]『日米[The Japanese American News]』7月26日

日本の改造『中国民報』7月29、30日

\*巴里視察 日本委員の無能振り『潮』2-8、8月1日

世界の二大勢力より脅かさるゝ日本『中央公論』34-9、8月1日

英米の世界的指導と日本[「仏国より祖国へ」]『東方時論』4-8、8月1日

「講和問責演説会」(22日於下山手青年会館)中の演説「他力政治より自力政治」概要『神戸新聞』8月23日

日本政党の現状は世界の恥辱なり『潮』2-9、9月1日

政治上は民衆本位 経済上は労働本位の革新を要す『教育学術界』39-6、9月1日

日本使節の無能ぶり[「講和使節を迎ふ 新帰朝永井・長島・中野氏の講和会議見聞記」]『寸鉄』1-9、9月1日

思想上の十字路に迷へる米国—世界文明の指導者か威嚇者か—『中央公論』34-10、9月1日

最近欧米労働運動の帰趨『労働世界』4-9、9月1日

世界の二大勢力と東亜の将来『朝鮮及満洲』147、9月5日

我が講和使節は一世紀遅刻せり[8月28日外交問責大会演説於築地精養軒]『亜細亜時論』3-8、10月1日

情弊打破適材拔擢の実現『実業之日本』22-20、10月1日

日本人の民族的理想を論ず『新時代』3-10、10月1日

汎亜米利加主義の暴を排す[「対米時潮」]『東方時論』4-10、10月1日

「生活改造は何より着手すべきか」『婦人之友』13-10、10月1日  
那翁戦後の政治革命と世界戦後の経済革命『雄弁』10-11、10月1日[『改造の理想』収録]  
社会改造の第一歩『労働世界』4-10、10月1日  
平和後の大勢力『日本乃関門』49、10月11日  
餓死線に抛る欧州生霊四億万『寸鉄』1-11、10月20日  
改造の原理『中外新論』3-11、11月1日[『改造の理想』収録]

## 1920(大正9)年

南洋委任統治の真価値『公論』2-1、1月1日  
道理の権威に依れ「対米根本政策の樹立」『新時代』4-1、1月1日  
破関第一声 藩関・財関・軍関・閥関・学関の打破『寸鉄』2-1、1月1日  
\*見えざる世界の改造『青年改造』1-1、1月1日  
欧州に於ける労働運動の過激化と米国に於ける世界征服の理想『青年雄弁』5-1、1月1日  
民衆の自覚と悪制度の撤廃「日本の現状を如何にして改造す可きか」『青年雄弁』5-1、1月1日  
「新世代の子の為に「改造」—それに順応さすべくお父さんのお考へはどうか—(各家庭の答案)—」『東京日日新聞』1月1日  
新現象としての婦人問題『東方時論』5-1、1月1日  
サンヂカリズムと社会主義『労働世界』5-1、1月1日  
新理想主義時代『国民新聞』1月8、9日  
噫無情[書信の一節]『日米[The Japanese American News]』1月23日  
民衆文化の建設時代「民衆意識の具現と新政治の基礎」『新時代』4-2、2月1日  
学生時代の杉中君「杉中主幹追悼録」『新時代』4-2、2月1日  
国際連盟の日本に及ぼす影響『青年雄弁』5-2、2月1日  
徹底せる公論によつて決せよ「最近民衆運動批判」『改造世界』3-3、3月1日  
\*過激主義大観『青年改造』1-3、3月1日[『教育時論』1257(3月15日)に「過激主義は労働者専制主義」と題して抄録]  
大正維新は明治維新の論理的帰結である『青年雄弁』5-3、3月1日  
民衆文化の建設と改造運動『労働世界』5-3、3月1日  
如何なる程度の変化「百年後の日本はどうか?」『日本及び日本人』780、4月5日  
新理想主義時代『修養世界』9-4、5月1日  
青年の文化的使命『青年雄弁』5-5、5月1日  
社会改造の為に新劇の勃興を促す「談「日曜付録」」『読売新聞』5月23日  
\*国民は墮落せり『二六新聞』6月17日



根本は普選にあり[「特別議会に際して」談]『大阪朝日新聞』6月26日  
総選挙の市部戦郡部戦－(地方青年の政治的覚醒)－『寸鉄』2-7、7月1日  
富の分配と負担の均等『朝鮮公論』8-7、7月1日  
政界一新と普通選挙[「臨時議会当面の問題」]『東方時論』5-7、7月1日  
普選急要の理由[談]『万朝報』7月4日  
四面悉く狂瀾怒濤『武侠世界』9-10、7月10日  
議会の自縄自縛『国民新聞』7月16日  
阪神市民の嚮背 常に政府の一敵国たり[談]『神戸新聞』7月31日  
社会共存の倫理と臨時議会『改造』2-8、8月1日  
初めて議会を観て[「代議士の観た臨時議会と地方問題」]『地方行政』28-8、8月1日  
議会政治の使命の為に[「初めて議政壇上に立ちて」]『中央公論』35-9、8月1日  
凡ての本位を改むるの時代[「6月18日講演於新婦人協会主催演説会」]『婦人新報』276、8月1日  
[「旅館について思ふこと改良したきこと」]『婦人之友』14-8、8月1日  
早稲田大学講師時代[「小山鼎浦氏の追憶」]『六合雑誌』475、8月1日[「早稲田大学講師時代の小山君」と  
改題、西田耕三編『鼎浦小山東助の思想と生涯』(浦小山東助顕彰会、1979年10月20日)収録]  
偉大なる我が国民性『廓清』10-8、8月10日  
米国鉄道と罷業問題『鉄道』170、8月15日  
議政壇上に立て(臨時議会の厳正批判)『万朝報』8月15日  
不徹底なる民衆運動－東西国民性の差異を生ぜざる諸因－『実業之世界』17-9、9月1日  
新人の議会観『新青年』1-9、9月1日  
世界米化主義対世界文化主義の前衛戦としての排日問題と其解決『中央公論』35-10、9月1日  
世界的文化と台湾人の使命『台湾青年』1-3、9月15日  
世界的文化與台湾人之使命[漢文]『台湾青年』1-3、9月15日  
太平洋文明の時代は来れり『植民』5-10、10月1日  
新思想の基調と其批判『新青年』1-10、10月1日  
農村を背景としての社会問題『農業世界』15-13、10月1日  
言論の自由と民権の擁護[7月22日演説(於東京神田青年会館)]『雄弁』11-10、10月1日  
[「現代青年に対する希望」]『雄弁』11-10、10月1日  
[「永井代議士時事談」中の談]『神戸新聞』10月13日  
来る十一月二日を期して実行せられんとする加州排日一般投票と邦人の運命『実業之日本』23-20、10月  
15日  
[「現代新聞への註文三ヶ条」]『新聞及新聞記者』1-1、10月23日[復刻版『新聞及新聞記者』第1巻(金沢  
文圃閣、2021年)収録]

寧ろ米国を引揚げよ[談]『経済時報』206、11月1日  
[「理想の婦人及び妻」]『婦人くらぶ』2、11月1日  
労働運動と宗教[「論説」]『雄弁界』1-1、11月1日  
排日は日米通商條約の違反『日本乃関門』62、11月11日  
[「代議士は婦人参政権を何と見るか」]『女性同盟』3、12月1日  
弁解の辞なし[談]『東京朝日新聞』12月28日  
飽迄理想実現[談]『読売新聞』12月28日

## 1921(大正 10)年

[「日本婦人の参政権問題 参政権を与ふるの可否 与ふるとせば其時期は」]『主婦之友』5-1、1月1日  
階級意識より全体意識へ『信州』3-1、1月1日  
欧州外交界の秘密[談]『寸鉄』3-1、1月1日  
新議會主義を提唱す『中央公論』36-1、1月1日  
政界裁断論[「原内閣打破論」]『中外新論』5-1、1月1日  
時代と自治『地方行政』29-1、1月1日  
冥土の旅に迷ふ人[「門松は冥土の旅の一里塚 目出度もあり目出度もなし」]『日本及び日本人』799、1月1日  
農村社会問題としての大地主と小作人『農業世界』16-1、1月1日  
宗教の民衆化[「現代文化生活に於て在来の宗教は如何に改造さるべきか」]『六合雑誌』480、1月1日  
黎明は近づけり『山陽新報』1月3日  
世界の黎明近づけり 苦悩は新理想到来の前駆『神戸新聞』1月4日  
母の読む小説より 北国新聞一万号に際して『北国新聞』1月10日  
婦人参政の理想と実際[「日曜論壇」]『国民新聞』1月23日[『婦人問題講演集 第3輯』(石川六郎編・民友社、1921年4月25日)、『婦人問題講演集』第2巻(日本図書センター、2003年)収録]  
\*改造運動の根本精神『世界公論』[6-1]、1月  
\*[未詳]『北陸青年』2-1、1月  
改造運動と精神的覚醒『国民精神』8-2、2月1日  
加州フレズノに日本人墓地を訪ふ『寸鉄』3-2、2月1日  
国家主義と國際主義は矛盾せず[「自国本位主義対國際協同主義批判」]『中央公論』36-2、2月1日  
白人専制の打破『日華公論』8-2、2月1日  
もつと根本的な仕事を[「花柳病者に対する『拒婚同盟』設立の趣旨並に批判」]『婦人公論』6-2、2月1日  
欧米の議會と日本の議會『雄弁界』2-1、2月1日  
改造運動と精神的覚醒『弘道』348、3月1日[『国民精神』8-2、2月1日から転載]

文化思想の移動と国際的正義『創造者』1-1、3月1日  
大正維新の実現『中外新論』5-3、3月1日  
皮肉なる反抗[「お茶の水の「心中・三味線問題」批判】『婦人公論』6-3、3月1日[『「婦人雑誌」がつくる  
大正・昭和の女性像 第18巻 社会・時代1』(ゆまに書房、2015年)収録]  
東京市政の改善[1920年12月20日演説於青年会館]『雄弁』12-3、3月1日  
婦人解放運動の現状—今議会に提出された法律案の成行き『新家庭』6-4、4月1日  
我が憲政斯くの如く夫れ危し[「我が憲政を阻害する憂ふべき近時の諸現象】『中央公論』36-4、4月1日  
幕府の末期に髣髴たる国状『暁鐘』1、4月5日  
唯物主義政治より新理想主義政治へ『憲政公論』1-1、4月10日  
「鏡に映れる醜婦の顔」[「政治道徳・社会道徳の根本的革新の機】『中央公論』36-5、5月1日  
加藤総裁と原総裁の最も異なる一点『中外新論』5-5、5月1日  
何故農民は都市に集中するか『農業世界』16-6、5月1日  
[「余の弁論練習中最も苦心したる諸点】『雄弁』12-5、5月1日  
[「レーニン政府の施設は人類の幸福に適して居るか……否か】『野依雑誌』1-1、6月1日  
新婦人の発足点は此処から『料理の友』9-6、6月1日  
網紀弛廢の社会的及心理的考察『中央公論』36-7、7月1日  
農政の本位を改むる時代—大地主本位より小作人本位へ—『中央公論』36-8、7月15日  
現代思潮と青年の覚悟『寸鉄』3-8、8月1日  
第一義に生くる者は強し[「国際關係に於ける感情・利害・正義の力】『中央公論』36-9、8月1日  
ロイドジョージが内相なら床次のヌーボーちゃ[談]『読売新聞』8月2日  
拓殖政策上より見たる朝鮮開發『廓清』11-8、8月10日  
公論によつて決せよ『憲政公論』1-5、8月10日  
婦人問題の人間の考察[談]『上毛新聞』8月11日  
近代政治の理想『台湾青年』3-2、8月15日  
近代政治之理想[中国語訳]『台湾青年』3-2、8月15日  
山座氏を憶ふ[「無限軌道】『読売新聞』8月17日  
立憲政治即公開政治 罪惡防禦の爲めの秘密 [「秘密政治と公開政治】『自由評論』9-9、9月1日  
直訳的態度を排す[「プロレタリアの専制的傾向に対するインテリゲンツィアの偽らざる感想】『中央公論』  
36-10、9月1日  
世界的帝国主義『中外新論』5-9、9月1日  
床次内相の訓令を讀みて『憲政公論』1-6、9月10日  
\*太平洋會議と日本『野依雑誌』1-5、9月  
不可解なる米国の態度[談「太平洋問題】『新青年』2-10、10月1日

新日本の建設『中外新論』5-10、10月1日  
支那の国際管理は日本外交の国際管理『日華公論』8-10、10月1日  
[「青年男女交際の許さるべき範囲及方法」]『婦人公論』6-11、10月1日  
政治家としての三要素『雄弁』12-10、10月1日  
太平洋会議と日本の覚悟『実業公論』[7-11]、11月1日  
光は東方より『表現』1-1、11月3日  
演説は信念である熱烈なる祈祷である[「演説の心得」]『愛国青年』132、12月1日

## 1922(大正 11)年

根本的改造の第一歩[「貴族院改造問題」]『寸鉄』4-1、1月1日  
世界に於ける日本の地位『中央史壇』4-1、1月1日  
演説は祈祷なり[「趣味と研究と紀行文」]『中外新論』6-1、1月1日  
[「大正十一年に対する予言と希望」]『読売新聞』1月3日[『新聞集成大正編年史 大正十一年度版 上』(明治大正昭和新聞研究会、1983年)  
吾百万の党員に熱望す『憲政公論』2-1、1月10日  
総理大臣で健康を害す[談「薨去した大隈侯」]『北国新聞』1月11日  
大隈侯の事ども[談]『北国新聞』1月12～14日  
熱血の侯逝きて政界暗し『実業之日本』25-3<大隈侯哀悼号>、2月1日  
[「一、現代青年の指導者として何人か最も適任であるか其人を三人 二、現代青年に政治教育を施する可否」]『愛国青年』135、3月1日  
性的知識の普及を望む『性』5-4、3月1日  
是れ国民生死の境『中外新論』6-3、3月1日  
人間性の自覚『憲政公論』2-3、3月15日  
思想取締は天下の愚『新支那』3月28日  
死ぬるか生きるか[講演要領文責在記者]『廓清』12-3、4月1日  
英米は虚偽の平和論者なり『中外新論』6-4、4月1日  
死ぬるか生きるか『雄弁』13-4、4月1日  
\*東西婦人恋愛の濃淡『性と愛』[2-4]、4月  
思想界の激変『中外新論』6-5、5月1日  
政党の民衆化と合理化[「議会改造の批判」]『表現』2-5、5月1日  
欧州強国の植民教育状況－实际的知識の普及機関を急設せよ『自由評論』10-6、6月1日  
第三党の無意義と有意義『中央公論』37-6、6月1日  
[「政変批判と希望条件」]『実業公論』8-7、7月1日

加藤首相の罪過『中外新論』6-7、7月1日

色盲内閣の苦悶『憲政公論』2-7、7月15日

生きんがための戦争より生きんがための平和へ『中央公論』37-8、7月15日

〔「貴下が実行され又実行せんとする銷夏法。夏季休養日を如何に活用すべき乎。夏期休暇廃止の可否に就いて」〕『実業公論』8-8、8月1日

〔「寺に関する印象」〕『中央仏教』6-8、8月1日

無意義なる加藤内閣『中外新論』6-8、8月1日

真の恋愛、真の貞操は生命を超越して輝く『婦人倶楽部』3-8、8月1日

近代思想上に於ける宗教的傾向『上毛新聞』8月22～26日

大正維新を断行せよ〔6月27日演説要旨(於神田青年会館)〕『憲政』5-5、8月25日

土地と自由とを与へよ—小作争議の唯一の解決法—〔「農村に関する諸問題」〕『中央公論』37-10、9月1日

婦人の自觉と婦人の解放『婦人界』6-9、9月1日

外交の危機に面して『雄弁』13-9、9月1日

民衆に超然たる内閣〔6月27日演説(於神田青年会館)〕『雄弁』13-9、9月1日

白く塗られたる墓と宿命的な貧困〔「『貧』と『富』と婦人」〕『週刊朝日』2-12、9月15日

最適任の労働大臣『新聞及新聞記者』3-7、9月15日〔復刻版『新聞及新聞記者』第5巻(金沢文圃閣、2022年)収録〕

議会改造と政党『国民新聞[夕刊]』9月23～25、28、29日、10月1、2日

最も明白なるは政治上〔「『男子専制』に就ての考察」〕『女性日本人』3-10、10月1日

最近宗教思想批判『寸鉄』4-11、10月1日

露独をして其理想を実現せしめよ〔「独逸と露西亜に対する世界列強(勿論日本をも含めて)の態度の批判」〕『中央公論』37-11、10月1日

愛は感激より感激は自由より『婦人倶楽部』3-10、10月1日

階級意識より全体意識へ『文化雑誌』1、10月1日

植民政策の根本思想に就て『台湾』3-7、10月6日

長春会議と新旧思想の衝突『亜細亜公論』1-7、11月1日

世界の植民政策と朝鮮問題〔講演大要〕『廓清』12-11、11月1日

議会改造と政党『教育学術界』46-2、11月1日〔『国民新聞』から転載〕

今後の植民政策『植民』1-1、11月1日

中華民国統一の途〔文責在記者〕『日華公論』9-11、11月1日

就植民政策之根本思想〔漢文〕『台湾』3-8、11月4日

生きんとする者よ立て〔21日演説大要(神戸立憲興民会主催演説会於下山手青年会館)〕『神戸新聞』11月22日

民衆の要求を体現するの途は只青年民主党の創造あるのみ『中央公論』37-13、12月1日

〔「今年中一番私の心を動かした事」〕『中央公論』37-13、12月1日

## 1923(大正12)年

生きむとする者は起て〔1922年11月20日立憲興民会大会講演於神戸市基督教青年会館〕『潮』3-1、1月1日

日本に於ける労働党問題—如何に出現し来るか—『国民新聞』1月1、2日

植民思想の革命期『中央公論』38-1、1月1日

年頭に際し婦人へ与ふ〔談〕『都新聞』1月1、2日

資より働へと国策基調の動揺『工場世界』4-1、1月5日

政党改造よりも先づ議会の改造『神戸又新日報』1月6日

政治家としての大隈侯〔大隈総長一年祭記念〕『早稲田教育』2-1、1月10日

全体党か階級党か『憲政公論』3-1、1月15日

朝鮮統治の根本政策『憲政』6-2、2月1日

〔「労働運動と小作運動は背馳せざるか」〕『進め』1-1、2月1日

民衆共存の理想と階級闘争の事実との調和〔「普選実行の暁に於ける我政界の新局面の理想」〕『中央公論』38-2、2月1日

剛毅、廉直、厚誼の人『憲政公論』3-2<加藤高明子批判号>、2月15日

政治家の頭に生る女性 隈侯が姉と呼んだ女丈夫 あの強い信念の前には何物もない矢島刀自〔談「婦人と子供」〕『日布時事』2月28日

近代政治の理想『信州』5-3、3月1日

〔「政治運動の是非及び能否」〕『進め』1-2、3月1日

警視庁の活動範囲を成るべく消極的に—主として人民の安寧及び幸福保障に制限せよ—〔「警視庁論」〕『中央公論』38-3、3月1日

新日本への道程『表現』3-3、3月1日〔宮下軍平編『日本の現状研究』(二松堂書店、1923年6月10日)収録]

『卿等断じて米國を征服する能はず』と絶叫し議場に憤死した大ピットの熱弁『雄弁』14-3、3月1日

社会正義心の確立へ『憲政公論』3-3、3月15日

ルーテルと和氣清麿〔「偉人桀士模範的言動の一齣」〕『現代』4-4、4月1日

総ては人間性恢復の要求より〔「極左極右排斥論」〕『中央公論』38-4、4月1日

朝鮮統治の根本義〔「主張と研究」〕『朝鮮地方行政』2-4、4月1日

\*我外交の往くべき道『新勢力』1-1、4月

\*人類の平等と外交の刷新『内外評論』4月

経済組織の国際的変遷〔講演筆記〕『綿業研究会会報』26、5月20日

愛息の弁護人として死刑廃止を絶叫するユーゴー『雄弁』14-6、6月1日

国際原料争奪戦 『財界レビュー』 1-1、6月5日  
避暑を嗤ふ言葉 『財界レビュー』 1-2、7月1日  
光は東方より[文責在記者] 『信州』 5-8、8月1日  
支那時局観[談] 『読売新聞』 8月13日  
恋愛の無い家庭[「家庭生活の暗礁」] 『婦人公論』 8-11、10月1日  
普通選挙法案と選挙区制問題 『早稲田大学新聞』 18、11月5日  
亜細亜復興を忘るゝ勿れ 『我観』 2、11月15日  
普通選挙法案と選挙区制問題 『上毛新聞』 11月21日  
上院対民衆の問題[「普通選挙の諸問題」中の「普選と貴族院の消長」] 『改造』 5-12、12月1日  
生活復興が第一[「山本内閣と復興問題」] 『実業公論』 9-12、12月1日  
新文化の建設と吾人の使命 『朝鮮及び満州』 193、12月8日  
\*鬼哭愁々たる尼港を訪ふの記 『無我之声(民衆教化)』 月日未詳

## 1924(大正13)年

廃墟の中より生れ出る新文化 『憲政公論』 4-1、1月1日  
政界の新勢力 『国民新聞』 1月1日  
嗚呼! あゝこの熱涙、この祈り—新しき相互扶助の世界の建設— 『婦人倶楽部』 5-1、1月1日  
本邦弁論家の苦心すべき要点 『雄弁』 15-1、1月1日  
復興第一年の春 『料理の友』 12-1、1月1日  
日本に台頭した二つの婦人運動 人格のない賢母良妻 誤つた思想から覚めよ 『時事新報』 1月14日  
[「新時代の家族におくる言葉」] 『婦人之友』 18-2、2月1日  
演説は真剣勝負の意気でやれ[インタビュー記事「雄弁自讃」] 『サンデー毎日』 3-10、3月2日  
\*婦人の新運動 『青年タイムズ』 7-3、3月  
たとへ銃剣を咽喉に擬せらるゝとも仏国の命じたる場所は断じて退かざ—議會に於けるミラボウの大雄弁— 『雄弁』 15-4、4月1日  
元老論[「月曜論壇」] 『読売新聞』 5月26日  
中橋君の落選は皮肉[「護憲派大勝して政機動く」] 『憲政公論』 4-6、6月1日  
国難に直面して新内閣諸公に望む 『財界レビュー』 2-6、6月1日  
教育家と裁判官とは共に独立の官吏たるべし[「論説」] 『教育研究』 275、7月1日  
臥薪嘗胆とは何ぞ 酒飲まぬ国民と飲む国民との競争 『禁酒之日本』 56、7月1日  
行政整理は偶像破壊より 『財界レビュー』 2-7、7月1日  
太平洋越えは未だし 『財界レビュー』 2-8、8月1日  
宗教と個人並に社会生活 『満州之社会』 2-12、8月1日

吾は独逸帝国の大宰相！怒髪天を衝くビスマルクの大獅子吼『雄弁』15-8、8月1日

大正維新は東北より[8月3日講演要旨(於秋田魁新報社主催夏季講演会)]『秋田魁新報』8月5～10日

参与官に成つて忽ち條件附外交論 郷里北陸方面の事が心配 [談]『羅府新報』9月23日

\*世界的開放時代『新生日本』9月

使命に生きよ[「十一時五十八分」]『禁酒之日本』59、10月1日

[「米国総動員に対する感想」]『世紀』1-1、10月1日

独立自主の大運動を起せ『新使命』1-1、10月15日

民衆外交の理想へ 関西学院講演会に於ける永井柳太郎氏演説[16日関西学院創立記念大講演会、講演「近代外交の理想」概要]『神戸新聞』10月17日

秘密外交より国民外交へ『立憲青年』4-3、12月1日

対支国策討議『改造』6-11、11月1日[10月11日座談会：長谷川如是閑、堀江帰一、吉野作造、米田実、福田徳三、小村俊三郎、山本実彦]

経済的立憲政体の確立『憲政』7-11、11月1日

植民地の統治と意義『植民』3-11、11月1日

国際連盟会議に就て『朝鮮及満洲』204、11月5日

\*雄弁学『青年大学』[1-9]、11月

## 1925(大正 14)年

英雄リンコルンを憶ふ『キング』1-1、1月1日

上御一人下万民の国是『新使命』2-1、1月1日

年頭に際して個性尊厳の自覚を促す『地方行政』33-1、1月1日

世界不安時代に於ける国民の覚悟『北国新聞』1月1日

経済的立憲政体を確立して労農思想防遏の必要がある『工場世界』6-1、1月5日

外交は国民思想の反射『憲政公論』5-2、2月1日

旅行者の見たる地方文化『中央公論』40-2、2月1日

婦人よ自己を発見せよ『婦人世界』20-2、2月1日

議会政治と文化生活 議員の責任と国民の奮起[「議会生活者の道徳的批判」]『文化生活』3-2、2月1日

[「女子教育と諸家の意見」]『婦女新聞』1287、2月8日

\*男にたよるな『中外商業新報』[『婦人』2-2(2月10日)に抄録]

臥薪嘗胆とは何ぞや『弘道』394、3月1日

[「日露国交快復と名士の感想」]『東洋』28-3、3月1日

[「あなたの夫人、令嬢、令妹などが職業を持つことをお望みになりましたら」]『婦人之友』19-3、3月1日



生活安定の大同団結を起せ『立憲青年』5-3、3月1日  
国民の政治的大勝利『新使命』2-4、4月1日  
世界各国に於ける禁酒の趨勢『糧食研究』31、4月23日  
\*雄弁学『青年大学』＜全日本青年聯盟刊＞4月  
各国の禁酒傾向『憲政公論』5-5、5月1日  
普選実施後の政界の分野『新使命』2-5、5月1日  
時代思想と普選実施の将来[「普選実施に伴ふ政界将来の分野」]『日本教育』4-6、6月1日  
時代思想と普通選挙『朝鮮及満洲』211、6月10日  
第五十議会に於ける三大演説[談]『新使命』2-7、7月1日  
西に富貴あり東に貧乏あり『東京』2-7、7月1日  
画時代的の植民政策『植民』4-9、9月1日  
世界解放主義の倫理と我が国民の海外発展『植民』4-10、10月1日  
地方振興と財政的救済策『地方』33-10、10月1日  
全国青年の一大連盟を起せ『立憲青年』5-10、10月1日  
政治の本位を改むる時代『京都教育』397、11月1日  
問題の婦女売買条約『婦人世界』20-11、11月1日  
現内閣の外交方針『立憲青年』5-11、11月1日  
軌近欧州の大勢観『工場世界』6-11、11月5日  
新時代の政策と青年の使命—既成政党を打破して純真なる新政治を建設せよ—[11月1日、日本青年党連盟発会式於金沢市]『新使命』2-12、12月1日

## 1926(大正 15・昭和元)年

共存共栄の大精神『工場世界』7-1、1月1日  
欧米人の横暴『日米評論』407、1月1日  
光は東方より 日本民族の世界的使命を論ず『北国新聞』1月1日  
感激は雄辯の母[巻頭]『雄弁』17-1、1月1日  
現代政治の理想[10月13日演説(於東京帝国大学弁論部)]『雄弁』17-1、1月1日  
全体意識に進化しつつある社会思潮『神戸新聞』1月6、8日  
世界文明に対する日本民族の使命 既往の外交政策を論じ人類の共存共栄に及ぶ『神戸又新日報』1月8日  
各個人の生命の完成[「新日本の歩むべき道」]『大阪朝日新聞』1月14日  
近代外交の中心思想『外交時報』507、1月15日  
欧羅巴文明の特徴と日本民族の海外発展『植民』5-2、2月1日

世界文明に対する日本民族の使命－既往の外交政策を論じ人類の共存共栄に及ぶ－[「談叢」]『補習教育』  
36、2月1日

出処進退の公明[「故総裁を繞る政府者の追憶」]『憲政公論』6-3、3月1日

普選絶叫の沼南翁－第四一議会の歴史的栄光－『現代』7-3、3月1日

南洋発展の根本策『海外発展』1、4月1日

社会問題が中心時代[「議院終了後の政局如何」]『我観』30、4月1日

眞の平民宰相[「若槻首相に投ぜらるる朝野の礼賛」]『憲政公論』6-4、4月1日

[「新時代の女性に望む資格のいろいろ」]『婦人之友』20-4、4月1日

五明忠一郎氏献送会に於て[「模範的式辞挨拶演説例」]『雄弁』17-6、6月1日

横身当宇宙[「海外発展者諸子におくる言葉」]『植民』5-8、8月1日

洋行中の珍談奇談『雄弁』17-8、8月1日

屍の上に－淫樂の徒よ明日死あるべし『禁酒之日本』82、9月1日

最大限度の自由を[「発売禁止制度に対する批判とその対象」]『新潮』23-9、9月1日

時勢と雑誌[「名士寸言」]『読売新聞』9月1日

新興勢力の一大使命[1926年9月4日演説於日本海青年党連盟第2回大会]『新使命』3-9、9月15日

[「諸名士の回答 現代社会に對する不平不満又は改善したく思ふ事」]『実業之日本』29-19、10月1日

現実生活上に精神文明『工場世界』7-21、11月1日

海外見学団送別会席上に於て[「模範的式辞挨拶演説例」]『雄弁』17-11、11月1日

## 1927(昭和2)年

[「私の現在に於ける一 最大の慾望二 最大の満足三 最大の不満四 最大の好物五 最大の嫌な物」]『事業之  
日本』6-1、1月1日

力の外交より法の外交へ『財界レビュー』5-1、1月1日

二大植民国の興亡をたづねて植民政策の確立を論ず『植民』6-1、1月1日

選挙国営及議院改革私案『新使命』4-1、1月1日

経済的立憲政治の確立『朝鮮地方行政』6-1、1月1日

青年時代の危機『新潟新聞』1月1日

[「現代議士政見発表」]『法律春秋』2-1、1月1日

世界を汝に与ふ『北海タイムス』1月1日

最初の祈祷『北国新聞』1月1日

ムツソリーニ首相の処女演説『雄弁』18-1、1月1日[『私の信念と体験』収録]

選挙国営の私案と其理由[談]『都新聞』1月7～9日

選挙国営の私案と其理由『憲政公論』7-2、2月1日

外交の道徳性『文芸春秋』5-2、2月1日

選挙公言論『法律春秋』2-2、2月1日

選挙国営の私案と其理由『羅府新報』2月19、22日

当年の熱血児[「現代人物月旦(3)白柳秀湖氏の印象」]『隨筆』2-3、3月1日

幣原外交の本領[「幣原外相中心の対支外交批判」]『中央公論』42-3、3月1日

永井柳太郎氏と語る(雄弁家訪問記)[インタビュー]『雄弁』18-3、3月1日

「五十年後の太平洋」を読む[「読書と批評」]『大阪毎日新聞』3月4、6日[4日付掲載を『新聞集成昭和編年史 昭和二年度版I』(明治大正昭和新聞研究会、1984年)収録]

偉大なる国民精神を培へー新天地ブラジルの一斑紹介ー『海外』1-2、4月1日

稲尾君へ『朝鮮及満洲』233、4月11日[目次にはないが、81頁に掲載]

支那の覚醒と対支外交の基調『財界レビュー』5-5、5月10日

軍閥外交の再来か(外交方針に対する田中大将の三大謬見)[1927年5月5日衆議院演説要旨]『新使命』4-4、5月14日

枢密院無用論『中央公論』42-6、6月1日

軍閥外交の再来を惧る『民政』1-1、6月1日

黎明の亜細亜と之に処するの途『民政』1-2、3、7月1日、8月1日

政友会内閣の対支対露外交『立憲青年』7-7、7月1日

太陽の如く熱烈なれ『キング』3-8、8月1日

支那の現状に就いて[講演]『帝都教育』269、8月10日

選挙国営の私案と其理由『新使命』4-8、9月1日

総督と馬鈴薯[「名士一言録」]『雄弁』18-9、9月1日

雄弁論[「政治経済講座」]『民政』1-5～7、2-1、10月1日、11月1日、12月1日、**1928年**1月1日

大隈侯を偲ぶ『ワールド』4-10、10月1日

無産政党の分解[「普選第一戦の総決算的八面評論」]『中央公論』42-11、11月1日

我国の人口食糧問題解決策『社会研究』6-4、12月1日

「貧乏百家論」『騒人』2-12、12月1日[『復録版 昭和雑誌 戦前篇』(流動出版、1978年)転載]

傍若無人論『雄弁』18-12、12月1日

### 1928(昭和3)年

「名士の年頭感」『海外』11、1月1日

「普選後の政党分野はどうか」『サンデー毎日』7-2、1月1日

大雄弁の真髓 熱火の如き赤誠と確固不拔なる信仰『松陽新報』1月1日

偉人大隈侯の面影『文芸倶楽部』34-1、1月1日

国家更生の大道『北国新聞』1月1日  
雄弁の本質[「雄弁十二講」]『雄弁』19-1、1月1日  
民政党は国家主義大衆党[「解散を前にして新有権者に与ふ」]『中央公論』43-2、2月1日  
時代錯誤の田中内閣を倒壊せよ[3月18日演説概要於民政党福岡県支部主催内閣倒壊全九州大会(熊本市)]  
『九州日日新聞』3月19～22日  
三大政党対立時代[「政戦を顧みて」]『雄弁』19-4、4月1日  
移植民政政策の根本義『我観』57、7月1日  
人間性の解放[「6月13日バトラー夫人百年記念講演会於日本青年館」]『婦人新報』365、8月1日  
通商条約の廃棄と支那[「対支問題論策」]『民政』2-8、8月1日  
排日悪宣伝を何故沈黙させぬ 濟南事件の責を明かにせよ 永井氏の対支意見発表[23日於民政党政務調査  
会]『東京朝日新聞』8月24日  
婦人諸君！[演説速記「愛国の熱弁」]『現代』9-9、9月1日  
自ら侮る勿れ[「田中对支外交批判」]『中央公論』43-9、9月1日  
女の美は三つの「り」[「男子は婦人のどこに一番眼をつけるか」]『婦人倶楽部』9-9、9月1日  
排日悪宣伝と濟南事件 速に責任を明にせよ『民政』2-9、9月1日  
女よ、天汝に世界を与ふ！『雄弁』19-9、9月1日[『私の信念と体験』収録]  
人間性の解放[6月13日於バトラー夫人誕生百年記念講演会]『廓清』18-9、9月10日  
幣原外交果して過てる乎『東京朝日新聞』9月12、16日  
絶対の心『キング』4-10、10月1日  
田中外相是なる乎余非なる乎—対支外交に関し国民の審判に訴ふ—『祖国』1-1、10月1日  
政党の思想的背景『朝鮮公論』16-10、10月1日  
幣原外交果して過てる乎『民政』2-10、10月1日  
[「中学教育改革案批判」]『文明協会ニュース』10月10日  
[「近ごろ興味をもつて読んだ本・その感想」]『大阪朝日新聞』10月21日  
田中内閣退却せよ[「他山の石」]『海外』21、11月1日  
[「私の大好きな女嫌ひな女」]『婦人倶楽部』9-12、12月1日  
忘れられぬ常陸山の教訓[談]『雄弁』19-12、12月1日  
まづ無能力な現内閣の倒壊を[「現下の日中関係を如何に打開すべきか?」]『読売新聞』12月7日

## 1929(昭和4)年

最後の一人までも『キング』5-1、1月1日  
理想の政治家『現代』10-1、1月1日  
我観英雄 全人類の崇拝に値する真の英雄とは果して如何『布哇報知』1月1日

世界を日本民族の家とし又墳墓とせよ『北国新聞』1月4、5日

世界を日本民族の家とし又墳墓とせよ『新潟新聞』1月7日

日支漫言『日支』2-2、2月1日

適任者なし[「婦人内閣組織さる」]『婦人画報』283、2月1日

[「一余が実験したる酒の害 余が実際に見たる酒の害 三何故二十五歳禁酒法に賛成するか」]『ときのこゑ』789、2月11日

万里の異境師の情に泣く『現代』10-3、3月1日[「エストリン・カーペンター先生」と改題『私の信念と体験』収録]

対支外交史上の未曾有の汚点[「済南事件調印を見て」]『大坂毎日新聞』3月27日

帝国の威信を泥土に委す醜態 対支外交に一大汚点を印す[談]『大阪朝日新聞』3月29日

基礎条件はどこへ呆れ返った無能ぶり これ位の条件で解決するなら矢田総領事の時にできた筈[談]『神戸又新日報』3月29日

[「大衆とは？」]『大衆』1、4月1日

打倒金権政治[「普選第一議会の批判」]『報知新聞』4月5日

普選議会批判 打倒金権政治『民政』3-5、5月1日

神戸より[4月14付日俵幹事長宛書簡]『民政』3-5、5月1日

打倒金権政治[演説於報知新聞主催「第五十六議会批判講演会」]『雄弁』20-5、5月1日

日本政府は完全に支那の主張に屈服す 交換覚書きの内容を見て[談]『九州日報』5月2日

我政府の屈従[談]『やまと新聞』5月2日

現内閣は無資格[「日支条約改訂対策 各方面の意見を徴す」]『東京朝日新聞』5月31日

政治家として観たる英国政界 労働党组閣と政局の今後『早稲田大学新聞』4、6月30日

機知と弥次『キング』5-7、7月1日

[「名士の応接室 接客時間—希望—その他」]『経済生活』7-7、7月1日

大英国の新宰相 新世界の黎明を告ぐる暁鐘『現代』10-7、7月1日

赤化帝国主義とドル帝国主義『政治経済時論』4-8、8月1日

新東亜の曙に起ちて『内外公論』18-8、8月1日

正義の戦士マクドナルド『キング』5-9、9月1日

[「寸鉄名訓」]『現代』10-9、9月1日

外交は内政の延長である『外交時報』596、10月1日

[「次期政権に誰を推すか」]『改造』11-10、10月1日

第二維新の指導精神[3月24日都下各大学々生主催政局批判演説会於東京青山会館]『雄弁』20-10、10月1日

深く敬意を表す『日布時事』10月27日

海軍々備縮小問題[「軍縮漫談」]『経済往来』4-11、11月1日

幣原外交と対支貿易の好転[「特輯金解禁問題に就て」]『民政』3-11、11月1日

## 1930(昭和5)年

青年に対し古今の偉人を語る『現代』11-1、1月1日[『私の信念と体験』収録]

「最も熱心に解決希望の諸問題」『婦女新聞』1543、1月1日

世界を脅威する二大勢力『民政』4-1、1月1日

天と共に生きん『北国新聞』1月4日

軍縮の背景に宗教運動を希望す[「宗教」]『読売新聞』1月19日

所期三項[「抱負を語る 今年は何をするか」]『京都帝国大学新聞』117、1月21日

「総選挙を前にして大衆に訴ふ」『改造』12-2、2月1日

『選挙革正と婦人』座談会『婦選』4-2、2月1日[座談会：市川房枝、片山哲、坂千秋、下村宏、花園兼定、坂本真琴、河崎なつ、塩原静、金子しげり]

政界革正と選挙国営私案『民政』4-2、2月1日

スポーツ用具の輸入税を撤廃したい[「新代議士スポーツを語る」]『サンデー毎日』9-10、3月2日

我が党代議士に聴く『婦人新報』385、4月1日[座談会：三宅馨、片山哲、松山常三郎、星島二郎、信太儀右衛門、坂東幸太郎、久布白落実、守屋東、村岡花子、千本木道子]

共存共栄の外交[「思潮」]『日本警察新聞』817、4月10日

今議会は絶好の機会[「特別議会を如何に戦ふか 朝野二大政党の闘将是語る」]『現代』11-5、5月1日

\*[「現代名士が十二、三才の頃」]『学芸通信』1、7月10日

おのれの尊きを知れ『少年倶楽部』17-8、8月1日

「産業合理化と失業問題は因果の関係ありや？」『政治経済時論』5-8、8月1日

官邸に永井拓相と語る[「胸襟を開く」]『読売新聞』8月14、16、17日[新居格のインタビュー]

弾圧又弾圧で海外流浪の片山潜[「世界人の横顔」]『東京朝日新聞』8月16日[「片山潜 その昔は穏健な社会主義者」と改題『世界人の横顔』(四条書房、1930年10月20日)収録]

『人物』座談会『改造』12-9、9月1日[座談会：長谷川如是閑、菊池寛、本多熊太郎、向坂逸郎、前田河広一郎、馬場恒吾、杉村楚人冠、山本実彦]

愛は正義に勝つ『キング』6-9、9月1日

加藤高明伯『政界往來』1-2、9月1日

幣原外交の根本方針と倫敦条約[8月20日民政党主催大演説会演説要領於日比谷公会堂]『民政』4-9、9月1日

大使命の自覚の為に戦へ[「満鮮新聞界への進言」]『新聞及新聞記者』11-9、9月6日

真なる「自己」を生かせ『婦人倶楽部』11-10、10月1日

新世界建設を目標として[7月20日民政党大演説会於日比谷公会堂]『雄弁』21-10、10月1日

舌禍問題は実に以外 上海に着した永井次官語る[談]『読売新聞』10月24日

須らく自己の雄弁を創造せよ『雄弁』21-11、11月1日

## 1931(昭和6)年

興国の意気旺となる中華民国 政治家の精励と一般民衆の緊張と『海外』47、1月1日

鮮、支ところどころ『政界往來』2-1、1月1日

人を人とする政治『北国新聞』1月1、4、6日[『私の信念と体験』収録]

選後に[「誌上公開大演説会」]『雄弁』22-1、1月1日

新興支那を觀る[演説要領於柳会]『雄弁』22-3、3月1日

ロシヤ派遣員を送る[「訪露特派使節当選発表」]『中央公論』46-4、4月1日

公娼制度廃止は世界的大勢[「各人各論」]『朝鮮公論』19-4、4月1日

婦人と児童の将来[3月27日婦人同志会主催第59議会批判演説会]『家庭週報』1072、4月3日

自己批判の鋭い学者・実務家[「満州日報社長松山忠二郎論」]『新聞及新聞記者』12-4、4月5日

公娼制度は一種の奴隸制度なり[帝国議會速記録から転載]『廓清』21-4、4月10日

富山房大英和辞典の感想『北陸毎日新聞』5月13日

婦人児童の将来[3月27日講演筆記(於報知講堂)]『講演集』253、5月20日

植民地の問題『財界レビュー』5月号

教育の三大欠陥は何か『小学校』50-3、6月1日

上は減棒、下は増棒[「減棒是非」]『政界往來』2-6、6月1日

教育の三大欠陥は何か『教育學術界』63-4、7月1日

国字革命の急務 国民の能力浪費の大問題[「断行を要する三大革命」]『現代』12-7、7月1日

高田前総長を送り田中新総長を迎ふ『早稲田学報』437、7月10日

満蒙経営は日支共同の責任[「諸家の満蒙論策を聴く」]『東京朝日新聞』7月15～17日[『大阪朝日新聞』7月16～18日]

宗教なき労働と労働なき宗教[6月24日講演(於日比谷公会堂)]『講演集』259、7月20日

満蒙経営は日支の共同責任[「我が党の主張」]『民政』5-8、8月1日

世界の趨向を直視せよ—新社会の建設が急務—『東方公論』6-9、9月1日

宗教なき労働と、労働なき宗教[駒沢大学主催大講演会(於日比谷公会堂)]『雄弁』22-9、9月1日[『私の信念と体験』収録]

市村瓊次郎博士に答ふ『現代』12-10、10月1日

力の象徴、美の象徴[「男らしい男、女らしい女」]『婦人倶楽部』12-10、10月1日

高田前総長を送り田中新総長を迎ふ『稲友会誌』52、10月23日

満州事変に関する外交批判『報知新聞』11月5～7、9、10、12日

支那が承認すれば我主張は貫徹[記事「各方面の意見を聞く 所謂『日英米の秘密協定』」中の談]『大阪毎日

新聞』11月15日

\*ギルド会議と政治会議『会議』1-2、12月1日

満州事変に関する外交批判[「満州事変特輯論説」]『民政』5-12、12月1日

## 1932(昭和7)年

婦人修養の目的『家の光』8-1、1月1日

全日本青年諸君に檄す『キング』8-1、1月1日

暁に語る[「時勢を凝視して所懐を陳ぶ」]『現代』13-1、1月1日

時に是時に非[「挙国一致内閣是非」]『政界往來』3-1、1月1日

現代婦人達の覚醒を促す『新潟新聞』1月1日

われ々々の指導精神[「満蒙問題再吟味」]『北海タイムス』1月1日

太平洋時代来る 世界戦争を転機に人類の歴史は一転す『北国新聞』1月1、4日

全国の党員諸君に告ぐ『民政』6-1、1月1日

雄弁は信念の結晶である一中等学校雄弁大会に於て一『雄弁』23-1、1月1日

一切の拘束、介入 敢然として突破すべし[「支那を語る」]『河北新報』1月4日

実力的統制[談]『内外工業時報』6-1、1月5日

権益蹂躪に対する忍従は既に無意義 国際連盟の質的没落を哀む[「満蒙問題を語る」]『福岡日々新聞』1月5日

虎門事件に徴して首相の忠節を疑ふ[談]『国民新聞』1月10日

優諛に名をかりて留任とは何事ぞ 臣節を全うせざる犬養内閣[談]『東京朝日新聞[夕刊]』1月10日

更生日本へ 建設期に直面して『河北新報』1月11日

更生日本の創造時代『北海タイムス』1月16日

鳩山一郎を語る『政界往來』3-2、2月1日

国民生活を蹂躪する犬養内閣『民政』6-2、2月1日

国民生活再建に向て進軍せよ[3月1日於民政党議員総会]『民政』6-3、3月1日

砂上樓閣的な多数の正体暴露 鼎の軽重を問はれた首相[民政党幹事長談]『読売新聞』3月17日

\*独裁傾向を克服する『政界春秋』18-3、3月

[「産業奉還是非 社会各方面の人に聴く」]『労働経済』3-3、4月1日

重大事を党略に[幹事長声明、「江口氏罷免に非難の声」]『読売新聞』4月8日

太陽西に没して暗澹たる今の政界 『人間大隈』の大きな天地[「故大隈重信侯十年祭」談]『報知新聞[夕刊]』4月10日

国家主義大衆党の檄『日本国民』1-1、5月1日[「私の信念と体験」収録]

日本再建の指導精神『中央講演』1、5月3日



老侯は正宗の名剣[4月28日講演(於故総長大隈侯爵拾周年記念式並講演会)]『早稲田学報』447、5月10日

まだ安心は出来ぬ[幹事長談]『読売新聞』5月12日

大隈侯十周年記念に際して『早稲田』1-2、5月15日

鈴木総裁の演説空疎な字の羅列[幹事長談]『読売新聞』5月21日

新日本の建設[談]『読売新聞』5月27日

演劇と大衆の生活[談]『演劇』1-3、6月1日

関東長官更迭の意思はない[談]『読売新聞』6月3日

新日本建設の大目標『拓殖公論』73、6月11日

新国家の真相を[談「満州国大博覧会」]『読売新聞』6月16日

台湾の統治 支那は失敗日本は成功[拓相としての講演概要予告]『読売新聞』6月17日

第二維新を目指して[「わたくしの自己紹介」]『中央公論』47-8<夏季増刊>、6月29日

\*演劇と大衆の生活『演劇』1-3、6月

巨人大隈侯を懐ふ[於故総長十周年記念講演会]『雄弁』23-7、7月1日

民衆の指導者大隈重信侯一故総長大隈侯爵十年祭記念式に於ける追悼演説一『稲友会誌』55、7月2日

権太長官の更迭理由[拓相談]『読売新聞[夕刊]』7月7日

[「永井柳太郎君挨拶」6月28日、拓相政務官法制局長官就任祝賀会(於上野精養軒)]『早稲田学報』449、7月10日

台湾始政日記念を迎へて『拓殖公論』74、7月11日

外地長官濫に更迭せぬ[談「清風時局談叢」]『拓殖公論』74、7月11日

ある世界からあるべき世界へ[1932年6月17日婦人同志会主催於白木屋ホール]『講演』188、7月17日

新日本建設の歌『拓務時報』16、7月25日

拓相訓示要旨[7月25日、地方長官会議最終日]『読売新聞[夕刊]』7月26日

\*我が対満蒙政策『実業公論』18-7、7月

[「一問一答 名家に秘訣を聞く 演説について最も大切な点は何でせうか?」]『キング』8-8、8月1日

新日本建設[作詞、巻頭言]『新東洋』1-8、8月1日

『新東洋』に讃して天下同憂の士に訴ふ『新東洋』1-8、8月1日

大和民族の真面目『三越』22-8、8月1日

新日本建設[作詞]『民政』6-8、8月1日

海洋中心の新文化建設『拓殖公論』75、8月11日

官邸に永井拓相と語る[新居格によるインタビュー「文芸 胸襟を開く」]『読売新聞』8月14～16日

満州国特派大使武藤大将を送る『満州日報』8月23～25日

我等が使命と融和問題『同胞相愛』1、8月26日

堂々中央を行く『日の出』1-2、9月1日  
日本民族の真価を發揮せしめよ[文責在記者]『報国』1-2、9月1日  
日本民族の使命『開国』1-1、10月1日  
戯曲 大隈重信『キング』8-10、10月1日[「邪宗問答」と題して、丹尾磯之助編『巨人の面影 大隈重信生誕百二十五年記念』(校倉書房、1963年)抄録]  
国民生活繁栄の新軌道『実業之日本』35-19、10月1日  
時局偶感[7月27日講演(於東洋協会)]『東洋』35-10、10月1日  
時局に鑑みブラジル移住者に望む『ブラジル』6-10、10月1日  
新日本建設の歌—拓務省設立三周年を迎へて『ブラジル』6-10、10月1日  
亜細亜を挙げて一城となす[於駐滿全權大使武藤大将送別の夕]『雄弁』23-10、10月1日  
武藤駐滿全權を送る『拓殖公論』76、10月11日  
日滿經濟提携の根本策[「中外論叢」]『中外財界』7-10、10月15日  
[記事「永井皆川兩氏入閣祝賀同窓会」中の「永井拓相挨拶概要」]『関西学院新聞』81、10月17日  
巻頭言『家庭』2-11、11月1日  
日滿經濟の創刊を祝して『日滿經濟』1、11月1日  
[「歴史上で誰を最も敬愛するか」]『歴史公論』1-1、11月1日  
満州に於ける我が国人の使命『朝鮮及滿洲』300、11月10日  
\*[未詳]『葉石新報』1517、11月10日  
送別の辞[「満州指導移民隊の発途」]『拓殖公論』77、11月11日  
時局に鑑みブラジル移住者に望む『神戸新聞』11月27日  
拓け満州の荒野『黄人公論』1-1、12月1日  
骨の髄まで応へた母の涙[「母に叱られた想ひ出」]『主婦之友』16-12、12月1日  
劇と旅行を語る[「随想と漫筆欄」]『東邦時論』9-12、12月1日  
山水と美人を語る『日の出』1-5、12月1日  
國際情勢と日本の進路[文責在記者]『報国』1-5、12月1日  
政民共同国策の実現『拓殖公論』78、12月11日  
学院に与ふる言葉『関西学院新聞』関西学院大学昇格祝賀号、12月20日  
\*未詳『日滿朝日』1、月日未詳<東洋文庫所蔵 Z5137>

### 1933(昭和8)年

農村青年の奮起を望む『家の光』9-1、1月1日  
日滿經濟提携の根本策『開国』2-1、1月1日  
正しき者は強し[「我が処世の信条」]『キング』9-1、1月1日

雄志 銭屋五兵衛[「祖国愛読本」]『サンデー毎日』12-1、1月1日  
[「私の一番好きな偉人」]『サンデー毎日』12-1、1月1日  
天汝に世界を与ふ[口絵]『植民』12-1、1月1日  
世界再建の指導精神[「年頭所感」]『新東洋』2-1、1月1日  
日支融和の絶好の楔子『台湾日日新報』1月1日  
国家非常時に直面して[「国難日本の新動向」]『中央公論』48-1、1月1日  
新世界の建設と日本の使命『朝鮮及満洲』302、1月1日  
日滿繁栄のため経済ブロック設定 局部的利害を超越して『富山日報』1月1日  
日滿経済の提携『新潟新聞』1月1日  
労働は生命への大道 経済的難局打開と労働の高貴神聖 日滿両国の経済的結合こそ最急要『布哇報知』  
1月1日  
現代外交の指導精神『北国新聞』1月1、4日  
政党は何処へ行く『雄弁』24-1、1月1日  
満洲国創成の難関 意とするに足らぬ ひとすら邁進するのみ 永井拓相の年頭感『満洲日報』1月3日  
邦人活躍の大舞台満蒙 移住の絶好期将に來り『山陽新報』1月4日  
民族独自の生存権[12月18日青年教団主催講演会(於日比谷公会堂)]『講演』25、1月5日  
年頭の辞『京都日出新聞』1月7日  
未開墾の土地を開墾し世界の富を増進すべし 満蒙開発の精神はこゝに在る『拓務評論』5-1、1月10日  
太陽を象徴する拓務行政『拓殖公論』79、1月11日  
新日本は国民能力の総動員たれ[1月12日講演(於日本女子大学校)]『家庭週報』1161、1月20日  
制作は芸術家に統制は国家で『国際映画新聞』93、1月21日  
愛をもつて戦へ[12月17日青年教団主催教化大講演会(於日比谷公会堂)]『家事及裁縫』7-2、2月1日  
日滿国民性の一考察『拓殖公論』80、2月11日  
満洲出兵の真意『アジア民族の覚醒』『北海タイムス』2月15、18日  
捲土重来 金権と官権の圧迫のため[民政党幹事長談「第一日の成績を語る」]『読売新聞』2月22日  
生存上に於ける三つの闘ひ[青年教団主催社会教化大講演会演説]『雄弁』24-3、3月1日[『現代名家大演  
説集』(大日本雄弁会講談社、1933年12月10日)収録]  
アジア民族の団結『朝鮮社会事業』11-4、4月1日  
天と俱に生くべし『日の出』2-4、4月1日[「日々是好日」と改題]『私の信念と体験』収録]  
アジア民族の団結『南滿教育』126、4月10日  
満蒙経営の十年計画『拓殖公論』82、4月11日  
[「ジツギヨウサロン 読物 名士川柳大会」]『実業之日本』36-8、4月15日  
[記事「地方長官会議けふ最終日」中の「拓相訓示要旨」]『読売新聞[夕刊]』4月25日

\*アジア民族の団結『愛知之自治』19-4、4月<愛知大学総合郷土研究所所蔵>

日本独自の精神を高潮す『政治経済時論』8-5、5月1日

南洋に旅した頃[「随時・随感」]『大南洋評論』1-1、5月1日

全国民に徹底を期す拓務政策『拓殖公論』83、5月11日

強国の土地、資本、独占の弊とブラジル移民問題[5月10日、海外の日本社主催ブラジル移民二十五周年記念講演会(於赤坂三會堂大講堂)]『講演の友』1-2、5月22日

三大先輩を語る『日の出』2-6、6月1日[『私の信念と体験』収録]

現代殖民政策概観『拓殖公論』84、6月11日

対滿蒙經濟政策に就て[6月6日講演要領大阪商工会議所・大阪工業會館主催歓迎晩餐会(於大阪俱樂部)]『大阪商工会議所月報』313、6月25日

教育家としての大隈重信[「日本教育学史料」]『教育』1-4、7月1日

対滿經濟政策に就て『工業』84、7月1日

青年日本の建設[6月22日講演於日本青年館]『公民教育』3-7、7月1日

海外發展について農業者諸子に望む『農業世界』28-9、7月1日

國際平和と帝国の地位[文責在記者]『報國』2-9、7月1日

青年日本の獨立[6月22日日本學生東亞連盟主催講演会(於日本青年館)]『講演の友』1-7、7月10日

同志社の使命[6月8日講演概要、文責在記者]『同志社校友同窓會報』77、7月15日

\*青年日本の建設『日本講演通信』195、7月15日

東洋の平和を擔ふもの一日滿兩國民に望む『植民』12-8、8月1日

經濟ブロックより民族ブロックへ『東邦時論』10-8、8月1日

対滿蒙經濟政策に就て[6月16日講演要領大阪商工会議所・大阪工業會館主催歓迎晩餐会(於大阪俱樂部)]『日滿經濟』2-8、8月1日

[「諸家の觀た大隈熊子刀自」]『?』8-8、8月1日<データを破損、掲載誌不明>

『日本精神』をして世界を指導せしめよ『加州毎日新聞』8月16~19、21、22日

相互の連絡結合に最も偉大なる貢獻 滿鮮版の發行を祝して『報知新聞[滿鮮版夕刊]』8月25日

武藤元帥を悼む『セルパン』31、9月1日

日本は世界の太陽であれ『日の出』2-9、9月1日

農村の青年と海外發展『富民協會報』5-9、9月5日

現代の"八幡船" 勞苦感謝の外なし[「成功を祝して各大臣の讚辭」]『大阪毎日新聞』9月7日

樺太の認識を新にせよ『拓殖公論』87、9月11日

その時々の世界の縮図 [9月8日ラジオ講演]『講演』230、9月20日

滿洲移民と帝国の使命[文責在記者]『拓務評論』5-10、9月30日

\*明朗日本の彼岸へ『經濟政治街』9月

国家の再建設運動に真剣なれ[『禁酒村を励ます』夕に於ける祝辞]『禁酒之日本』176、10月1日  
権太の認識を新にせよ『東邦時論』10-10、10月1日  
新婚の夫婦に贈る[『名士から臆の言葉』]『婦女界』48-4、10月1日  
偉大なる宗教の体験『法施』333、10月1日  
青年日本の建設[日本学生東亞連盟主催大講演会(於日本青年館)]『雄弁』24-10、10月1日  
新なる議会政治への展望『政界往来』4-11、11月1日  
ブレーン・トラストとしてのシェークスピア[於シェークスピア講演会]『中央公論』48-11、11月1日  
ブラジル移住二十五年の跡を顧みて『ブラジル』7-11、11月1日  
真の南洋の姿だ[談、国防映画「海の生命線」評]『キネマ週報』177、11月3日  
日満経済提携に努めよ[挨拶於日満実業協会創立記念祝賀会]『読売新聞』11月19日  
汝生さんと欲せば人と俱に生くべし[講演筆記(於白十字總會)]『母と子』14-12、12月1日[『私の信念と  
体験』収録、\*『汝生さんと欲せば人と俱に生くべし』(白十字会出版部、1940年)]  
植民地予算問題[談「名卿高話集」]『拓殖公論』90、12月11日  
日本文化に与へた基督教の貢献[12月15日祝辞演説(於教文館及び米国聖書教会開館式)]『神の国新聞』  
782、12月27日  
迎年の所感 海外発展の重大性『大陸日報』12月30日

\*[未詳]『日満』1、月日未詳

### 1934(昭和9)年

非常時の青年と覚悟[講演]『教育女性』10-1、1月1日  
黎明アジアの魂となれ『現代』15-1、1月1日[「汝自身であれ」と改題]『私の信念と体験』収録  
国家総動員の下に難局打開に当れ！特に外地官民の興起を望む『山陽新報』1月1日  
信仰に燃ゆる大精神『修養世界』23-1、1月1日  
国家再建の大理想 議会政治構成に大改革を加へ挙国総動員の下に国政運用の万全を期せ『新世界日日新  
聞』1月1日  
外地官民に融和結合を望む 重大使命達成のため『台湾日日新報』1月1日  
非常時国民の大信念『拓務評論』6-1、1月1日  
躍進日本の青年に与ふ『朝鮮地方行政』13-1、1月1日  
国家再建の理想『新潟新聞』1月1日  
日満経済統制機関設置の提唱『日満経済』3-1、1月1日  
国際正義に立脚 世界平和実現 重大時局に際して挙国一致の大勢力を要望す『日布時事』1月1日  
会いたい二人の人『話』2-1、1月1日  
大宇宙を戦場とせよ『日の出』3-1、1月1日

政治家の責任[「一人一語」]『北米時事』1月1日

日々拡がりゆく大日本大国民の信念に生きよ同胞の努力と奮闘を祈る『北国新聞』1月1日

わが外地官民の融和と奮励を切望す『満州日報』1月1日

本邦移植民界の現状『民政』8-1、1月1日[露木惣蔵『昭和聖代在米神奈川県人』(在米神奈川県人社、1934年)に転載]

雄飛民族日本人[「名家名流短話集」]『雄弁』25-1、1月1日

大乗的信念の下に外邦諸民族と提携『北陸日日新聞』1月4日

昭和第九の新年を迎へて『拓殖公論』91、1月11日

神に通ずる魂[「名家名説」]『キング』10-2、2月1日

非常時局と青年の覚悟『青年』19-2、3、2月1日、3月1日

降誕会に際して日蓮聖人を憶ふ『日蓮主義』8-2、2月1日

積極的海外躍進の気魄『拓殖公論』92、2月11日

友邦の隆昌を祈る[談「友邦の大典を慶ぶ」]『九州日報』3月1日

海豪銭屋五兵衛『経済往来』9-3、3月1日

新アジアの建設『地理と歴史』6-3、3月1日

満州に君臨する者『日の出』3-3、3月1日[「満州に号令する者」と改題『私の信念と体験』収録]

満州国の基礎愈々固し[談]『拓殖公論』93、3月11日

佳典に方り満腔の祝意『日満経済』3-3、4月1日

満鉄中心の経済政策[談「各卿小話集」]『拓殖公論』94、4月11日

河野君の質問に対する答弁『農政研究』13-5[「臨時米穀移入調節問題号」、5月1日

米穀政策の不統一無し『農政研究』13-5[「臨時米穀移入調節問題号」、5月1日

朝鮮台湾に於ける代作問題『農政研究』13-5[「臨時米穀移入調節問題号」、5月1日

満鉄中心の対満国策[11日拓相訓示於地方官会議]『読売新聞[夕刊]』5月12日

母は家庭の太陽[5月8日講演、大日本連合母の会主催母の慰安会(於日比谷公会堂)]『講演の友』36、5月20日

久田佐助氏を憶ふ『現代』15-6、6月1日

[題辞及巻頭言]『受験界』15-6、6月1日

祝辞[5月3日総裁宮殿下奉戴式]『大日本消防』8-6、6月1日

祝辞[4月3日関東州初等教育研究会主催初等学校教員精神作興大会(於大連早苗高等小学校講堂)]『南滿教育』139、6月10日

対満経済建設の現状[談]『拓殖公論』96、6月11日

The common sense of emigration 『Contemporary Japan』3-1、6月

[記事「沖縄県海外協会開洋会館の落成式」(6月11日)中の祝辞]『拓務時報』40、7月24日

民心不安の時 輿論を正導した北日本文化開発の最大恩人『北国新聞』10月17日  
大衆史家蘇峰先生を語る[10月5日講演(於青山会館)]『旬刊講演集』375、10月30日  
個性を尊重しての教育[10月13日明星学園母の会主催講演会講演筆記於明星学園講堂。原題「現代の思潮  
傾向に就て」]『子供の教養』6-11、12、11月1日、12月1日  
改革意見全然賛成[「松田文相に与ふる公開状に対する反響」]『祖国』6-7、11月1日  
我観日本精神[「時事問題論策」]『民政』8-11、11月1日  
日本の母親[談]『婦人子供報知』89、11月25日  
大衆史家としての蘇峰先生[10月5日於国民史刊行記念講演会]『講演の友』57、12月20日

### 1935 昭和 10)年

現代の要求する人物『現代』16-1、1月1日  
[「政党の信用回復政策如何」葉書回答]『政治経済時論』10-1、1月1日  
[「農村の恒久的更生策所見」]『政治経済時論』10-1、1月1日  
国家再建に対する婦人の責任[「新生活第一歩」]『婦人公論』20-1、1月1日[「日本再建に対する婦人の責  
任」と改題]『私の信念と体験』収録  
[「いまの日本に欲しいもの」]『婦人之友』29-1、1月1日  
政党再建の秋『北国新聞』1月1日[『私の信念と体験』収録]  
政党再建の秋『民政』9-1、1月1日  
黎明アジアに鐘をつくもの『羅府新報』1月1日  
政争を倫理化して政党再建の秋『中国民報』1月3日  
政党再建の秋『満州日報』1月3日  
政党再建の秋『山陽新報』1月4日  
国防計画と国民生活再建設[「国策の中心を何処に置く」]『経済往来』10-2、2月1日  
[「国田孝一宛書信」]『財界レビュー』13-7、4月21日  
日本を繞ぐる国際情勢とその思想背景[「特別講座」1934年12月25日講演]『教育研究』433、435、5月1  
日、6月1日  
国策樹立の指導精神『民政』9-6、6月1日  
永井柳太郎氏縦横談『キング』11-7、7月1日  
ークオ・ヴァイデイス?—世界は何処へ?日本は何処へ?『財界レビュー』13-12、7月1日  
廃娼の闘士故三宅馨先生を偲ぶ座談会『婦人新報』448、7月1日[6月13日座談会於丸ノ内会館:三宅  
千代子、伊藤秀吉、星島二郎、時田田鶴子、金子しげり、内ヶ崎作三郎、安部磯雄、平賀徳造、瀬尾芳  
夫、ガントレット恒子、守屋東、千本木道子、島津とし子、川又優美子]  
議会肅正より見た第一党競争『中外商業新報』7月25、26日[『私の信念と体験』収録]  
『世界の母』を護る日本『報国』4-10、9月1日

母への感謝[「母を語る」]『日の出』4-10、10月1日[土屋堯編『母を語る』(明治書房、1938年)収録]  
座談ぶり雄弁ぶりから見た巨人大隈侯を語る[記者によるインタビュー]『雄弁』26-10、10月1日  
大衆の一人として[10月3日講演於九段軍人会館]『中央公論』50-11、11月1日  
[記事「永井柳太郎氏神戸を出発 瑞穂丸に便船して」中の談]『台湾日日新報』11月5日  
“台湾に対する認識を深めたい”[談]『台湾日日新報』11月8日  
日本に領有され台湾は真に幸福[8日談(於歓迎会席上)]『台湾日日新報』11月9日  
内地人の農業移民は結局大成が困難 他の企業方面に活躍せしめよ[談]『台湾日日新報』11月15日  
真に台湾に於ける生活の理解が出来た[談]『台湾日日新報』11月17日  
国民生活再建期に於ける新聞の使命と重圧裡日本の新国策[10月14日、横浜貿易新報主催講演会於横浜  
開港記念会館]『講演』308、11月20日  
[記事「前拓務大臣永井柳太郎氏来台」中の1935年11月8日官民合同歓迎会での演説(於鉄道ホテル)]『拓  
務評論』7-12、12月1日

### 1936(昭和11)年

良国民となるために 大国民となるために『婦人之友』30-1、1月1日[11月28日座談会於自由学園：杉  
森孝次郎、清沢洌、長谷川如是閑、三木清、三宅雪嶺、宮沢俊義、吉岡弥生、蠟山政道、羽仁吉一、羽仁もと  
子][『三木清研究資料集成』第3巻(クレス出版、2018年)収録]  
昭和十年の回顧『民政』10-1、1月1日  
濤は碧し太平洋 大宇宙は戦場也 醒めよ日本国民『羅府新報』1月1日  
一切を超越して日本の再建設へ[「新年問答」インタビュー筆記]『北国新聞』1月3日  
転換期における議会政治の動向 現状維持と打破の二派[「政局随想」]『大阪朝日新聞』1月5日(悪貨は良  
貨を駆逐 政界の珍現象[「政局随想」]『東京朝日新聞』1月10日)[三を「二・二六事件以後」(『私の信念  
と体験』)収録]  
新日本建設の動力 真に政党再生の途[「政局随想」]『大阪朝日新聞』1月6日[(新日本建設の動力 これ真の  
公党[「政局随想」]『東京朝日新聞』1月11日)[五を「二・二六事件以後」(『私の信念と体験』)収録]  
東洋政策即世界政策[「どう打開する?」]『時事新報』1月10、12日[『私の信念と体験』収録]  
工業日本の旗幟明か 日満ブロックの拡大強化[「世界の混乱と経済日本の進路(十六)」]『読売新聞』1月26  
日  
国民経済の再建設 列強ブロックに対峙[「世界の混乱と経済日本の進路(十七)」]『読売新聞』1月28日  
生死を超越する心『大法輪』3-2、2月1日[『我が信仰と生活』<『処世実話全集』第9巻>(金星堂、1937  
年)収録]  
民政党は何を求める『日本評論』11-2、2月1日[座談会：清沢洌、室伏高信、蠟山政道、佐々弘雄]  
昭和維新の建設 付一正しき政党の進路[2月3日立憲民政党関東大会於日比谷公会堂]『講演の友』98、2  
月20日  
正しき政党の進路[2月3日講演於日比谷公会堂]『旬刊講演集』420、2月20日  
\*日満ブロックの拡大強化『新東洋』[5-2]、2月



母はかうして私達を育てた『婦人子供報知』120、3月22日

永井会長挨拶[「立憲民政党々報 政務調査会」中の記事「審議を急ぐ八大政策」の中、4月22日、総務会長の任期満了に伴う挨拶]『民政』10-5、5月1日

昭和維新の建設『雄弁』27-5、5月1日

\*先覚者を語る 田中舎身居士と大隈侯『砕氷船』[1-3]、5月

敢て政党再建を叫ぶ『政治経済時論』11-8、8月1日

日本再建の指導精神[6月18日明治大学法学部主催於明治大学記念館]『講演の友』112、8月5日

会計年度改正を断行せよ『河北新報』8月11日

教界と禁酒界の功労者長尾半平氏を弔ふ『神の国新聞』921、8月26日

身を以て示した母[「私は母の躰けに今更感謝してゐる」]『家の光』12-9、9月1日[「身を以て教えた我が母」と改題、『私の信念と体験』収録]

身を以て示した母[「私は母の躰けに今更感謝してゐる」]『家の光[都市版]』12-9、9月1日[「身を以て教えた我が母」と改題、『私の信念と体験』収録]

総裁の利器を語る 永井柳太郎氏縦横談『現代』17-9、9月1日

山田道兄君の風格[「故山田道兄君を憶ふ」]『民政』10-10、10月1日

亜細亜文化の建設と日本青年『市町村雑誌』514、10月15日

形骸の挙国一致 積弊を芟除し難し情勢、苟安の政策を許さず[「時局と我等」]『東京朝日新聞』10月16日

議會今昔座談会『大阪毎日新聞』10月27~29、31日、11月1~19、21日[大阪毎日新聞社主催座談会：浜田国松、鳩山一郎、富田幸次郎、加藤政之助、前田利定、麻生久、尾崎行雄(紙上参加)、元田肇(紙上参加)、本社側(高石主筆、岡崎東日主幹、高田同整理、久富同政治両部長)]

亜細亜文化の建設と日本青年『朝鮮及満洲』348、11月5日

有力なる資料[談]『読売新聞』11月10日

日本再建の指導精神(三)[講演]『日本新聞』[サンパウロの邦字新聞]245、11月18日

\*政府の指導精神『新東洋』[5-11]、11月

現代の青年に訴ふ 諸君は自覚してゐるのか、はた眠ってゐるのか『家の光』12-13、12月1日[「農村の青年に訴ふ」と改題、『私の信念と体験』収録]

現代の青年に訴ふ 諸君は自覚してゐるのか、はた眠ってゐるのか『家の光[都市版]』12-12、12月1日[「農村の青年に訴ふ」と改題、『私の信念と体験』収録]

大隈重信侯の気膽[「名士談話室」]『青年』21-12、12月1日[「名士談話室」<青少年文庫5>(日本青年館、1940年)収録]

亜細亜文化の建設と日本青年『鉄道青年』28-12、12月1日

大転換期に直面せる日本『京都帝国大学新聞』255、256、12月5、20日

[記事「両党有田外交に失敗の烙印」中の「永井民政幹事長談」]『読売新聞』12月11日

## 1937(昭和 12)年

- 新日本を目指して[「前大臣の随想」]『実業之日本』40-1、1月1日
- 東洋政策の根本問題『創造』7-1、1月1日
- 新社会建設の大理想『民政』11-1、1月1日
- 日本なくんば垂細垂なし『雄弁』28-1、1月1日[『私の信念と体験』収録]
- 青年に語る『北国新聞』1月4、5日
- 国家主義大衆党として『都新聞』1月6、7日
- [「我等はかく戦ふ 第十七議会の仮想質問」]『アサヒグラフ』28-5、1月27日
- 帝国議會を語る会『祖国』9-2、2月1日[1936年12月26日座談会(於東京會館): 西川貞一、安藤正純、北吟吉、浅岡信夫、岩瀬亮、藤原繁太郎]
- 新日本の建設へ『民政』11-2、2月1日
- 経緯次第で支持[幹事長談]『読売新聞[夕刊]』2月3日
- 日本再建の大業に邁進[「解散から総選挙へ」]『民政』11-4、4月1日
- 日本再建の指導精神『雄弁』28-4、4月1日
- 誠心誠意闘ひ抜く[「戦ひに備ふる態勢」]『読売新聞』4月10日
- 再解散強行せば 政府・更に惨敗せん[「選挙と政局」紙上座談会]『東京日日新聞』4月12日([「二大潮流の決戦 政戦と政局紙上座談会」]『大阪毎日新聞』4月12日)
- 昭和新中国建設の方途[4月16日講演於日比谷公会堂]『旬刊講演集』461、4月20日
- 国民生活の再建へ[「野党は如何に闘ふか?」]『東方公論』12-5、5月1日
- 林内閣の退陣を要求する『民政』11-5、5月1日
- [「代議士と酒 附廿五歳禁酒法に対する賛否」]『禁酒之日本』211、6月1日
- [「三宅雪嶺先生喜壽並に花圃夫人古稀祝賀會の記」中の祝電]『実業之世界』34-6、6月1日
- 日々に新なるべし『日の出』6-6、6月1日[「素人の権威」と改題]『私の信念と体験』収録]
- 不信任の意志表明[「林内閣への公開状」]『文芸春秋』15-6、6月1日
- 恩師を憶ふ[「教育家感謝宣伝」]『キング』13-8、7月1日[「安部磯雄先生」と改題]『私の信念と体験』収録]
- [「四十歳のとき私は何をしてゐたか」]『実業之日本』40-13、7月1日
- 革新日本の再建設『都新聞』7月10、11、13日
- 少年少女諸君に与ふ『子供のテキスト ラヂオ』10-8、7月25日
- \*電力国策の重要性『経済新潮』1、8月
- [橋本芳蔵「永井柳太郎論」中の家族宛永井柳太郎書簡]『政界往来』8-7、9月1日
- 愛国切手について[「大臣の訓話」]『小学五年生』17-7、10月1日
- 愛国切手について『小学二年生』13-8、10月1日
- 航空・電力・海運座談会『大阪朝日新聞』10月13~15、17、19~22、24、26~28、31日[10月4日朝日新聞

社主催座談会(於帝国ホテル)：大谷登、黒川新次郎、佐野精一、斯波孝四郎、八田嘉明、林安繁、原邦造、松永安左衛門、村田雀蔵、緒方主筆、野村東朝編輯局次長、丹波東朝經濟部長(司会)[航空・電力・海運連相懇談会『東京朝日新聞』10月15～17、19～22、24、26～29、31日]

アジア再建の義戦[10月14日東京府・市連合国民精神練成講演於日比谷公会堂]『北国新聞』10月20、21日

亜細亜再建の義戦[10月14日東京府・市連合国民精神練成講演於日比谷公会堂]『講演時報』14-30、10月25日

亜細亜再建の義戦[10月14日東京府・市連合国民精神練成講演於日比谷公会堂]『講演』378、10月30日

亜細亜再建の義戦[10月14日於日比谷公会]『旬刊講演集』480、10月30日

空軍兵力増強に航空機工業確立せよ[談話]『読売新聞』10月31日

亜細亜再建の義戦[10月14日於東京府・東京市主催於日比谷公会堂]『公民教育』7-11、11月1日

安部先生を語る[10月4日自由基督教集會中の談話大要於神田青年會館]『廓清』27-11、11月10日

非常時局と電力国策『電気經濟時論』9-11、11月15日

亜細亜再建の義戦『青年』22-12、12月1日

アジア再建の聖戦『保険政策』1-9、12月1日

日独防共協定一周年に際して『放送』7-12、12月15日

## 1938(昭和13)年

民間航空振興の急務と其の方策に就いて『航空時代』9-1、1月1日

年頭所感『工業日本』6-1、1月1日

偉人大隈重信侯『小学四年生』15-12、1月1日

新日本の進路 万人に使命達成の自由を與へよ 白人種に望むものは土地の解決『大北日報』1月1日

電力国策の実現に邁進『高岡新聞』1月1日

東亜民族再建の聖戦『朝鮮及満洲』362、1月1日

年頭所感『都市公論』21-1、1月1日

日滿支經濟ブロック論『日滿經濟』7-1、1月1日

日伯の親善を助長し同胞の福利増進に努めよ『伯刺西爾時報』1480、1月1日

日本国民の大使命『報国』7-1、1月1日

世界平和再建設の礎石『民政』12-1、1月1日

共存共栄の新天地 亜細亜再建へ小我を捨てゝ大我に就け『北陸日日新聞』1月3日

国防力充実等のため電力国策緊要『富山日報』1月4日

労働者たるを名誉とせよ『北国新聞』1月4日

電力の国家管理 今議会で戦はん『やまと新聞』1月4日

戦捷万歳の春 皇紀二五九八年を祝す[談]『愛媛新報』1月5日  
新日本の進路『大陸日報』1月5、6日  
電力国家管理は刻下の緊要時『合同新聞』1月7日  
大空を制するもの[「年頭に語る」]『週刊朝日』33-4、1月16日  
永井遞信大臣の演説[1937年12月2日演説(於東京銀行倶楽部晩餐会)]『銀行通信録』624、1月20日  
年頭所感『産業能率』11-2、2月1日  
電力国家管理に関する四法案に付て『都市公論』21-2、2月1日  
電力国家管理案の重大使命『日滿経済』7-2、2月1日  
通信従業員に与ふる募集、維持に努力せよー『保険政策』2-2、2月1日  
人は労働者たることを名誉とせよ『新国民』66-5、2月5日  
[永井遞信大臣御挨拶要旨]『通信協会雑誌』354、2月10日  
\*電力管理案の断行は国力充実の基本要件たり『中央官界』3月  
[永井遞信大臣御訓話要旨]『通信協会雑誌』355、3月10日  
遞信報国に邁進の道『通信協会雑誌』355、3月10日  
アジア再建の義戦『修養世界』27-5、5月1日  
必要の所産『通信協会雑誌』357、5月10日  
地方長官會議に於ける永井遞相の訓示『通信協会雑誌』358、6月10日  
病恩[「日曜随想」]『都新聞[夕刊]』6月13日[黒田重吉編『時局百眼』(秋豊園出版部、1939年)、『私の信念と体験』収録]  
青年よ!革新の天職に目覚めよ『大日本青年』1-6、6月15日  
民間業者へ協力を要望す『電気経済時論』10-6、6月15日  
貧乏の勝利[「わが学生時代と現代学生」]『読売新聞[夕刊]』6月30日  
式辞[日本海員掖済会第57回定式總會]『海之世界』、7月1日  
\*[未詳]『実話読物』7-7、7月1日  
信念に生く 安部先生との関係[「わが学生時代と現代学生」]『読売新聞[夕刊]』7月1日  
学生に与ふる[「わが学生時代と現代学生」]『読売新聞[夕刊]』7月2日  
病恩『大陸日報』7月6、8日  
『均しからざるを患ふ』跛行的現象を克服、長期戦へ[「戦時下の国民生活」]『大阪朝日新聞』7月11日[『私の信念と体験』、『戦時下の国民生活』(朝日新聞社、1938年)収録]  
\*東洋と西洋『教養』7月[『私の信念と体験』収録]  
戦はざるものに勝利なし[7月6日支那事変一周年記念講演会(於日比谷公会堂)]『講演』404、7月20日  
戦はざるものに勝利なし[7月6日支那事変一周年記念講演会(於日比谷公会堂)]『経国』5-8、8月1日  
戦はざるものに勝利なし『南洋群島』4-8、8月1日

戦はざるものに勝利なし[7月6日支那事変一周年記念講演会(於日比谷公会堂)]『民政』12-8、8月1日

戦はざるものに勝利なし[7月6日支那事変一周年記念講演会(於日比谷公会堂)]『ラヂオ講演講座』44、8月5日

[支那事変勃発一周年記念日に於ける大臣訓話要領]『通信協会雑誌』360、8月10日

時局と海運『写真週報』28、8月24日

戦はざるものに勝利なし[講演要旨]『宇宙』13-9、9月1日

[「忘れえぬ母の一言」]『青年』23-9、9月1日

\*勝利への道『台湾婦人界』9月1日[国立中央図書館台湾分館所蔵]

戦はざるものに勝利なし『雄弁』29-9、9月1日

通信従業員諸君に告ぐ『通信協会雑誌』361、9月10日

支那事変と帝国の使命『市町村雑誌』537、9月15日

新興アジア建設を目指して『実業之世界』35-10、9月18日

国難と英雄『青年』23-10、11、10月1日、11月1日

錢五の蔭の人 大野弁吉『中央公論』53-10、10月1日[『錢屋五兵衛 戯曲』収録]

銃後後援強化週間を迎へて『通信協会雑誌』362、10月10日

[「武漢・広東攻略後に対処すべき我が国の方針(葉書回答)」]『国策研究』9-11、11月1日

国民精神作興詔書渙発十五周年に際して『通信協会雑誌』363、11月10日

祝辞[10月25日大隈老侯生誕百年記念祭(於早稲田大学大隈講堂)]『早稲田学報』525、11月10日

挙国一致の精神『子供のテキスト ラヂオ』11-12、11月25日

日本は世界再建の推進力たるべし『講演通信』407、11月25日

世界再建の推進力たるべし[11月9日講演於日比谷公会堂]『旬刊講演集』518、11月30日

亡き母を語る『婦女界』58-6、12月1日

亡き母の思ひ出『婦人公論』23-12、12月1日[『父母を語る』(金星堂、1939年)収録]

雄弁の大恩人[野間清治追悼]『報国』7-12、12月1日

日本は世界再建の推進力たれ[東亜再建国民運動講演会講演筆記(於日比谷公会堂)]『民政』12-12、12月1日

雄弁の大恩人[「野間社長逝去について諸名士の言葉」]『雄弁』29-12、12月1日

生活の刷新『通信協会雑誌』364、12月10日

### 1939(昭和14)年

日本なくして亜細亜なし『現代』20-1、1月1日

新年に際して[「名士の言葉」]『小学五年生』18-10、1月1日

都市と航空『都市公論』22-1、1月1日

戦はざる者勝利なし 亜細亜に野心を抱く勢力を斥け 日滿支三国の新天地を建設せん『日米[The Japanese American News]』1月1日

[元旦試筆]『福岡日々新聞』1月1日

年頭所感『民政』13-1、1月1日

世界再建の推進力たるべき日本の使命[11月15日東亜再建国民連盟主催講演(於日比谷公会堂)]『雄弁』30-1、1月1日

新東亜の交通大観[「新東亜体制」]『大阪毎日新聞』1月2日

昭和十四年年頭に際して『通信協会雑誌』365、1月10日

戯曲 銭屋五兵衛『日の出』8-2~7、2月1日、3月1日、4月1日、5月1日、6月1日、7月1日

国民皆兵総突撃[2月23日読売新聞社主催講演於日比谷公会堂]『公民教育』9-3、3月1日

新東亜建設は国民皆兵の総突撃にあり[「東亜建設の指標」]『都市ト農村』10-3、3月15日

亡母の五七忌に知友を招待して[「応用自在短時間演説集」]『雄弁』30-4、4月1日

重大なる女医の使命(卒業式訓示)[文責在記者、於東京女子医学専門学校]『女医界』314、5月1日

\*国民皆兵の総突撃『講演の友』5月

銭屋五兵衛に就いて『演芸画報』33-6、6月1日[「『銭屋五兵衛』の上演に就いて」と改題し『銭屋五兵衛 戯曲』収録]

革新政治の急務[談]『時潮』5-5、6月1日

天地と共に働け『日の出』8-6、6月1日

東亜建設と国民総突撃『交通経済』10-6、6月1日

東亜建設と国民総突撃『市町村雑誌』546、6月15日

東亜建設と国民総突撃『海之世界』33-7、7月1日

ルーズヴェルト大統領に問ふ『改造』21-7、7月1日[『興亜論集』収録]

新しき世界の指導者たれ『青年』24-7、7月1日

肉眼の世界より心眼の世界へ 失明傷痕軍人各位におくる[陽光舎主催「講演と音楽の夕」於東京基督教青年会館]『雄弁』30-7、7月1日

日英会談に希む『大陸新報』7月10、11日【(一)国民外交の実をあげよ!、(二)大理想実現の為に戦へ!】

Some questions for president Roosevelt?『Contemporary Japan』8-5、7月

国柱を以て任ずる精神『キング』15-9、8月1日

興亜の敵は何者ぞ『現代』20-8、8月1日

母の慈愛『婦人倶楽部』20-10、8月1日

明治維新の如く[7月6日民政党主催新興日本国民運動演説会演説速記(於日比谷公会堂)]『民政』13-8、8月1日

海外移住の同胞諸君に訴ふ[6月10日対米ラジオ放送]『雄弁』30-8、8月1日

明治維新の如く[7月6日民政党主催新興日本国民運動演説会演説速記(於日比谷公会堂)]『講演通信』434、

8月5日

日本民族の世界使命[8月2日ラジオ放送]『ラヂオ講演講座』81、8月15日

人は真なる時に美し[「興亜特急」]『大阪朝日新聞[夕刊]』8月20日

事変下に贈る言葉『現代』20-9、9月1日

世界は何処へ『国際知識及評論』19-9、9月1日

日満支一体の全機構再建[「新閣僚に聴く」]『政界往来』10-10、10月1日

国際通商上の地位倍加[「通相談」]『読売新聞』11月28日

先づ国民生活の新秩序から[「応用自在短時間演説集」]『雄弁』30-12、12月1日

## 1940(昭和15)年

皇紀二千六百年を迎へて『通信協会雑誌』377、1月10日

新東亜建設を目標とする交通政策[1939年11月28日講演(於帝国鉄道協会主催第4回交通知識普及大講演会)]『汎交通』41-1、1月15日

信念の人頼母木桂君を追慕して『通信協会雑誌』380、4月10日

議会の打ち明け話座談会『実業之世界』37-5、5月1日[4月8日座談会(於星ヶ岡茶寮):石渡莊太郎、堀切善兵衛、松野鶴平、野依秀市]

偉人を偲ふ[談]『固本盛国』4-7、7月1日

西に独逸、東に日本[5月27日「聖戦音楽の夕」於日本青年館]『雄弁』31-7、7月1日

日本の女性へ切望す『廓清』30-7、7月10日

米国人よ亜細亜の新秩序を妨害する勿れ 第二世は米国の輿論を是正せよ『実業之布哇』29-26、7月12日

剣を帯びざる一兵卒[「談話リレー」]『婦女新聞』2093、7月21日

お国自慢『北国毎日新聞[夕刊]』7月25~27日

陽は東洋より西洋を照す[7月10日ラジオ放送]『ラヂオ講演講座』115、7月25日

新体制の指導方向『国策研究』11-8、8月1日

新体制推進座談会[紙上参加]『新愛知』8月17~31日、9月1、2日[座談会:林房雄、橋本欣五郎、本位田祥男、小原正樹、亀井貫一郎、竹本孫一、中野正剛、中野登美雄(紙上参加)、内田繁隆、松本徳明、広瀬豊作、平野学、千石興太郎]

日の如くかばやく[巻頭言]『家の光』16-9、9月1日

新政治体制への協力『公論』3-9、9月1日[8月3日座談会:有馬頼寧、阿部賢一、大河内一男、上村哲弥、上村勝弥]

直進する者に煩悶なし[インタビュー「民政脱党・解党双方の言分」]『政界往来』11-9、9月1日

新体制運動第一回準備委員会[会議]『都市公論』23-9、9月1日

世界の現状と日本民族の大使命『交通経済』11-9、9月10日

世界の現状と日本民族の大使命『市町村雑誌』561、9月15日

新体制の指導精神[9月14日講演於日比谷公会堂]『旬刊講演集』582、9月30日

\*更始一新の機 全国民実践躬行せよ『商工之日本』[11-9]、9月

世界の現状と日本民族の大使命『蚕業新報』570、10月1日

新体制準備委員座談会『政界往来』11-10、10月1日[座談会：小川郷太郎、岡田忠彦、金光庸夫、前田米蔵、秋田清、木舎幾三郎]

新政治体制とは如何なるものか[「新体制へ発足」]『北国毎日新聞』10月14日

三国同盟の世界史的意義『独逸事情』9-11、10月25日

新体制の指導精神『創造』10-13、11月1日

新体制と新文化の建設(傑僧石川瞬台先生を思ふ)『中外日報』12月3～5日

新体制の根本理念とその指導精神—亜細亜再建と日本国民の使命—『講演時報』606、12月25日

## 1941(昭和16)年

日本民族の攻撃力の根源『実業之世界』38-1、1月1日

新体制下の朝鮮青年に与ふ『朝鮮画報』3-1、1月1日

後継者に期待[「大島社長を悼む」]『新愛知[夕刊]』1月5日

国を挙げて興亜の挺身隊となれ『北国毎日新聞[夕刊]』1月7～9日

海外在住の同胞諸君に訴ふる—ルーズヴェルト大統領の教書を駁す—[1月12日海外向けラジオ放送]『実業之世界』38-2、2月1日

私の郷里 加賀に育った幼き頃—永井柳太郎氏語る—[口絵]『婦人之友』35-2、2月1日

興亜の挺身隊として[1月3日ラジオ放送]『ラヂオ講演講座』125、2月1日

能率発揮と純化 改組の根本目標『大政翼賛会会報』10、2月19日

新政治体制の必然性『大阪毎日新聞』3月30、31日、4月1日

教育の重要性と教員待遇の急務[講演於帝国教育会評議員会]『帝国教育』750、4月1日

[記事「翼賛会入りの両氏心境を語る 動員令と思つて挺身 永井局長」中の談]『東京朝日新聞』4月5日

新政治体制の必然性と其の統合性『講演通信』495、4月15日

運動の中核体結成『大政翼賛会会報』20、5月7日

母[「日曜随想」]『都新聞[夕刊]』5月12日

大東亜共栄圏の建設と国際観光事業『観光』1-2、5月20日

同志は一致団結『大政翼賛』21、5月21日

興亜日本民族の使命『警防』7-5、5月

高度国防国家建設の急務[講演要旨於(板橋警察署主催警察講演会)、文責在記者]『自警』23-6、8、6月1日、8月1日



興亜運動の目標[9日会見談於帝国ホテル]『政界往来』12-6、6月1日

国家の隆興と母の力『廓清』31-6、6月10日

過去に泥まらず[記事「興亜に挺身の団体統合『大日本興亜同盟』設立」中の「要請」]『東京朝日新聞』6月11日

欧羅巴対亜細亜の運命[5月24日講演於稲門会]『講演』509、6月20日

興亜運動 基本態勢を整ふ[談]『大政翼賛』25、6月25日

\*世界の政治動向と日本『南進』[6-6]、6月

『世界の太陽』日本 七月十一日の国旗制定記念日に因んで[巻頭言]『家の光[都市版]』17-7、7月1日

支那事変解決の方策『実業之世界』38-7、7月1日

興亜の挺身隊たれ[巻頭言]『譚海 科学と国防』22-7、7月1日

精神的に全国民が加盟 総力結集一大運動展開[7月6日、「経過概要説明」於大日本興亜同盟結成大会]『大政翼賛』27、7月9日

大戦の建設的意義『国民知識』8-8、8月1日

新興アジア建設の使命『人生創造』212、8月1日

共に戦ふ心[7月14日ラジオ放送]『婦女新聞』2147、8月3日

世界新秩序の胎動『新愛知』8月10、11日[座談会：オイゲン・オット、クレツチュマー、シルバツハア]

共に戦ふ心『興亜』2-8、8月25日

\*天と共に起ち・戦ひ・勝つ日本『講演の友』185、8月

東亜共栄圏の盟主として『家の光』17-9、9月1日

独立か屈従か『新興亜』3-9、9月1日

世界の危機と我等の覚悟『青年』26-9、9月1日

世界再建の大理想『雄弁』32-9、9月1日

ルーズヴェルト大統領に再び問ふ『改造』23-20、10月1日[「再びルーズヴェルト大統領に問ふ」と改題  
『興亜論集』収録]

興亜の文化『国民美術』1-1、10月1日

『雄弁』は永遠に生く『雄弁』32-10、10月1日

亜細亜を解放し且結合する使命『興亜』2-10、10月18日

惟神の大道を以て全地を光被せしめよ『宇宙』16-11、11月6日

共に戦ふ心『商工銃後』3-3、11月8日

川合先生のこと[談]『国画』1-3、11月10日

東亜民族の世界使命と満州建国[文責在記者]『開拓』5-11、11月11日

興亜に先駆すべき青年の使命『北国毎日新聞』11月13～16日

政党再興反対[談話]『読売新聞』11月21日

興亜国民運動と翼賛議会『興亜』2-12、12月1日

日の丸の旗『日本の子供』3-12、12月1日

この陛下の御為に[12月9日ラジオ放送「国民の誓い」]『婦女新聞』2166、12月14日

\*共に戦ふ心『新人』12月

## 1942(昭和17)年

\*青年の使命『生きて行く道』1月1日

興亜に先駆すべき青年の使命『興亜』3-1、1月1日

天と共に戦ひ勝て 破壊の後に来る建設『神戸新聞』1月1日

八紘為宇の大精神『人生創造』217、1月1日

勝利の魂『戦線文庫』5-1、1月1日

おとなり同志の心『日本女性』2-7、1月1日

[新年の賀状]『北国毎日新聞』1月1日

大東亜戦争の世界史的意義『伊勢新聞』1月3日

大東亜戦争とアジア民族『時局雑誌』1-1、1月7日

大東亜戦争と国民の誓い『講演』529、1月10日

興亜青年の大使命 八紘為宇の大精神を今ぞ世界に光被せよ[「青年に待望す」]『大日本青年』5-2、1月15日

[「婦女新聞に寄せる言葉」]『婦女新聞』2174、2月15日

指導国民たるの自覚[巻頭言]『実業之日本』45-6、3月15日

日本は神国なり『宇宙』17-4、4月6日

[「葉書回答 南方建設に期待する人物」]『外地評論』42、4月7日

[記事「各団体を糾合し興亜大業に邁進 永井東亜局長決意表明」中の「声明」]『東京朝日新聞』4月11日

翼賛政治会の新使命『興亜』3-7、7月1日

事変処理から大東亜戦争へ『創造』12-8、7月1日

決戦体制の徹底強化[7月27日講演(於大政翼賛会・翼賛政治会共催の大東亜戦争完遂国民総力結集大講演会)]『講演通信』647、8月10日

永井柳太郎氏を訪ねて青年に寄する言葉を聞く『関西学院新聞』188、8月20日

決戦体制の徹底強化[7月27日講演(於大政翼賛会・翼賛政治会共催の大東亜戦争完遂国民総力結集大講演会)]『講演』552、8月30日

\*アジアの黎明に立つ日華両国[7月23日講演於周仏海氏歓迎講演会]『講演の友』8月

決戦体制の徹底強化『大東亜資源』1-10、9月6日

老侯精神を遵奉せよ[談]『早稲田大学新聞』265、9月9日

中華民国々民諸君に懇ふ！[9月25日首都歓迎民衆大会於南京国民大会堂]『大陸新報』9月26日  
戦争に於ける映画の役割『日本映画』7-10、10月1日

中華民国国民諸君に懇ふ[9月25日首都歓迎民衆大会於南京国民大会堂]『講演』558、10月30日

\*天皇帰一の総力結集『公民常識』[17-11]、11月

\*共栄の思想工作を徹底『和合之力』11月

宣戦の大詔煥発一周年を迎へて『興亜教育』1-12、12月1日

大東亜戦争一周年と新なる決意『時局雑誌』1-12、12月7日

## 1943(昭和18)年

[「提題回答 昭和十八年の年初に実現させたい此の一事」ハガキ回答]『新経済』3-1、1月1日

天必ず正義に与ず[講演於自由学園]『婦人之友』37-1、1月1日

支那観察談[1942年11月14日海軍有終会講演(於水交社)]『有終』30-1、1月5日

剣道、病気、貧乏[「私の錬成時代」]『大日本青年』6-4、2月15日

\*青年よ起て『朝鮮画報』2月

アジアから英を一掃せよ[講演要旨]『大政翼賛』106、3月3日

天はガンジーと共に闘ふ[2月27日印度救援国民大会(於京橋歌舞伎座)]『講演通信』665、3月10日

[記事「大東亜教育会」へ 帝教新会長永井さんの構想]中の談『東京朝日新聞』3月31日

天はガンジーと共に闘ふ[印度救援 国民大会(於京橋歌舞伎座)、3月6日講師校閲済]『講演時報』687、3月25日

彼等の戦争と我等の戦争『独逸事情』12-4、3月25日

印度救援宣言—天はガンジーと共に闘ふ—『興亜』4-4、4月1日

帝国教育会長就任の挨拶『帝国教育』774、4月1日

孫文と大亜細亜主義『時局雑誌』2-4、4月7日

天はガンジーと共に闘ふ[2月27日印度救援国民大会(於歌舞伎座)]『講演』574、4月10日

帝国教育会長就任の挨拶『弥高(秋田教育)』284、4月11日

反枢軸国群の戦争目的『放送』3-5、5月1日

身を賭して国を憂ひ民を思ふ野依君[「本誌三十五周年祝賀会」]『実業之世界』40-5、5月10日

[記事「教育会の陣容一新 専務理事に山川建男」中の「永井会長談」]『東京朝日新聞』5月25日

安宅と日本精神『文芸春秋』21-6、6月1日

大東亜教育体制確立に就て『帝国教育』777、7月1日

忠烈の血いまだ沸き立つ 一億渾然職域に敢闘、誓つて暴戻米英を撃摧せん『帝国海軍』29-7、7月8日

大東亜教育体制確立に就て『弥高(秋田教育)』287、7月11日

教員の待遇改善に寄す[談]『東京朝日新聞』8月1日

新生上海に寄せて 在留邦人に告ぐ『大陸新報』8月2日  
興亜教育十講[巻頭言]『兵庫教育』645、8月15日  
東洋文化の再現『中央仏教』27-9、9月1日  
学徒よ天と俱に起ち天と俱に戦へ[記事中に講演要旨(10月6日学徒出陣記念講演於早稲田大学)]『早稲田  
大学新聞』312、10月13日[同講演は「学徒の出陣に餞す」と題して『永井柳太郎氏興亜雄弁集』収録]  
明治天皇の御偉業を偲び奉る[明治天皇行幸記念講演於新潟県三条市]『帝国教育』781、11月1日  
明治天皇の御偉業を偲び奉る[明治天皇行幸記念講演於新潟県三条市]『弥高(秋田教育)』291、11月11日  
興亜の女教師[5月22日速記]『教育女性』19-11、11月15日  
祭料御下賜の思召を拝して『帝国教育』782、12月1日  
死せども死せず『帝国教育』782、12月1日  
大日本育英会の使命と其の解説『帝国教育』782、12月1日  
世界の黎明に先駆する大東亜『翼賛政治』2-12、12月1日  
中野正剛君を憶ふ『通信協会雑誌』424、12月10日  
大日本育英会の使命と其の解説『弥高(秋田教育)』292、12月11日  
\*大東亜の建設『綜合経済』[12-12]、12月

## 1944(昭和19)年

教場は戦場に通ず[巻頭言]『帝国教育』783、1月1日  
興亜教育の基本理念[1943年12月13日講演於興亜懇談会]『帝国教育』783、1月1日  
闘はざる者に勝利なし『都政週報』24、1月1日  
世界の黎明に先駆する大東亜[1943年11月6日ラジオ放送要項]『日本教育』3-9、1月5日  
国士たれ[「素人映画評」]『月刊読売』2-2、1月18日  
民族思想の善導[「新聞製作に望む」]『日本新聞報』86、1月27日  
国を挙げて道を行ふ[「勝利への道」]『翼賛政治』3-2、2月1日  
\*学徒生産出陣に寄す[談]『産業経済新聞』3月10日  
輝しき大日本教育会の誕生[帝国教育会総会挨拶]『帝国教育』787、5月1日  
決戦下に新発足する大日本育英会『大日本教育』788、6月1日  
「東洋的自然観」を語る対談会『大日本教育』789、7月1日[座談会：佐野正道、松本潤一郎、日高只一、  
中村宗雄]  
興亜教育の三大指標[5月29日講演速記於愛知第二師範学校女子部開設記念講演会]『愛知教育』680、8  
月1日  
教育家諸君に懇ふ『大日本教育』790、8月1日  
大義を確立すべし[「巻頭言」]『実業之日本』47-16、8月15日

「育英」発刊に方りて『育英』1、10月25日

### 1961(昭和36)年

小野吉勝(有香)宛ハガキ2通[明治38年8月5日、11月2日]、岩崎吉勝「先輩恩師の片影(其二)永井柳太郎大兄(1)」『柳』13、9月1日

## 5. 帝国議会演説

- \* 『官報号外 帝国議会衆議院議事速記録』は『官報号外』と略記し、『官報号外 帝国議会貴族院議事速記録』は『官報号外<貴族院>』と略記した。

### 第 43 特別議会(1920 年 7 月 1 日～28 日)

政府の施政方針について質問、7 月 8 日『官報号外』6、1920 年 7 月 9 日

昨日の発言について釈明を求める発言、7 月 9 日『官報号外』7、1920 年 7 月 10 日

講和条約実施委員派遣費に関連して質問、7 月 9 日『予算委員第一分科会議録』1、7 月 9 日

### 第 44 回通常議会(1920 年 12 月 27 日～1921 年 3 月 26 日)

委任統治問題・尼港事件・シベリア出兵問題等について外務大臣・陸軍大臣・総理大臣に質問、1 月 28、29 日『予算委員会議録』3、4、1 月 28、29 日

外務省所管の大正 10 年度歳入歳出予算案に関連して質問、2 月 3 日『予算委員第一分科会議録』2、2 月 3 日

一身上の弁明、2 月 3 日『官報号外』10、2 月 4 日

台湾に施行すへき法令に関する法律案に関連して質問、2 月 7 日『台湾に施行すへき法令に関する法律案委員会議録』3、4、2 月 7、14 日

医薬分業の請願について趣旨説明、2 月 21 日『請願委員第二分科会議録』4、2 月 21 日

決議案(朝鮮統治に関する調査委員会設置)に関連して朝鮮総督に質問、2 月 25 日『官報号外』19、2 月 26 日

大垣、大野、金沢間の鉄道速成に関する建議案について賛成意見、3 月 17 日『遠美鉄道速成に関する建議案外二件委員会議録』1、3 月 17 日

ヤップ島問題に関連して質問、3 月 18 日『予算委員会議録』13、3 月 18 日

### 第 45 通常議会(1921 年 12 月 26 日～1922 年 3 月 25 日)

海軍軍縮等について外務大臣に質問、施政方針演説等に関する総理大臣への質問『予算委員会議録』4、1 月 28 日

文官恩給増額等の請願の趣旨説明『請願委員第一分科会議録』1、1 月 30 日

外務大臣に対する前回の質問の続き『予算委員会議録』8、2 月 2 日

海軍協定・大連会議等について外務大臣に質問『予算委員第一分科会議録』1、2 月 3 日

衆議院議員選挙法中改正法律案の賛成意見陳述、2 月 23 日『官報号外』16、1922 年 2 月 24 日

軍人傷痕記章所持者鉄道無賃乗車特典拡張に関する請願の趣旨説明『請願委員第四分科会議録』6、3 月 1 日

海軍軍縮等について海軍大臣に質問『予算委員会議録』21、3 月 18 日

### 第 46 回通常議会(1922 年 12 月 27 日～1923 年 3 月 26 日)

社会政策方針について質問、1 月 30 日『官報号外』6、1923 年 1 月 31 日

総理大臣の輔弼責任、山東問題に対する譲歩等について質問『予算委員会議録』7、9、1923年2月2、12日

軍備整理等について陸軍大臣に質問、2月5日『予算委員第四分科会議録』2、2月5日

外務省所管予算の羅馬法王庁に代表者駐派に関する経費削除について発言『予算委員第一分科会議録』6、1923年2月10日

軍人恩給法中遺族扶助料法改正に関する請願等について趣旨説明『請願委員第一分科会議録』6、1923年3月5日

日支条約廃棄の両国交渉、対支文化事業特別会計法案について質問、3月15日『官報号外』32、1923年3月16日

### 第47回臨時議会(1923年12月11～23日)

震災直後の不祥事件、震災による罹災民救護について質問、12月15日『官報号外』5、1923年12月16日[「国務大臣ノ演説ニ対スル質疑」と題して、琴乗洞編『朝鮮人虐殺に関する知識人の反応 1』<関東大震災朝鮮人虐殺問題関係史料 3>(緑蔭書房、1996年)抄録]

支那政府特派調査委員の資格及待遇に関する質問主意書[12月21日提出の書面]『官報号外』9、1923年12月24日

### 第49回臨時議会(1924年6月28日～7月18日)

移民の保護奨励、対支文化事業等について質問のうえ外務省所管予算原案に同意、7月5、8日『予算委員第一分科会議録』1、2、1924年7月5、8日

陸軍教育総監部・科学研究所、国民の軍事教育等について質問7月6日『予算委員第四分科会議録』1、1924年7月6日

金鶏勲章年金改正に関する請願趣旨説明、7月7日『請願委員第一分科会議録』1、1924年7月7日

### 第50回臨時議会(1924年12月26日～1925年3月30日)

支那における治外法権撤廃について答弁、2月4日『予算委員第一分科会議録』2、1925年2月4日

ロシアにおける日本総領事館設置予定について答弁、2月25日『小樽港に露国領事館設置に関する建議案外一件委員会』1、1925年2月25日

日露漁業協約改定に関して答弁、3月3日『予算委員会議録』9、1925年3月3日

青島付近の邦人経営に係る農業について答弁、3月10日『予算委員第一分科会議事速記録<貴族院>』4、1925年3月10日

同盟及連合国と独逸国及其同盟国との戦争に因り損害を被りたる帝国臣民の救恤に関する法律案に就いて政府の所見陳述、3月20日『清国及朝鮮国在留帝国臣民取締法廃止法律案委員会』5、1925年3月20日

日支条約に拠る満洲土地商租権施行細目協定解決に関する請願について政府委員として答弁、3月23日『請願委員会議録』13、1925年3月23日

シベリア住民に対し資金融通に関する請願について政府委員として答弁、3月25日『吉会線本契約締結促進に関する建議案外一件委員会議録』1、1925年3月25日

### 第 51 回通常議会(1925 年 12 月 26 日～1926 年 3 月 25 日)

- 国務大臣の演説に対する質疑への答弁、1 月 27 日『官報号外』8、1926 年 1 月 28 日
- 移民政策、二重外交批判、北樺太の利権等について答弁、2 月 5 日『予算委員会議録』6、7、14～16、2 月 5、6 日、3 月 5、6、8 日
- 大正 15 年度外務省所管予算の概要説明及び補足説明、2 月 14、19 日『予算委員第一分科会議録』1、4、1926 年 2 月 14、19 日
- 対支文化事業の機関について答弁、2 月 24 日『対支文化事業特別会計法中改正法律案委員会議録』4、1926 年 2 月 24 日
- 法案提出の遅れについて弁明、2 月 25 日『対支文化事業特別会計法中改正法律案委員会議録』5、1926 年 2 月 25 日
- 国際労働に関する九箇条原則について答弁、3 月 1 日『労働争議調停法案外一件委員会議録』5、1926 年 3 月 1 日
- 関稅定率法中改正法律案に関する質疑の答弁、3 月 10 日『官報号外』25、1926 年 3 月 11 日
- 尼港漁業者の損害救済に関する請願に関して答弁、3 月 12 日『請願委員会議録』、1926 年 3 月 12 日
- 対支文化事業特別会計法中改正法律案の説明、3 月 16 日『官報号外<貴族院>』26、1926 年 3 月 16 日
- 大正九年に於ける尼港事変及オコーツク事変の為損害を被りたる者の救恤に関する法律案に関する質疑に対する答弁、3 月 19、20 日『大正九年に於ける尼港事変及「オコーツク」事変の為損害を被りたる者の救恤に関する法律案委員会議録』1、2、1926 年 3 月 19、20 日
- 大正九年に於ける尼港事変及オコーツク事変の為損害を被りたる者の救恤に関する法律案の説明、3 月 22 日『官報号外<貴族院>』28、1926 年 3 月 22 日
- 大正九年に於ける尼港事変及「オコーツク」事変の為損害を被りたる者の救恤に関する法律案の趣旨説明と質疑に対する答弁、3 月 23 日『大正九年に於ける尼港事変及「オコーツク」事変の為損害を被りたる者の救恤に関する法律案特別委員会議事速記録<貴族院>』1、1926 年 3 月 23 日
- 輸入禁止のロシア共産党新聞紙について答弁、3 月 24 日『議員梅田寛一君の行動に関する調査の件委員会議録』9、1926 年 3 月 24 日

### 第 52 回通常議会(1926 年 12 月 26 日～1927 年 3 月 25 日)

- サハリン州引揚民救済の件について答弁、3 月 8 日『請願委員第二分科会(外務省、内務省、文部省)議事速記録<貴族院>』4、1927 年 3 月 8 日

### 第 53 回臨時議会(1927 年 5 月 4～8 日)

- 施政方針演説中外交方針につき総理大臣に質問、5 月 5 日『官報号外』2、1928 年 5 月 6 日

### 第 55 回特別議会(1928 年 4 月 23 日～5 月 6 日)

- 陸軍大臣による山東事件報告について質問、5 月 4 日『官報号外』7、1928 年 5 月 5 日
- 陸軍大臣による済南事件報告について質問、5 月 5 日『官報号外』8、1928 年 5 月 6 日
- 軍人遺族扶助料に関する請願趣旨説明及び採択要請、5 月 5 日『請願委員会議録』3、1928 年 5 月 5 日



### 第 56 回通常議会(1928 年 12 月 26 日～1929 年 3 月 25 日)

対支外交について質問、1 月 22 日『官報号外』3、1929 年 1 月 23 日

日支関税協定に関する緊急質問、2 月 5 日『官報号外』12、1929 年 2 月 6 日

済南事件の交渉について質問、3 月 22 日『官報号外』39、1929 年 3 月 23 日

政府委員の答弁に対して質疑、3 月 24 日『雪害調査機関設置に関する建議案外二件委員会議録』1、1929 年 3 月 24 日

### 第 58 回特別議会(1930 年 4 月 23 日～5 月 13 日)

移民政策、綿布関税等について答弁『予算委員第一分科会議録』1、1930 年 5 月 5 日

済南事件の被害について答弁『昭和三年度第一予備金支出の件(承諾を求むる件)外六件委員会議録』4、1930 年 5 月 8 日

ロシア領の漁業権について答弁『請願委員会議録』、1930 年 5 月 9 日

昭和 4 年度外務省所管予定経費追加要求書について説明『予算委員第二分科会議事速記録<貴族院>』1、5 月 11 日

国務大臣の演説に関する質問に対する答弁、5 月 12 日『官報号外<貴族院>』13、1930 年 5 月 13 日

### 第 59 回通常議会(1930 年 12 月 26 日～1931 年 3 月 27 日)

満蒙政策について委員松岡洋右と論戦『予算委員会議録』7、1931 年 1 月 31 日

国際決済銀行に租税等を課せざることに関する法律案に関する質問への答弁、2 月 3 日『官報号外』9、1931 年 2 月 4 日

ウラジオストックにおける朝鮮銀行支店の問題等に関する答弁『震災被害者に対する租税の減免猶予等に関する法律案外一件委員会議録』4、1931 年 2 月 10 日

満洲における日・支の鉄道収益に関する答弁、2 月 14 日『予算委員第一分科会議録』2、1931 年 2 月 14 日

国際聯盟に決議に関連して公娼制度廃止に関する意見陳述『公娼制度廃止に関する法律案委員会』2、1931 年 2 月 19 日

臘虎臘肭猯(ラッコ・オットセイ)の猟業に関する国際条約について説明、2 月 23 日『請願委員第二分科会議録』3、1931 年 2 月 23 日

昭和四年度予備金外に於て予算超過及予算外支出の件追加(承諾を求むる件)に対する質問への答弁、2 月 26 日『官報号外』19、1931 年 2 月 27 日

昭和六年度外務省所管予算の説明及び質疑に対する答弁『予算委員第二分科会議事速記録<貴族院>』2、1931 年 3 月 6 日

臘肭猯(オットセイ)保護条約について答弁『予算委員第一分科会議事速記録<貴族院>』4、3 月 7 日

### 第 62 回臨時議会(1932 年 6 月 1～14 日)

朝鮮人保護について答弁、6 月 3 日『官報号外』3、1932 年 6 月 4 日

満州産鉄鉱、南洋ラワン材について答弁、6 月 4 日『官報号外』4、1932 年 6 月 5 日

満洲における四頭政治の弊害、満州国の財政、殖民地当局者更迭について答弁、6 月 4 日『官報号外<貴

族院>』3、1932年6月5日

満州における各種行政機関の連絡統制について答弁、6月7日『昭和七年法律第一号中改正法律案（満州事件に関する経費支弁の為公債発行に関する件）外四件委員会議録』2、1932年6月7日

移民政策等について答弁、6月7、8日『予算委員会議録』、1932年6月7、8日

日満経済関係について答弁、6月9、10日『関稅定率法中改正法律案外一件委員会議録』4、5、1932年6月9、10日

満洲移民等について答弁、6月11、13日『予算委員会議事速記録<貴族院>』2、3、1932年6月11、13日

樺太森林伐採及木材の移出制限の請願、6月13日『官報号外<貴族院>』8、1932年6月14日

### 第63回臨時議會(1932年8月23日～9月4日)

前樺太長官休職の件について答弁、8月25日『官報号外』3、1932年8月26日

植民地救療事業等について答弁、8月28～30日『予算委員会議録』4～6、1932年8月28～30日

南洋開發について答弁、9月1日『予算委員会議事速記録<貴族院>』1、1932年9月1日

### 第64回通常議會(1932年12月26日～1933年3月25日)

外地に対する教育方針について答弁、1月21日『官報号外<貴族院>』2、1933年1月22日

軍縮案に関する答弁、1月23日『官報号外』4、1933年1月24日

道会、在満朝鮮人保護等について答弁、1月25日『官報号外』6、1933年1月26日

満鉄の疏安製造計画について答弁、1月25日『官報号外』6、1933年1月26日

日満経済関係等について答弁、満蒙放棄論・拓務省廢止論につき自己一身の弁明、植民地行政官の人事異動、拓務行政の根本方針等について答弁、1月26～28、30日、2月1～3日『予算委員会』2～5、7～9、1933年1月26～28、30日、2月1～3日

満鉄経営等に就いて答弁、1月31日、2月2、20日『造幣局工場及其の付屬設備の新當費に関する法律案外二件委員会議録』3、5、10、1月31日、2月2、20日

日満両国間経済関係、満洲移民、満鉄事業について答弁、2月2日『官報号外<貴族院>』8、1933年2月3日

思想問題に関する緊急質問への答弁、2月2日『官報号外<貴族院>』8、1933年2月3日

移殖民政策等について答弁、2月8日『予算委員第一分科会議録』4、1933年2月8日

南洋政策等について答弁、2月15、17、18、20日『予算委員會議事速記録<貴族院>』2、4～6、1933年2月15、17、18、20日

朝鮮米・台湾米の統制、朝鮮産米計画等について答弁、2月22、25、27日『米穀統制法案外一件委員会議録』5、7、8、1933年2月22、25、27日

満洲の試験移民等について答弁、3月1、2日『予算委員第六分科會議事速記録<貴族院>』4、5、1933年3月1、2日

外地政策の予算編成等について答弁、3月7日『決算委員會議録』9、1933年3月7日

満鉄経営方針等について答弁、3月7日『造幣局工場及其の付屬設備の新當費に関する法律案特別委員會議事速記録<貴族院>』3、1933年3月7日

樺太地方鉄道補助法中改正法律案の提出理由の説明、3月10日『官報号外<貴族院>』23、1933年3月11日

南満州鉄道株式会社引受に関する法律案の趣旨弁明、3月11日『官報号外』25、1933年3月12日

満鉄増資案の概要説明及び質疑に対する答弁、3月14、16、17日『南満州鉄道株式会社の株式引受に関する法律案委員会議録』2~4、1933年3月14、16、17日

東拓事業について答弁『予算委員会』13、3月17日

満鉄増資案の概要説明及び質疑に対する答弁、3月20、22~24日『南満州鉄道株式会社の株式引受に関する法律案特別委員会議事速記録<貴族院>』1~4、1933年3月20、22~24日

南満州鉄道株式会社の株式引受に関する法律案の提出理由の説明および答弁、3月20日『官報号外<貴族院>』27、1933年3月21日

南満州鉄道株式会社の株式引受に関する法律案について答弁、3月25日『官報号外<貴族院>』31、1933年3月26日

### 第65回通常議会(1933年12月26日~1934年3月25日)

関東州の統治機構・行政能率等について答弁『予算委員会議事速記録<貴族院>』1、8、14、15、2月14、22日、3月1、8日

外地米について答弁、1月23日『官報号外』3、1934年1月24日

満州国に対する経済工作等について答弁、1月27、29、31日、2月2、3、5日、3月1、6、7、19、22日『予算委員会議録』3、4、6、8~10、12、16、17、21、22、1月27、29、31日、2月2、3、5日、3月1、6、7、19、22日

満鉄、満州移民、朝鮮治水事業について答弁、2月1日『官報号外<貴族院>』9、1934年2月2日

東洋拓殖会社について答弁、2月2日『官報号外<貴族院>』10、1934年2月2日

東洋拓殖会社について答弁、2月5日『官報号外<貴族院>』11、1934年2月6日

南洋興発株式会社に関する答弁の訂正および関連説明、2月6日『官報号外<貴族院>』12、1934年2月7日

満鉄について答弁、2月7日『官報号外<貴族院>』13、1934年2月8日

樺太拓殖事業、台湾の領有目的等について答弁、2月7、8日『予算委員第一分科会議録<貴族院>』2、3、1934年2月7、8日

内外地米穀政策、満州移民、間島、満鉄について答弁、2月16日『官報号外<貴族院>』17、1934年2月17日

昭和九年度拓務省予算について説明および質疑に対する答弁、3月2、3、5日『予算委員第六分科会議事速記録<貴族院>』1~3、3月2、3、5日

貿易調節及通商擁護に関する法律案に関する答弁、3月10日『官報号外』21、1934年3月11日

朝鮮事業公債法中改正法律案に関連して朝鮮鉄道と満鉄との連絡統一について答弁、3月12日『台湾事業公債法中改正法律案外一件委員会議録』15、1934年3月12日

臨時米穀移入調節法に対する答弁、3月13日『官報号外』22、1934年3月14日

朝鮮私設鉄道補助法中改正法律案及び台湾私設鉄道補助法中改正法律の趣旨弁明、1934年3月15日『官報号外』23、1934年3月16日

朝鮮米に関する質疑について答弁、3月24日『臨時米穀移入調節法案特別委員会議事速記録<貴族院>』2、1934年3月24日

ブラジルの日本移民制限に関する緊急質問に対する答弁、3月24日『官報号外』28、1934年3月25日  
議員中橋徳五郎君薨去につき弔詞贈呈の動議、3月25日『官報号外』30、1934年3月26日[「故中橋徳  
五郎君」と題して『私の信念と体験』収録]

朝鮮私設鉄道補助法中改正法律案及び台湾私設鉄道補助法中改正法律案の提出理由の説明、3月23日『官  
報号外<貴族院>』31、1934年3月24日

### 第69回特別議会(1936年5月4～26日)

台湾拓殖株式会社法案の両院協議会議長としての議事進行等、5月24、25日『台湾拓殖株式会社法案両院  
協議会議事速記録』1、2、1936年5月24、25日

台湾拓殖株式会社法案の両院協議会の経緯および成案について報告、5月25日『官報号外』17、1936年  
5月26日

### 第71回特別議会(1937年7月25日～8月7日)

電力政策について答弁、7月27、28日『官報号外』3、1937年7月28、29日

船舶法改正法律案について答弁、7月30日『官報号外』8、1937年7月31日

議会制度改革および民間航空事業に関する答弁、7月30日『官報号外<貴族院>』5、1937年7月31日

船員法改正法律案の質疑に対する答弁、7月31日、8月3日『船員法改正法律案委員会議録』2、4、7月  
31日、8月3日

満洲・朝鮮に対する交通の利便性増進について答弁、8月1日『予算委員会議録』6、1937年8月1日

船員法改正法律案快晴の要旨説明及び質疑に対する答弁、8月4、6日『船員法改正法律案特別委員会議事  
速記録<貴族院>』1、3、1937年8月4、6日

民間航空に関する質問等に対して答弁、8月5日『予算委員会議事速記録<貴族院>』3、1937年8月5  
日

### 第72回臨時議会(1937年9月4～8日)

臨時船舶管理法案の提案理由の説明及び質疑に対する答弁、5～7日『臨時船舶管理法案委員会議録』1～  
3、1937年9月5～7日

臨時船舶管理法案の趣旨弁明、9月5日『官報号外』2、1937年9月6日

臨時船舶管理法案提案理由の説明、9月7日『官報号外<貴族院>』4、1937年9月8日

臨時船舶管理法案の追加説明及び質疑に対する答弁、9月7、8日『臨時船舶管理法案特別委員会議事速記  
録<貴族院>』1、2、1937年9月7、8日

### 第73回通常議会(1937年12月26日～1938年3月26日)

電力管理法案外三件の提案趣旨説明および質問への答弁、1月25日『官報号外』6、1938年1月26日

電力管理法案外三件の提案趣旨補足説明および質問への答弁、1月26、31日、2月1～4、7、8、10、12、14  
～16、18、19、21～26、28日、3月7日『電力管理法案外三件委員会議録』1～13、15～23、25、1938年1  
月26、31日、2月1～4、7、8、10、12、14～16、18、19、21～26、28日、3月7日

民間航空に関する答弁、1月28日『官報号外<貴族院>』6、1938年1月29日

航路の改善について答弁、2月2日『予算委員会議録』9、1938年2月2日  
海運事業・電話事業の改善等について答弁、2月3日『予算委員会議録』10、1938年2月3日  
昭和十三年度通信省所管予算の大体の説明、2月5日『予算委員第六分科会議録』2、1938年2月5日  
上海大東放送局の拡充等に就いて答弁、2月7日『予算委員第六分科会議録』3、1938年2月7日  
防空政策について答弁、2月15日『予算委員会議事速記録<貴族院>』3、1938年2月15日  
昭和十三年度通信省所管予追加算の説明、2月22日『予算委員会議録』21、1938年2月22日  
昭和十三年度通信省所管予算の大体の説明、2月26日『予算委員第五分科会議事速記録<貴族院>』3、  
1938年2月26日  
電力管理法案外三件提案理由の説明及び答弁、3月8日『官報号外<貴族院>』20、1938年3月9日  
電力の国家管理に関する四法案の趣旨説明補足及び答弁、3月9、10、12、14~20、23、25日『電力管理法案  
特別委員会議事速記録<貴族院>』1、2、4~11、13、15、1938年3月9、10、12、14~20、23、25日  
航空機製造事業の指導統制等について答弁、3月15日『航空機製造事業法案委員会議録』4、1938年3  
月15日  
航空拡充に関する決議案について答弁、3月22日『官報号外』32、1938年3月23日  
日満経済の相互関係について答弁、3月23日『支那事変特別税法案特別委員会議事速記録<貴族院>』3、  
1938年3月23日  
昭和十三年度通信省所管追加予算の大体の説明、3月24日『予算委員会議事速記録<貴族院>』16、1938  
年3月24日  
電力管理法案外三件提案理由の説明について答弁、3月25日『官報号外<貴族院>』31、1938年3月  
26日

### **第75回通常議会(1939年12月26日~1940年3月26日)**

貴衆両院議員諸費増額に関する請願について政府委員として説明『請願委員会議録(速記)第13回』1940  
年3月22日

### **第79回通常議会(1941年12月26日~1942年3月25日)**

大東亜教育体制確立に関する建議案の趣旨弁明、2月12日『官報号外』13、1942年2月13日[『大東亜  
に於ける新教育体制』(大政翼賛会東亜局、1942年3月)、『興亜論集』収録]

### **第81回通常議会(1942年12月26日~1943年3月25日)**

鉱業技術者の大学教育方面に関して政府委員として答弁『石油専売法案外二件委員会議録(速記)第15回』  
1943年2月22日

専門学校定員、御真影、『国体の本義』などに関して政府委員として答弁『請願委員会議録(速記)第9回』  
1943年3月24日

### **第82回臨時議会(1943年6月16~18日)**

米英撃摧一億敢闘決議案の趣旨弁明、6月18日『官報号外』3、1943年6月19日[「亜細亜民族総進軍の  
秋 先駆せよ! 日本国民」と題して『大陸新報』に要旨掲載]

#### 第 84 回通常議会(1943 年 12 月 26～1944 年 3 月 24 日)

大日本育英会法案外二件に関する政府委員としての答弁『大日本育英会法案外二件委員会議録(速記)第 2 回～第 5 回』1944 年 1 月 24～27 日

官立大学・専門学校理工科系定員の増員等について政府委員として答弁『決算委員会議録(速記)第 2 回』1944 年 1 月 31 日

高等学校・専門学校新設等の請願について政府委員として答弁『請願委員会議録(速記)第 4 回』1944 年 2 月 5 日

農科大学・医学専門学校新設等の請願について政府委員として答弁『請願委員第二分科(内務省、大蔵省、司法省、文部省、厚生省及運輸通信省所管)会議録(速記)第 1 回』1944 年 3 月 20 日

薬学専門学校名変更並内容改善に関する建議案について政府委員として答弁『建議委員会議録(速記)第 4 回』1944 年 3 月 22 日

#### 第 86 回通常議会(1944 年 12 月 26～1945 年 3 月 25 日)

学徒動員に関する質問について政府委員として答弁『第 86 回帝国議会衆議院 予算委員第三分科(大蔵省及文部省所管)会議録(速記)第 2 回』1945 年 1 月 29 日

青年学校に関する質問について政府委員として答弁『兵役法中改正法律案外二件委員会議録(速記)第 2 回』1945 年 1 月 30 日

簿記等の短期学習奨励、学徒報償金等に関する請願について政府委員として答弁『請願委員会議録(速記)第 3 回』1945 年 2 月 1 日

科学振興、学校の工場化に関する質問に政府委員として答弁『船員保険法中改正法律案委員会議録(速記)第 7 回』1945 年 2 月 1 日

高等専門学校・大学の特別科学教育、専門学校入学試験等に関する質問に政府委員として答弁『船員保険法中改正法律案委員会議録(速記)第 8 回』1945 年 2 月 2 日

戦時の女子専門学校等に関する質問に政府委員として答弁『船員保険法中改正法律案委員会議録(速記)第 9 回』1945 年 2 月 5 日

## 6. 評論集・演説集初出(または演説年月日・場所)

『英人氣質 思ひ出の記』実業之日本社、1910年8月28日

収録評論	初出	原題
緒言	『時事新報』 1909年12月22日	
1. 最初の印象	1909年10月18日付高田早苗宛書簡	
2. 彼等の忠君	『時事新報』 1911年3月7日	
3. 露帝を追ひ返す	『時事新報』 1911年3月27日	貴賓の冷遇
4. 千氏の高言	『時事新報』 1910年1月5日	英人の自負
5. 危険な迷信	『時事新報』 1910年1月6日	危険なる迷信
6. 「天下第一」	『時事新報』 1910年1月6日	天下第一
7. 愛国の三種	『時事新報』 1910年1月23日	
8. 危険な感情	『時事新報』 1910年1月22日	
9. 愛国美談	『時事新報』 1911年1月24日	
10. 競漕の其日	『時事新報』 1911年3月31日	自慢の仕損ひ
11. 野獣の本性	『時事新報』 1910年1月17日	
12. 猛烈な応援	『時事新報』 1911年3月18日	カーナボン事件
13. 政論の発達	『時事新報』 1910年1月28日	
14. 彼等の政見	『時事新報』 1910年1月29日	
15. 珍敷き家柄	『時事新報』 1911年3月19日	下院議長
16. ロ氏の機言	『時事新報』 1910年1月11日	ロ卿の頓智
17. 討論の天才	『時事新報』 1910年1月17日	グ氏の良心
18. 彼等の頭脳	『時事新報』 1911年3月14日	虞翁の頭脳
19. 千氏の奇癖	『時事新報』 1911年3月15日	
20. 胃中の靈魂	『時事新報』 1909年12月29日	
21. 思切た悪戯	『時事新報』 1910年1月15日	
22. 学生の乱暴	『時事新報』 1910年1月15日	
23. 意外な返答		
24. 日本人はストイツクだと存じ候	『時事新報』 1910年12月26日	
25. 開放し主義	『時事新報』 1911年2月15日	
26. 開放さぬ一件	『時事新報』 1911年2月16日	
27. 思切た恋文	『時事新報』 1911年2月28日	
28. 男女の交際	『時事新報』 1910年1月8日	
29. 御客の接待	『時事新報』 1910年1月7日	
30. 彼等の宴会	『時事新報』 1911年2月17日	英人は無愛想に非ず
31. 苦敷き思出	『時事新報』 1911年2月24日	ジャックの御馳走
32. 社交の一節	『時事新報』 1911年4月1日	
33. 背広主義	『時事新報』 1911年3月28日	
34. 立派な心掛	『時事新報』 1910年1月30日	
35. オーダー	『時事新報』 1911年3月13日	彼地に居て
36. 自由の古里	『時事新報』 1911年3月6日	自由の郷土
37. スキートホーム	『時事新報』 1910年1月7日	
38. 美敷き貞操	『時事新報』 1910年1月8日	夫婦の愛情
39. 離婚の理由	『時事新報』 1911年2月28日	
40. 巴里より一筆申上候	『時事新報』 1911年3月8日	
41. 親子の間柄	『時事新報』 1911年2月6日	接吻の拒絶
42. 無粋な干渉	『時事新報』 1911年2月27日	宗教と結婚
43. 「異教徒」	『時事新報』 1911年2月26日	宗派的感情
44. 人類の禍根	『時事新報』 1911年3月29日	「白人の負担」
45. 血腥き号外	『時事新報』 1911年3月30日	千氏の死刑
46. 英雄崇拜	『時事新報』 1910年1月5日	
47. 虞翁の遺跡	1909年5月1日付田中穂積宛書簡	
48. 流行の意味	『時事新報』 1911年2月26日	
49. 英人の物好	『時事新報』 1911年2月21日	物好きな求婚
50. 「嘔吐！」	『時事新報』 1909年12月28日	
51. オール、フルス、デイ	『時事新報』 1909年12月28日	
52. 英国の学者	『時事新報』 1909年12月27日	
53. 彼等の先生	『時事新報』 1911年2月11日	
54. 大学の学風	『時事新報』 1911年2月12日	紳士の学風
55. 学問の独占	『時事新報』 1911年2月10日	学問の壟断
56. 英国の地主	『時事新報』 1911年3月4日	
57. ノ公の暴言	『時事新報』 1910年1月20日	

58. 倫敦の名物	『時事新報』 1910年1月27日	
59. パンの圧迫	『時事新報』 1911年2月7日	家庭の煩悶
60. 出産の減少	『時事新報』 1911年2月8日	英国の出産率
61. 英国の醜業	『時事新報』 1911年2月9日	英国の醜業婦
62. 酒屋の繁盛	『時事新報』 1911年2月19日	飲酒の習慣
63. 子供の喫煙	『時事新報』 1911年2月20日	
64. 婦人の地位	『時事新報』 1910年1月10日	婦人の勢力
65. 最高の生物	『時事新報』 1910年1月10日	『最高なる生物』
66. 女性の奮闘	『時事新報』 1909年12月22日	
67. 美人の配達	『時事新報』 1909年12月24日	
68. 血染の草案	『時事新報』 1909年12月24日	
69. 母様の勢力	『時事新報』 1910年12月26日	
70. 可愛き駁論		
71. ロ氏の名誉	『時事新報』 1911年14日	
72. 新聞の品格	『時事新報』 1910年1月25日	
73. 羅馬と亦及はず	『時事新報』 1911年3月22日	英国未衰説
74. 文明の秘訣	『時事新報』 1910年2月13日	
75. 僧侶の性格	『時事新報』 1911年3月16日	僧侶の勢力
76. 僧正気質	『時事新報』 1911年3月17日	
77. 彼等の迷信	『時事新報』 1910年1月21日	英人の迷信
78. 卓上の便器	『時事新報』 1910年1月4日	
79. 糞臭い牡丹	『時事新報』 1911年3月2日	肥料と牡丹
80. 早起き法案	『時事新報』 1911年3月1日	英人は寝坊
81. 牛津の一夜	『時事新報』 1911年2月18日	
82. 音楽の普及	『時事新報』 1911年3月12日	
83. 冒険の気象	『時事新報』 1911年2月23日	
84. 宰相の球遊び	『時事新報』 1910年1月4日	
85. 英人の早熟	『時事新報』 1909年12月29日	
86. 英人の晩衰	『時事新報』 1909年12月31日	
87. 八十の婚礼	『時事新報』 1910年1月4日	
88. 気永き国民	『時事新報』 1911年3月25日	
89. 三片の催促	『時事新報』 1911年2月2日	
90. 慈善の流行	『時事新報』 1910年2月4日	
91. 物貰ひ根性	『時事新報』 1910年2月5日	
92. 風変の根性	『時事新報』 1911年2月24日	勘定の方法
93. オリエンタル、エコノミスト主筆の依頼に応じてロンドンエコノミスト主筆の写真を探し廻るの記	『時事新報』 1911年2月22日	
94. 先例の詮議	『時事新報』 1911年3月11日	経験本位論
95. 風流の趣味	『時事新報』 1910年1月11日	
96. 日本食美論	『時事新報』 1911年2月25日	
97. 彼等の任侠	『時事新報』 1911年3月24日	
98. 郵便局美談	『時事新報』 1911年3月27日	
99. 優敷き広告	『時事新報』 1911年2月24日	
100. 著者の結論	『時事新報』 1911年4月2、3日	

\*官吏の親切(1911年3月5日)、ブ氏の沈着(1911年3月9日)、彼地の宿(1911年3月26日)は、収録を確認できない。

## 『社会問題と植民問題』新興社、1912年12月15日

収録評論

初出

### 緒論

第1節 世界の煩悶

『新日本』1-1、1911年1月1日

第2節 非天下泰平論

『新日本』2-1、1912年1月1日

### 第1編 社会問題

#### 第1章 總論

第1節 社会の分裂

社会問題『早稲田学報』196、1911年6月1日の二～五、六の第2段落までを収録

第2節 富力の集中

第3節 訴ふる能はざる者に代りて訴ふ 『新日本』2-8、1912年8月1日

#### 第二章 都市社会問題論

第1節 工場の悲劇

第2節 失業の研究



第3節 労働組合論	『新日本』2-5、1912年5月1日
<b>第3章 農村社会問題論</b>	
第1節 大地主と小作人	
第2節 地方農民の都市集中	『日本経済新誌』8-8、1911年1月18日
第3節 田舎繁昌論	五反百姓論『新日本』1-4、1911年4月1日
<b>第4章 餘論</b>	
第1節 何故米國に社会主義の振はざるかを論じて日本政府の社会政策に及ぶ	社会主義の勢力米國に振はざる所以を論じて日本政府の移民政策に及ぶ『新日本』2-4、1912年4月1日
第2節 上杉博士の「予算先議論」を読む	『新日本』2-2、1912年2月1日
第3節 兵役税起すべし	『新日本』2-10、1912年10月1日
<b>第2編 植民問題</b>	
<b>第1章 總論</b>	
第1節 植民的成功の要件を論ず	
第2節 ノルマンエンゼル氏著「現代戦争論」を読む	冒頭部分は、天下の愚論一『新日本』1-5、6、1911年5月1日、二以下は未詳
<b>第2章 欧米植民論</b>	
第1節 英領印度の産業政策	英領印度の外国貿易『外交時報』146、1910年1月10日
第2節 大英主義と全米主義	『外交時報』162、1911年5月10日
第3節 独逸の膨脹と独逸の商人	独逸の商人『新日本』1-9、1911年9月1日
第4節 仏國軌近の植民政策	『外交時報』172、1912年1月1日
第5節 伊太利人の植民事業	『外交時報』152、1910年7月10日
<b>第3章 日本植民論</b>	
第1節 拓殖局の存廢を論ず	拓殖局廢すべからず『新日本』2-6、1912年6月1日
第2節 非南進論	南進主義の植民政策『外交時報』156、1910年11月10日
第3節 滿韓集中論	滿韓集中論『太陽』16-13、1910年10月1日
第4節 滿鉄会社を戒む	
第5節 東拓会社を戒む	東拓会社の改悪『新日本』2-4、1912年4月1日
<b>第4章 餘論</b>	
第1節 白禍論	『新日本』2-3、1912年3月1日
第2節 仲裁々判論	『新日本』1-7、1911年7月1日

『残飯—青年諸君に頒つ—』南北社、1914年6月[20日]

収録評論

初出

<b>第1章 天地有情</b>	
第1節 不文の聖書	『六合雑誌』359、1910年11月1日 1912年講演於早稲田教会。
第2節 神秘の威厳	講演筆記は、『護教』1085、1912年5月17日に掲載。
第3節 何人か詩人にあらざる	1913年講演於本郷中央会堂 講演筆記は、『護教』1145、1913年7月11日に掲載。
第4節 茅原君の「第三帝国論」を読む	人生の最大疑問—茅原君の『第三帝国論』を読む—『雄弁』5-4、1914年4月1日
<b>第2章 超人耶蘇</b>	
第1節 超人論	
第2節 耶蘇の耶蘇教	
第3節 耶蘇の社会観	宗教に対する吾人の観念 其二 耶蘇の社会観『世界之日本』4-8、1913年8月1日
第4節 耶蘇の雄弁	宗教座談(其一) 耶蘇の雄辯『世界之日本』4-11、1913年11月1日
<b>第3章 死生</b>	
第1節 自殺論 (其一)	
第2節 自殺論 (其二)	
第3節 復活	
第4節 決闘	1911年5月10日、早稲田大学科外講義。 講演筆記は、『早稲田講演』1-1、1911年6月1日に掲載。
<b>第4章 現代政治</b>	
第1節 我精神界の二大王国	精神的二大王国建設の兆あり『実業之世界』10-23、1913年12月1日
第2節 自力政治と他力政治	
第3節 院内の議会与院外の議會	『中央公論』29-4、1914年4月1日
第4節 軍備拡張の裏面暴露—クルップ事件の真相—	軍備拡張裏面暴露—クルップ事件の真相—『東京日日新聞』1913年11月5~8日

## 第5章 女性

- 第1節 婦人は男子の政治に盲従すべきか 『婦女新聞』711、712、1914年1月2、9日  
第2節 新しき女 新しき女を論ず『中央公論』28-9、1913年7月15日  
1912年2月戊申婦人倶楽部例会講演、講演筆記は「真正の美人」『婦女新聞』615、616、1912年3月1、8日  
第3節 美人  
第4節 愚母愚妻に与ふ

## 第6章 黄人白人

- 第1節 茅原君の「日本国民性」を読む 『早稲田講演』2-8、1912年12月1日  
第2節 白人の土地と黄人の勞力-兵力の衰微に対する予防の必要-  
第3節 齟齬と文明  
第4節 英国最古の模範大学 『東洋時論』1-2、1910年6月1日

## 第7章 凡非凡

- 第1節 リンコロンを憶ふ  
第2節 ビスマルク公を憶ふ 『新日本』3-6、1913年6月1日  
欧米政界人物覚書『東洋時論』1-2~4、6、1910年6月1日、7月1日、8月1日、10月1日  
第3節 大人小話

## 『野声 政治時論』莫哀社、1916年2月24日

### 収録評論

### 初出

- 第1章 緒論  
一受動的日本より発動的日本へー 『新日本』5-11、1915年11月1日
- 第2章 海内時論  
第1節 天下三分論 『新日本』3-7、1913年7月1日  
第2節 選挙権拡張論 『新日本』3-3、1913年3月1日  
第3節 選人に檄す 1915年2~3月  
第4節 総選挙終る 1915年3月25日  
第5節 変説当然論 『新日本』4-9、1914年8月1日  
第6節 蘇峰先生の「時務一家言」を読む 『新日本』4-2、3、5、1914年2月1日、3月1日、4月3日  
第7節 学習院無用論 『新日本』2-12、1912年12月1日  
第8節 澤柳、加藤両博士の国定教科書論を読む 『新日本』5-1、1915年1月1日
- 第3章 海外時論  
第1節 須らく海外に発展す可し 『実業之世界』10-9、1913年5月1日  
第2節 西班牙植民政策失敗の原因 『朝鮮公論』1-1、1913年4月1日  
第3節 植民政策の一大錯誤  
第4節 所謂六十三号論-台湾特別立法制度改良私案- 『新日本』5-12、1915年12月1日  
第5節 非モンロー主義論 『新日本』4-7、1914年6月1日  
第6節 非モンロー主義の駁論に答ふ 『新日本』4-8、1914年7月1日  
第7節 米国の突進 『新日本』4-12、1914年10月1日  
第8節 対支外交の根本方針 『新日本』4-1、2、1914年1月1日、2月1日  
第9節 土耳其が欧州より駆逐せらるるは、日本の外交上有利なるや將た不利なるや 『新日本』3-2、1913年2月1日  
第10節 今日の英国と明日の英国 『外交時報』200、1913年3月1日  
第11節 世界の欠伸 『新日本』4-12、1914年10月1日
- 第4章 時人論  
第1節 大統領リンコロンに代つて大統領ウチルソンに興ふ 『新日本』3-5、1913年5月1日  
第2節 犬養毅氏に興ふ 1915年4月  
第3節 フランツ・ヨゼフ老帝を憐む 『新日本』4-10、1914年9月1日  
第4節 日本の政治家を憐む 『新日本』3-4、1913年4月1日  
第5節 ステツト氏を弔ふ 『新日本』2-7、1912年7月1日  
第6節 桂公を弔ふ 『新日本』3-12、1913年11月1日

## 『改造の理想』精禾堂、1920年5月25日

### 収録評論

### 初出

- 第1章 改造の原理 『中外新論』3-11、1919年11月1日  
第2章 社会改造と其根本思想  
第1節 新しき「吾れ」と新しき政治 『新日本』7-6、1917年6月1日

- 第2節 那翁戦後の政治革命と世界戦後の経済革命 『雄弁』10-11、1919年10月1日
- 第3節 社会改造と其理想
- 第4節 政党改造の真意義
- 第5節 男子専制より男女同治へ
- 第3章 世界改造と其根本思想**
- 第1節 肉食人種と菜食人種との別を論じて東西文明の特質に及ぶ 肉食人種と菜食人種の異同を論じて東西両文明の調和を説く『中央論』32-1、1917年1月1日
- 第2節 日本民族の世界文化的使命
- 第3節 帝国主義より共存主義へ  
(其一) 帝国主義の進化 帝国主義の進化を論ず『新日本』7-8、1917年8月1日  
(其二) 「立正安国」 外交立正安国論『新時代』2-5、1918年5月1日
- 第4節 対米外交の根本思想
- 第5節 対米外交の根本方針
- 附録**
- 1 戦時及戦後の欧米観たまま 1919年7月2日講演速記於大阪市中央会堂
- 2 講和会議に暴露したる日本外交の時代錯誤 講和会議に暴露したる我外交の時代錯誤『大阪毎日新聞[夕刊]』1919年6月15~18、20、21、23~27日

『永井柳太郎氏大演説集』1924年2月28日(25日印刷) <48版、1924年8月25日>

- 収録演説** 演説年月日、主催者、演説会名、演説場所、演説筆記等
- 1 余は何故に代議士たらんと欲する乎 1917年4月1日、衆議院議員立候補演説於金沢市
- 2 「来たり、見たり、敗れたり」 1917年4月22日、感謝演説於金沢市兼六公園
- 3 「西にレーニン、東に原敬」 1920年7月8日、第43回帝国議会衆議院演説
- 4 普通選挙の根本義 1922年3月23日、第45回帝国議会衆議院演説
- 5 世界をして全人類の世界たらしめよ 1918年4月10日、海外植民学校設立記念講演会於東京青年会館
- 6 自主独立の対支外交 1923年3月15日、第46回帝国議会衆議院演説
- 7 「メツテルニヒ今何処ぞ」 1920年7月22日、民権自由の擁護演説於東京神田青年会館
- 8 第二維新の大同團結起れ！ 1920年10月27日、政界革新の民衆演説於京都公会堂
- 9 善政の第一義は何ぞ 1921年6月27日、超然内閣攻撃演説於東京神田青年会館
- 10 共存共栄の大帝国 1922年9月22日、植民政策演説於自由討究社主催朝鮮問題講演会
- 11 正義人道何くにか在る 1923年12月15日、第47回帝国議会衆議院質問演説
- 12 廢墟の中より生れ出づる新文化 1923年11月28日、大震災記念講演於金沢市公会堂
- 13 人形乎、人間乎 1920年9月26日、国民婦人会第一回講演会。講演筆記は、「予の婦人観」(石川六郎編『婦人問題講演集 第1輯』民友社、1920年)、演説集収録時に改題。
- 14 神を求むる心[1924年3月7日版では「日本民族の平民的熱血」と改題] 1923年4月、最近宗教思想界批判講演於金沢市松山寺読書会
- 15 日本参戦の理由及功果 1918年9月3日、カリフォルニア州サクラメント市州立物産展覧会のジャパン・デイで英語講演

『永井柳太郎氏大演説集』大日本雄弁会講談社、[増補版108版]1926年9月25日<15~19の5篇を追加>初版発行日は1924年3月7日、2月25日印刷日

- 収録演説** 演説年月日、主催者、演説会名、演説場所、演説筆記等
- 1 余は何故に代議士たらんと欲する乎 1917年4月1日、衆議院議員立候補演説於金沢市
- 2 『来たり、見たり、敗れたり』 1917年4月22日、感謝演説於金沢市兼六公園
- 3 『西にレーニン、東に原敬』 1920年7月8日、第43回帝国議会衆議院演説
- 4 普通選挙の根本義 1922年3月23日、第45回帝国議会衆議院演説
- 5 世界をして全人類の世界たらしめよ 1918年4月10日、海外植民学校設立記念講演会於東京青年会館
- 6 自主独立の対支外交 1923年3月15日、第46回帝国議会衆議院演説
- 7 メツテルニヒ今何処ぞ 1920年7月22日、民権自由の擁護演説於東京神田青年会館
- 8 第二維新の大同團結起れ！ 1920年10月27日、政界革新の民衆演説於京都公会堂
- 9 善政の第一義は何ぞ 1921年6月27日、超然内閣攻撃演説於東京神田青年会館
- 10 共存共栄の大帝国 1922年9月22日、植民政策演説於自由討究社主催朝鮮問題講演会
- 11 正義人道何くにか在る 1923年12月15日、第47回帝国議会衆議院質問演説
- 12 廢墟の中より生れ出づる新文化 1923年11月28日、大震災記念講演於金沢市公会堂

- 13 人形乎、人間乎  
1920年9月26日、国民婦人会第一回講演会。  
講演筆記は、「予の婦人観」(石川六郎編『婦人問題講演集 第1輯』民友社、1920年)。
- 14 神を求むる心  
1923年4月、最近宗教思想界批判講演於金沢市松山寺読書会
- 15 神は労働者を愛す  
【目次では「労働即礼拝」】  
1925年6月13日、宗教講演(於金沢市仏教会館)
- 16 青年をして其天職を遂げしめよ  
1917年1月、演説(於早稲田大学雄弁会)
- 17 苦学生を祝す  
1917年6月、演説(於早稲田工手学校生徒大会)
- 18 社会局ありて、社会政策なし  
1923年1月30日、社会政策に関する質問演説(於第46議会)
- 19 民衆立国  
1924年7月1日、第49議会報告演説(於金沢市尾山座)
- 20 日本参戦の理由及功果  
1918年9月3日、英語講演於カリフォルニア州サクラメント市州立物産展覧会のジャパン・デイ

### 『世界政策十講』白揚社、1925年6月30日

#### 収録評論

#### 初出

- 力の外交乎、法の外交乎  
1923年正月稿
- 第一義に生くる国家は強し  
1923年6月稿
- 帝国主義外交と其崩壊—権力均衡時代と其資本主義的崩壊—  
1915年7月稿
- 世界米化主義と世界文化主義との対立としての日米問題  
1921年1月稿
- 光は東方より  
1921年8月稿
- 亜細亜の黎明期と我外交  
1923年12月稿
- 東西文化の生理的考察  
1911年12月19日社会政策学会第4回大会第2日講演(於早稲田大学講堂)。
- 太陽没せざる二大帝国—植民史上の大教訓—  
1911年12月19日社会政策学会編『市営事業』同文館、1911年)
- 世界戦後の植民思想
- 産めよ、殖えよ、地に満てよ—出産率上の一危険—

### 『永井柳太郎氏大演説集 第二集』大日本雄弁会講談社、1930年1月15日

#### 収録演説

#### 演説年月日、主催者、演説会名、演説場所、演説筆記等

- 1 傍若無人論  
1927年10月9日、雑誌『雄弁』主催演説会(於東京青山会館)。  
講演筆記は以下に掲載。『雄弁』18-12、1927年12月1日
- 2 新興勢力の抬頭を祝して  
1925年11月1日、於金沢市日本海青年党聯盟発会式。講演筆記は以下に掲載。『新使命』2-12、1925年12月1日
- 3 婦人の人間性解放  
1928年6月13日、婦人矯風会主催バトラー夫人誕生百年記念講演会。講演筆記は以下に掲載。『婦人新報』365、1928年8月1日、『廓清』18-9、1928年9月10日
- 4 第二維新の指導精神  
1929年3月24日、都下各大学学生主催主催政局批判演説会(於東京青山会館)。講演筆記は以下に掲載。『雄弁』20-10、1929年10月1日
- 5 打倒掠奪政治  
1929年4月22日、報知新聞社主催第五十六議会批判講演会。講演筆記は以下に掲載。『雄弁』20-5、1929年5月1日
- 6 ウイルソンよりムツソリーニ迄  
1927年6月11日、大阪市有恒倶楽部での講演。講演筆記は以下に掲載。『有恒倶楽部講演集 第四回』有恒倶楽部、1927年9月15日
- 7 民政党は何を爲さんと欲するか  
1927年6月1日、民政党創立記念演説会於東京青山会館
- 8 民政党は挙党殉国の意気  
1929年9月22日、議会報告演説於金沢市公会堂
- 9 民政党の対外見地より  
1927年5月5日、第53回帝国議会衆議院演説  
1928年6月30日、大倉高等商業学校。講演筆記は以下に収録。  
東亜事情研究会編『現代支那事情の研究』大阪屋号書店、1928年9月27日
- 10 支那新旧勢力の衝突  
1928年5月5日、第55回帝国議会衆議院演説
- 11 済南事件に直面して  
1929年1月23日、第56回帝国議会衆議院演説
- 12 大乘外交乎、小乗外交乎  
1919年7月2日、公開演説於大阪市中ノ島公会堂
- 13 欧州より米国へ、米国より何処へ?  
1929年11月20日、大日本雄弁会講談社社員会
- 14 私は労働者たるを誇る  
1928年9月15日、富山県婦女会大会於富山市婦女会
- 15 太陽主義

『私の信念と体験』岡倉書房、1938年9月15日

収録評論

初出

第1 宗教を語る

大宇宙と興に生くる心

1935年8月30日、駒澤大学主催宗教講演(於名古屋市公会堂)

宗教なき労働と労働なき宗教

1931年6月24日、駒澤大学弁論部主催「現代思潮講演会」(於日比谷公会堂)。演説筆記は下記に掲載。

『講演集』259、1931年7月20日

『雄弁』22-9、1931年9月1日

「日々是好日」

天と俱に生くべし『日の出』2-4、1933年4月1日

第2 人生を語る

素人の権威

日々に新なるべし『日の出』6-6、1937年6月1日

天下に無用の人間なし

汝生きんと欲せば人と俱に生くべし

1933年8月日本白十字会主催結核予防講演、演説筆記は、『母と子』14-12、1933年12月1日

『都新聞[夕刊]』1938年6月13日

病恩

第3 思想を語る

世界思潮の三大激流

1930年7月日本女子大学桜楓会夏期講演(於軽井沢)

人を人とする政治

『北国新聞』1931年1月1、4、6日

東洋と西洋

『教養』1938年7月

第4 青年に語る

汝自身であれ

黎明アジアの魂となれ『現代』15-1、1934年1月1日

青年に対し古今の偉人を語る

『現代』11-1、1930年1月1日

農村の青年に訴ふ

『家の光』12-13、1936年12月1日

第5 婦人に語る

日本再建に対する婦人の責任

国家再建に対する婦人の責任『婦人公論』20-1、1935年1月1日

母は家庭の太陽であれ

身を以て教えた我が母

身を以て示した母『家の光』12-9、1936年9月1日

女よ、天汝に世界を与ふ

『雄弁』19-9、1928年9月1日

第6 恩師を語る

徳富蘇峰先生

1934年10月5日蘇峰会主催国民史刊行記念講演(於東京市青山会館)、速記録は下記に掲載。

大衆史家蘇峰先生を語る『旬刊講演集』375、1934年10月30日

大衆史家としての蘇峰先生『講演の友』57、1934年12月20日

安部磯雄先生

恩師を憶ふ『キング』13-8、1937年7月1日

エストリン・カアペンター先生

万里の異境師の情に泣く『現代』10-3、1929年3月1日

第7 友人を弔ふ

故中橋徳五郎君

1934年3月25日、第65回帝国議会衆議院における弔辞

長尾半平君を弔ふ

1936年7月26日弔辞

第8 偉人を語る

人間としての大隈重信侯

『日の出』2-6、1933年6月1日

政治家としての大隈重信侯

1933年9月10日、中央公論社主催シェクスピア全集出版記念講演

三大先輩を語る

復讐は灰の中より生れん グラッドストーンとヂスレーリーの大論戦『世界大雄弁物語集』大日本雄弁会講談社、1929年1月1日

ブレーン・トラストとしての沙翁

『雄弁』18-1、1927年1月1日

グラッドストーン対ヂスレーリーの大論戦

ムツソリーニ首相の処女演説

第9 政治を語る

二・二六事件以後

(三)と(五)を政局随想『東京朝日新聞』1936年1月10、11日から抄出

政党再建の秋

『北国新聞』1935年1月1日

国家主義大衆党の檄

『日本国民』1-1、1932年5月1日

議会肅正より見たる第一党競争

『中外商業新報』1935年7月25、26日

第10 外交を語る

外に国際正義、内に社会正義  
日本なくんば亜細亜なし  
東洋政策即世界政策  
独逸国民に告ぐ  
**第11 戦争を語る**

戦はざる者に勝利なし

均しからざるを患ふ  
**第12 国土を語る**  
樺太  
台湾  
満洲に号令する者

1936年10月講演(於明治大学)  
1936年11月3日講演(於大阪市中之島公会堂)。  
講演筆記は、『雄弁』28-1、1937年1月1日、に掲載  
『時事新報』1936年1月10、12日  
1937年11月25日、日独防共協定一周年記念対独放送

1938年7月6日、事変一周年記念講演会(於日比谷公会堂)。  
講演筆記は、『支那事変一周年記念講演集』(国民精神総  
動員中央連盟、1938年)の他、下記に掲載。  
『講演』404、1938年7月20日  
『経国』5-8、1938年8月1日  
『南洋群島』4-8、1938年8月1日  
『民政』12-8、1938年8月1日  
『ラヂオ講演講座』44、1938年8月5日  
『雄弁』29-9、1938年9月1日  
『大阪朝日新聞』1938年7月11日

1933年8月23日講演(於報知新聞社主催「樺太の夕」)  
1933年6月17日、台湾文化普及会主催第37回台湾始政  
記念の夕(於朝日講堂)。  
満洲に君臨する者『日の出』3-3、1934年3月1日

『興亜論集 世界に先駆する日本』照文閣、1942年6月19日[改訂増補版:1943年1月19日]  
収録演説

**第1部**  
興亜運動の指導精神  
光は東方より  
アジア民族よ団結せよ  
ルーズヴェルト大統領に問ふ(第一)

再びルーズヴェルト大統領に問ふ(第二)

**第2部**  
宣戦の大詔を拜して  
日本は何故勝つか  
「世界史の創造者」日本  
共に戦ふ心

**第3部**

倒英興亜論

興亜に先駆すべき青年の使命  
天と興に起ち、天と興に戦ひ、天と興に  
勝つ  
一億一心の総力戦  
大東亜教育体制の確立  
大東亜を一単位とする交通政策

戦時下に於ける新政治体制とその指導精  
神

搾取民族は減ぶ

戦はざるものに勝利なし  
大日本行進曲

Some Questions for President Roosevelt  
(『Contemporary Japan』8-5、1939年7月)梗概  
ルーズヴェルト大統領に再び問ふ『改造』23-20、1941年  
10月1日

1941年12月9日、A・K放送  
1942年2月7日、全国国民学校生徒へのA・K朝礼放  
1942年2月17日、A・K放送  
1941年7月14日、A・K放送。  
講演筆記は、『婦女新聞』2147、1941年8月3日。

1939年7月4日、報知新聞主催排英演説会(於日比谷公会  
堂)。演説筆記は下記に収録。  
蒋の背後を衝く『英国を追放すー対英外交大演説集ー』報  
知新聞社、1939年7月17日  
1941年10月30日、官私大学々生聯盟主催「興亜学徒の夕」  
講演(於日比谷公会堂)  
1941年9月15日、満州国承認第九年記念講演(於日比谷  
公会堂)  
1941年10月4日、軍事保護院主催銃後奉公強化大講演会  
(於日比谷公会堂)  
1942年2月12日、第79回帝国議会議院演説  
1939年11月28日、帝国鉄道協会主催交通知識普及講演  
会。講演筆記は下記に掲載。  
『汎交通』41-1、1940年1月15日  
1941年5月2日、日本外交協会講演。講演要旨は下記の  
収録。『新政治体制と大政翼賛会の機能』[於日本外交協  
会471回例会席上]1941年5月、日本外交協会。  
<目次にはあるが収録されていない。増補版では目次から  
も削除>  
<目次にはあるが収録されていない。増補版で収録>  
<目次にはないが収録、増補版で削除>

『興亜論集 世界に先駆する日本』照文閣、1943年1月19日[改訂増補版]  
収録演説 演説年月日、主催者、演説会名、演説場所、演説筆記等

第1部

興亜運動の指導精神  
光は東方より  
アジア民族よ団結せよ

ルーズヴェルト大統領に問ふ(第一)

再びルーズヴェルト大統領に問ふ(第二)

Some Questions for President Roosevelt  
(『Contemporary Japan』8-5、1939年7月)梗概  
ルーズヴェルト大統領に再び問ふ『改造』23-20、1941年  
10月1日

第2部

宣戦の大詔を拜して  
必勝の原理  
<初版の「日本は何故勝つか」を改題>  
「世界史の創造者」日本  
共に戦ふ心

挙国体制の三大要件 <増補版で追加>

第3部

倒英興亜論

興亜に先駆すべき青年の使命

満洲建国の世界史的意義  
<初版の「天と興に起ち、天と興に戦ひ、  
天と興に勝つ」を改題>

アジアの黎明に先駆する日華両国  
<増補版で追加>

中華民国国民諸君に懇ふ  
<増補版で追加>

第4部

戦はざる者に勝利なし  
<増補版で追加>

母も亦、其の子と共に戦ふ  
<初版の「一億一心の総力戦」を改題>  
大東亜に於ける新教育体制の確立

大東亜を一単位とする交通政策

戦時下に於ける新政治体制とその指導精神

1941年12月9日、A・K放送  
1942年2月7日、全国民学校生徒へのA・K朝礼放送  
1942年2月17日、A・K放送  
1941年7月14日、A・K放送。  
講演筆記は、『婦女新聞』2147、1941年8月3日。  
1941年1月3日、A・K放送  
1939年7月4日、報知新聞主催排英演説会(於日比谷公会堂)。演説筆記は下記に収録。  
蔣の背後を衝く『英国を追放すー対英外交大演説集ー』報知新聞社、1939年7月17日  
1941年10月30日、官私大学々生聯盟主催「興亜学徒の夕」講演(於日比谷公会堂)  
1941年9月15日、満州国承認第九年記念講演(於日比谷公会堂)  
1942年7月23日、周仏海氏歓迎民衆大会於東京神田共立行動。講演筆記は下記に掲載。  
『講演の友』1942年8月  
1942年9月25日、首都歓迎民衆大会講演(於南京国民大会堂)。講演筆記は以下に掲載。  
『大陸新報』、1942年9月26日  
『講演』558、1942年10月30日

1938年7月6日、支那事変一周年記念講演会(於日比谷公会堂)、講演筆記は下記の通り各種あり。  
『講演』404、1938年7月20日  
『経国』5-8、1938年8月1日  
『南洋群島』4-8、1938年8月1日  
『民政』12-8、1938年8月1日  
『ラヂオ講演講座』44、1938年8月5日  
『雄弁』29-9、1938年9月1日  
1941年10月4日、軍事保護院主催銃後奉公強化大講演会(於日比谷公会堂)  
1942年2月12日、第79回帝国議会議院演説  
1939年11月28日、帝国鉄道協会主催交通知識普及講演会。講演筆記は下記に掲載。  
『汎交通』41-1、1940年1月15日  
1941年5月2日、日本外交協会講演。講演要旨は下記に収録。  
『新政治体制と大政翼賛会の機能』[於日本外交協会 471回例会席上]1941年5月、日本外交協会。

『永井柳太郎氏興亜雄弁集』竜吟社創立事務所、1944年6月20日  
収録演説 演説年月日、主催者、演説会名、演説場所、演説筆記等

雄辯論

第1 世界維新論

第2 ウイルソンよりムツソリーニまで

1918年4月、海外植民学校設立記念講演於東京青年会館  
1927年6月11日、講演於大阪市有恒俱樂部。講演筆記は『有恒俱樂部講演集 第四回』(有恒俱樂部、1927年9月15日)に収録。

- 第3 新興支那を觀る (その一) 1931年1月15日、支那視察の報告講演於東京柳会。演説要領は『雄弁』22-3、1931年3月1日に掲載。
- 第4 新興支那を觀る (その二) 1942年11月14日、海軍有終会主催の講演於東京水交社。1942年9月25日、講演於中華民國南京国民大会堂。講演筆記は『大陸新報』1942年9月26日、『講演』558、1942年10月30日に掲載。
- 第5 中華民國々民諸君に懇ふ 1943年2月27日、印度独立支援国民大会の講演於東京歌舞伎座。講演筆記は『講演通信』665、1943年3月10日、『講演時報』687、1943年3月25日、『講演』574、1943年4月10日に掲載。
- 第6 見よ英国の印度残虐史を(インドの大衆に懇ふ) 1943年6月28日興亜宗教同盟主催の興亜宗教協力会議開催に際し主催者側を代表せる開会の辞於東京日本青年館
- 第7 アジアは一なり 1937年2月11日、立憲民政党主催の政治演説於東京日比谷公会堂。講演筆記は『雄弁』28-4、1937年4月1日に掲載。
- 第8 日本再建の指導精神 1940年9月14日、新体制講演会講演於東京日比谷公会堂。講演筆記は「新体制の指導精神」と題して『新体制問題大雄弁録』(新興之日本社、1940年)収録
- 第9 世界再建の指導精神 (躍進日本の青年諸君に檄す) 1942年10月15日、全国々民学校教員大会の講演於東京教育会館
- 第10 国民誰か軍神たるべき血液を有せざるものぞ 1942年2月12日、第79回帝国議会議院に於ける大東亜教育体制確立に関する建議案の趣旨説明
- 第11 大東亜新教育体制の建議(興亜育英金庫の創設提唱) 1943年6月19日、第82回帝国議会議院に於ける米英撃摧一億敢闘決議案の趣旨説明
- 第12 天必興正義 1943年10月6日、学徒出陣記念講演於早稲田大学
- 第13 学徒の出陣に饒す 1941年3月25日、東京日本橋俱樂部に於ける特別講演。講演筆記は「新政治体制の必然性と其の統合性」と題して『講演通信』495、1941年4月15日に掲載。
- 第14 新政治体制の統合性と其の大衆性
- 第15 興亜人物論
- (一) 傑僧 石川舜台先生 1940年11月28日、石川舜台先生の追悼演説於金沢市公会堂
- (二) 聖雄 新嶋襄先生 1940年10月13日、新嶋襄先生逝去五十年記念講演於東京日比谷公会堂。講演筆記は、『新嶋襄先生五十年記念講演集』(同志社、1941年7月25日)収録
- (三) 先覚 徳富蘇峰先生 1936年11月7日、蘇峰先生文章報国五十年祝賀会の講演於東京青山会館